

中日会報

公益社団法人 中部日本書道会
 編集事務局 名古屋市中村区名駅二丁目45-19
 山ビル8階C号室
 電話 (583) 19000
 F A X (583) 19100
<http://www.cn-sho.or.jp>
info@cn-sho.or.jp
 印刷 株式会社 荒川印刷

名誉会長あいさつ

— 総会祝辞より —

名誉会長 海部俊樹



例年になく早い梅雨入りであつたことに昨今の気候変動についての違和感を感じました

が、会員の皆さんには、依然として続くコロナ禍にあつて、引き続き窮屈な思いを抱いて過ごされておられることと思います。また、会員の皆さんの中には、医療関係の分野に携わっておられる方もあるやに伺っておりますが、その苦労は大変なものがあるかと拝察します。このような状況下にあつて、医療従事者を皮切りに高齢者を対象にしたワクチン接種が加速的に進められようとしているのは、新型コロナウイルスに打ち勝つ光明といえるでしょう。また、聞くところによればワクチンのみならず特効薬についても研究が進んでいるとか。いずれにせよ、国民の生命と安心を担うことが使命の政治がイニシアティブを取り、各界の英知を結集させて、一日も早く新型コロナウイルスに打ち勝つことを期待

したいものです。

さて、一年延期を余儀なくされた第七十回記念中日書道展は、準備段階で三度目の緊急事態宣言が発出され非常に心配をいたしました。が、万全の対策をとって進められ開催運営の運びとなつたと伺い、安堵いたしました。また、展覧会は、七十回記念賞を筆頭に特別賞入賞作品や入賞作品、役員作品、令和を拓く大作作品と、文字通り中部地区最大規模の総合書道展にふさわしい展覧であつたとお褒めの言葉をいただき、会場へ足を運ぶことはできませんでしたが、大変うれしく思っております。コロナ禍にあつて、難題を克服し今回の書道展開催へと導いた伊藤仙游理事長はじめ執行部の皆さん、展覧会に関わられた関係者のご苦労と、出品された会員の皆さんのご努力に改めて敬意と感謝の意を表したいと思います。また、今回受賞された皆さん、まことにおめでとうございました。今後、日本の伝統文化である書道を通じて、文化芸術が発展するよう、どうか精進され、本会のためにご活躍されますことを願います。

目次

- 1 名誉会長あいさつ 名誉会長 海部俊樹
- 2 新理事長あいさつ 理事長 伊藤仙游
- 3 令和三年度総会開催 理事長 伊藤仙游
- 4 令和三年度第三回理事新顧問のご紹介
- 5 令和三年度企画委員 功勞者表彰・感謝状表彰・長寿お祝い
- 6 令和三年度 新役員
- 7 令和三年度 新企画委員
- 8 令和三年度 新役員
- 9 第七十回記念中日書道展概要
- 10 第七十回記念中日書道展を見る
- 11 オープンに満ちた世界 名誉顧問 西嶋慎一先生評
- 12 第七十回記念中日書道展審査総評
- 13 受賞者紹介
- 14 記念賞・海部俊樹賞・大賞・準大賞
- 15 中日賞・桜花賞作品評
- 16 一科・二科入賞者
- 17 第七十回記念中日書道展を終えて
- 18 令和三年度 新事務局
- 19 令和三年度総会議案書(抜粋)
- 20 第三十三回書道教育研究会のご案内
- 21 令和三年度公開講座のご案内

新理事長あいさつ

理事長 伊藤仙游



この度の改選にあたり、公益社団法人中部日本書道会の二期目となる理事長を拝命致しました

た。その責務の重大さが改めて心を占め、身の引き締まる思いでございます。思い起こしますと前期の二年間の内の後半は、新型コロナウイルスの猛威に翻弄された一年でした。中部日本書道会では、本会の最も中心的な行事である第七十回記念中日書道展が延期になり、また東京で行われる世界のスポーツの祭典にちなんだ予定しておりました「世界の書の祭典」は中止となるなど、様々な事業がその影響を受けることとなり、活動したくてもできないというジレンマに悩まされる日々でございました。昨年後半から今年にかけて事態が少しずつ好転し、念願でありました第七十回記念中日書道展を実施することができ、一歩前進できたように感じております。一年延期

にもかかわらず、出品数は昨年比で漸減に止めることができ、記念事業の「令和を拓く大作展」も無事開催することができました。これも偏に皆様方の温かいご協力とご尽力の賜物と心から感謝申し上げます。本会は八十七年の歴史と伝統を誇り、中部書壇の各会派が結集した総合書道団体として今日に至っております。昨今の社会情勢に様々問題はありますが、その歴史と伝統を踏まえて、更なる発展を目指してまいります。経験豊かな副理事長をはじめ理事・企画委員の先生方のお力を拝借して、精一杯努めさせて戴く所存です。

コロナ禍はまだまだ予断を許しません。賛否両論ありますがスポーツの祭典は開催されました。本会の活動ももう少しで通常通りの活動が出来る事と信じております。皆様楽しんで参加できる中部日本書道会を目指してまいりますので、今後とも本会の様々な活動に、絶大なるご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。私のごあいさつに代えさせていただきます。

令和三年度 総会開催

令和三年度公益社団法人中部日本書道会総会は、「名古屋観光ホテル」にて六月二十日午後一時三十分から伊藤理事長の挨拶に始まり、以下の議案について審議が行われ、承認されました。

今年度の総会は、新型コロナウイルス感染症の流行を鑑み、健康・安全面に考慮し、感染を防ぐためできる限り出席を控えていただき、委任状提出による出席をお願い致しました。

- 第一号議案 令和二年度事業報告の承認に関する件
- 第二号議案 令和二年度収支決算書の承認に関する件
- 第三号議案 財産目録の承認に関する件
- 監査報告
- 第四号議案 理事・監事の選任に関する件



総会風景

令和三年度 第三回理事会開催

令和三年度第三回理事会は、総会終了後新たに選任された理事により、名古屋観光ホテルにて開催されました。議案にそって慎重に審議され全ての議案が決定しました。

- 第一号議案 理事長・副理事長の選定に関する件
 - 理事長 伊藤 仙游
 - 副理事長 岡野 楠亭
 - 加藤 裕
 - 松本 英風
- 第二号議案 退任理事の役職人事について
 - 顧問 片山 清洲
 - 片山 清洲
 - 水谷 海越
 - 松浦 華苑
 - 山内 江鶴
- 第三号議案 事務局編成に関する件について
 - 本部署事務局及び支部長



理事会風景

令和三・四年度役員

※新は、新役員

名誉会長代行 樽本 樹邨

名誉副会長 安藤 滴水

鬼頭 翔雲

理事長 伊藤 仙游

副理事長 岡野 楠亭

加藤 裕

理事 天野 白雲

磯谷 凌聴

岩田 潤流

大池 青岑

大木 青嵐

加藤 矢舟

新川合 玄鳳

新川合 尚麗

工藤 俊朴

後藤 啓太

佐野 翠峰

鈴木 立齋

新高木 玄齊

監事 新遠藤 栄久

水野 峯翠

顧問 片山 清洲

松浦 華苑

水谷 海越

山内 江鶴

令和三・四年度企画委員

※新は、新担当部長

【事務局】

事務局長 横井 宏軒

企画委員長 大池 青岑

総務部長 天野 白雲

庶務部長 村瀬 俊彦

第一企画部長兼IT部長 佐野 翠峰

第二企画部長兼IT部長 上小倉 積山

第一経理部長 新磯谷 凌聴

第二経理部長 新神谷 光園

会員部長 内田 翠徑

第一事業部長 後藤 啓太

第二事業部長 馬場 紀行

研究部長 新廣澤 凌舟

第一教育部長 新武内 峰敏

第二教育部長 新川崎 尚麗

褒賞部長 水野 峯翠

渉外宣伝部長 新田中 修文

記録統計部長 山中 桂山

編集部長 林 柏堂

厚生部長 新加藤 矢舟

一宮支部長 川浦 碧濤

半田支部長 山内 江鶴

西三河支部長 加藤 松雲

東三河支部長 新村井 康山

濃飛支部長 三野島 凌雲

北勢支部長 伊藤 艸亭

中南勢支部長 谷 鴻風

岐阜支部長 新今田 紅溪

新顧問のご紹介

顧問

片山 清洲

水谷 海越

山内 江鶴

功労者表彰

常任顧問 (理事長退任)

関根 玉振氏

感謝状表彰

顧問 (理事退任)

梶山 夏舟氏

顧問 (理事退任)

木俣 紫香氏

顧問 (理事退任)

平松 采桂氏

理事 (理事退任)

故 大島 緑水氏

顧問 (監事退任)

伊藤 暁嶺氏

(支部長退任)

評議員 (西三河支部)

山口 律舟氏

評議員 (濃飛支部)

石原 聲風氏

評議員 (北西支部)

井口 方燕氏

評議員 (中南勢支部)

高根 桂祥氏

ご長寿お祝い

※本年度米寿をお迎えの先生方

(常任顧問)

安藤 秀川氏

太田 偕風氏

江崎婦沙子氏

黒田 玄夏氏

久留島睦子氏

加藤 千冬氏

中林 路風氏

幸村 溪雪氏

小島 大立氏

(顧問)

田中 白雲氏

近藤 雲洋氏

辻村 幸玉氏

長谷部青徑氏

酒向 虹風氏

坪井 揖溪氏

村田 華穂氏

津田 壽美氏

富田 光風氏

(評議員)

青木 渚香氏

西 恵香氏

(会員外)

安藤 惇氏

福田 ヒデ氏

加藤 栖崖氏

石原 聚芳氏

若山 峰凜氏

近藤 良夫氏

伊藤 静春氏

(正会員)

池田 宮子氏

改組新第八回 日展 審査員

顧問 近藤 浩平 先生

新役員の方々

※伊藤仙游理事長挨拶は、P1に掲載



新理事・監事紹介



新副理事長



新理事長



理事 大木 青嵐

この度は、公益社団法人中部日本書道会の理事にご推挙いただきまして、身に余る光栄と感

謝申し上げます。理事としての重責に身の引き締まる思いを痛感致しております。浅学非才な私ではありますが、先輩理事始め諸先生方のご指導の下、非力ではありますが、誠心誠意努力してまいりたいと思います。會員の皆様方のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



理事 川合 玄鳳

この度の役員改選により、先賢が築いてこられた伝統ある公益社団法人中部日本書道会の理事に推挙して頂き、身に余る光

栄と恐縮しております。書の浸透と発展に大きく貢献してきている本会の理事という今迄とは異なる立場に右往左往し、戸惑ったり、責務の重さに耐えられぬ事もあるかと思えます。諸先生方の御指導と、會員の皆様方の御支援・御協力ながら、更なる活動に、微力ながら全力で尽くして参る所存であります。何卒、宜しくお願い申し上げます。



理事 高木 玄齊

この度は、公益社団法人中部

日本書道会理事にご推挙いただき、身に余る光栄と心より感謝申し上げます。理事という責務の重大さに、身の引き締まる思いでございます。多くの諸先生方のご努力により築き上げられた、歴史と伝統ある本会が、一層発展する為に

も、微力ではございますが
精一杯努めてまいります。
今後とも何卒諸先生方の



理事 柘 英峰

この度は、輝かしい歴史
と伝統の中部日本書道会の
理事にご推挙賜りまして、
身に余る光栄、心から感謝
すると共に、その責務の重
さに身の引き締まる思いで
一杯です。

平成二十五年より四期、
監事として微力ながら中日
書道会のために仕事をし

ご指導ご鞭撻を賜りますよ
うお願い申し上げます。

参りました。その間、理事
の先生方の精力的なお仕事
ぶりを側で拝見させていた
だき、常に尊敬の念を抱い
ておりました。今回、自分
がその中に加わる事になり
大変な不安はありますが、
中部日本書道会の理念と品
格を堅持し、その名を汚さ
ぬ様、精一杯、会の発展の
ために職務遂行させていた
だきたいと存じます。

ご覧の如きの浅学非才で
はありますが、今後とも諸
先生方、会員の皆様のご指
導ご鞭撻を賜ります様、よ
ろしくお願い申し上げます。



理事 廣澤 凌舟

この度の役員改選により
図らずも理事にご推挙を賜
り身に余る光栄でございま

に微力ながら努めてまいり
たいと思えます。ご指導、



監事 遠藤 栄久

この度、公益社団法人中
部日本書道会の監事を拝命
することになり、その責務
の重さを痛感致しております。

本会は昭和九年の創立以
来、書文化の普及発展の為
に諸先輩の皆様が叡智を結

ご鞭撻の程よろしくお願い
申し上げます。

集されてこられました。浅
学非才の身ではあります
が、皆様のご支援を頂きな
がら誠心誠意、責務を果た
すべく尽力してまいります。

近年様々な厄災が私たち
の生活を脅かしております。
す。このような時にこそ言
葉の力・文字の力を書に託
し広く貢献していくことが
求められていると思われま
す。皆様のご理解ご協力を
頂き本会の発展に貢献した
いと思えます。何卒よろし
くお願い申し上げます。



監事 村上 史麗

もとより浅学非才な私
故、この立場と役職の重責
に身の引き締まる思いがい
たします。

コロナが猛威を振るい社
会全体が暗く沈みがちな今
だからこそ、心を豊かにす
る書道は大切であります。
伝統と歴史のある中部日
本書道会の一層の発展

この度は思いがけず、中部
日本書道会本部監事の大役
を仰せつかり、大変身の引き
締まる思いでございます。
一宮支部の所属ではござ
います。一宮支部の先輩

新企画委員の方々



第一経理部長

磯谷 凄聴

この度、第一経理部長と
いう大役を仰せつかりまし
た磯谷凄聴です。責任の重
大さに身の引き締まる思い
がいたしております。本会
の発展のために全力で取り
組んでまいりますので、本

会会員の皆様のご理解、ご
協力をお願いいたします。
さて、昨年度は新型コロナ
ウイルス感染症拡大の影響
を受け、様々な行事が延
期、あるいは中止となって
しまいました。本年度もま
だまだ不透明ではありますが、公益社団法人としての
責任を果たすことができる
よう、新体制のもと会員の
皆様と進んでまいりたいと
存じます。微力ではありま
すが、何卒よろしくお願
い申し上げます。



第二経理部長

神谷 光園

本年度より第二経理部長
という重責を担うこととな
りました。三千七百人を超
える大きな組織の中で経理
を担当すること、身の引き
締まる思いです。今までは

総会に出席する度に、金額
の大きさに驚くとともに、
正確な会計を報告されるこ
とに敬意を感じていまし
た。会計のことをあまり知
らない私ができるような経理
に携わることについて、不
安を感じざるを得ません
が、各支部の先生をはじめ、他の委員の先生方にご
指導いただきながら業務
を遂行していきたいと思
います。どうかよろしくお願
い申し上げます。



研究部長 廣澤 凌舟

この度、研究部長を拝命し身の引き締まる思いでございます。

研究部は「公開講座」「講演会」が主な仕事になります。

す。

会員の皆様のみならず一般の方まで幅広く楽しんでいただける様に頑張っております。

理事長はじめ諸先輩方、前任の武内峰敏先生にご指導を仰ぎ、研究部次長、委員の皆様にお力をお借りして精一杯努めさせていただきます。

ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



第一教育部長

武内 峰敏

この度の役員改選により

第一教育部長を拝命致しました。中日書初め展が主な業務となります。不慣れな点も多くあるかと思えます。次長、委員の方々にお力添えをいただきながら、精一杯努めてまいります。何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



第二教育部長

川崎 尚麗

第二教育部長として、書道教育者の養成に関するこ

と。書道教育の普及に関することがあります。書道教育研修会がその一つです。書道の広域に渡る推進の助手となる様、書の良さ、生涯学習として、研修会を通して、今から始めたい方、更なる向上のお役に立てればと思います。すばらしい先生方の講



渉外宣伝部長

田中 修文

話、実技指導がスムーズに行なわれますよう、皆様の協力をお願い致します。

張りたいと思います。よろしくお願い致します。

この度、宣伝部長を仰せつかりました。書道の普及、書道芸術の高揚および書道教育に関する事業を行い、日本文化の発展に寄与することに微力ながら尽力する所存でございます。

理事長をはじめ企画委員の先生のご指導のもと進めていきたいと存じます。また、次長、委員の方々の協力を得て努めさせて頂きます。よろしくお願い申し上げます。



厚生部長 加藤 矢舟

この度は伝統と歴史ある公益社団法人中部日本書道会の役員改選により厚生部長を拝命し身の引き締まる思いでございます。会員の皆様の福利厚生と

各種集会、懇談会等の開催にあたり、会員相互の交流が円滑に運営できるよう努めてまいりたいと思えます。伊藤仙游理事長をはじめ副理事長、事務局長、企画委員の先生方のご指導を仰ぎ、次長、委員の皆様にご協力をいただきながら責務を果たしていく所存でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。



東三河支部長

村井 康山

この度、中部日本書道会東三河支部の支部長を仰せつかり身の引き締まる思いでございます。東三河支部は昭和五十一年四月初代支部長に石川雲鶴先生が就任され設立されました。これまでの東三河支部の発展にご尽力下さいました歴代支

部長先生に感謝申し上げます。昨年度は多くの支部事業の開催を断念致しましたが、七月開催の東三河支部展から感染対策を施して実施していく予定です。新型コロナウイルス感染拡大という経験したことのない非常事態だけではなく、今後多様な場面で迅速、的確な判断を行い会員の皆様の安全を考慮し東三河支部の発展のために努めてまいりますので、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



岐阜支部長

今田 紅溪

本年六月の岐阜支部総会に於いて、思いがけなく岐阜支部長を拝命いたしました。八十年を超える歴史、伝統を誇る公益社団法人中部日本書道会の岐阜支部長という大任に身の引き締まる思いを痛感しております。現在コロナ禍において大

変厳しい状況ですが、九月三日開催予定の「岐阜支部展」が無事開催の運びとなる事を願うばかりです。誠に微力ながら先輩諸先生方のご指導を仰ぎ、支部の会員のご協力のもと努めてまいります。何卒ご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



第70回記念 中日書道展

漢字、かな、近代詩文、少字数、篆刻・刻字

記念展特別企画「令和を拓く大作展」 第71回 中日書きぞめ展 上位作品展示

愛知県美術館
ギャラリー（愛知芸術文化センター 8階）
6月16日(水)～6月20日(日)

記念展特別企画「令和を拓く大作展」
審査顧問、特別出品、一科審査委員、二科審査委員、依嘱作品、無鑑査作品（かな、近代詩文、少字数、篆刻・刻字）
第70回記念賞、海部俊樹賞、大賞、準大賞、中日賞、桜花賞（第1部～5部）を含む一科推薦受賞作品（第1部～5部）
第71回 中日書きぞめ展 上位作品
午前10時から午後6時（金曜日含む）
最終日の20日(日)は午後4時まで

主催/公益社団法人 中部日本書道会・中日新聞社 後援/愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市、愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市 各教育委員会

名古屋市民
ギャラリー栄
6月15日(火)～6月20日(日)

無鑑査作品（漢字）
[同し、中日賞・桜花賞受賞作品は愛知県美術館ギャラリーに展示]
午前10時から午後6時
最終日の20日(日)は午後4時30分まで

名古屋市
博物館
6月17日(木)～6月20日(日)

一科作品
[同し、一科推薦受賞作品は愛知県美術館ギャラリーに展示]
午前10時から午後5時

6月23日(水)～6月27日(日)
二科作品
午前10時から午後5時
最終日の27日(日)は午後3時まで

出品数一覧表

	一部 (漢字)	二部 (かな)	三部 (近代詩文)	四部 (少字数)	五部 (篆刻・刻字)	出品点数
審査顧問	5 13	1	0	0	0	0 16
特別出品	0 0	0	0	0	0	0 0
一科審	-21 276	-8 60	-2 55	-3 33	-4 17	-38 441
二科審	-9 388	-3 81	1 111	0 35	-3 22	-14 637
依嘱	-14 287	0 57	-1 70	-4 16	-7 17	-26 447
無鑑査	-26 277	-16 46	1 83	-5 19	4 28	-42 453
無鑑査 ～21歳	-1 2	0 0	-1 0	0 0	0 0	-2 2
一科	-21 399	-15 59	-15 119	-6 32	-17 36	-74 645
(18～21歳)	-11 38	1 1	-4 13	-2 0	1 1	-15 53
(15～17歳)	-4 0	0 0	0 0	0 0	0 0	-4 0
二科	-26 311	-5 68	57 154	-11 21	5 54	20 608
(15～21歳)	22 341	4 9	23 155	-1 6	7 11	55 522
出品合計	-106 2,332	-41 382	59 762	-32 162	-14 186	-134 3,824

書家が心込めた3829点
多種多彩の書ぞろう
名古屋で中日書道展
第七十回記念中日書道展
(中部日本書道会、中日新聞社共催)が16日、メイン会場の名古屋・栄の県美術館で始まった。昨年はコロナ禍で中止となったが、今回は県美術館(二十日)で、のほか、名古屋市民ギャラリー栄(十五～二十日)、名古屋市博物館(十七～二十日、二十三～二十七日)で開催される。
中部日本書道会は約四千人の会員が所属する中部地区最大の書道団体。会員作品に加え、公募で寄せられた漢字、仮名、篆刻などの

作品合わせて三千八百二十九点が展示されている。県美術館では、流れるような筆致が美しい草書体の作品や、漢字と仮名が調和した作品など個性豊かな約千九百点が並び、開催七十回目を記念した特別企画「令和を拓く大作展」もあり、濃墨で力強さを表現した迫力ある作品が目立つ。伊藤仙游理事長は「書に関するあらゆるジャンルがそろっている。書家の心を込めた作品をぜひ見ていただきたい」と来場を呼び掛けている。入場料は各会場共通で三百円。小中高生は無料。

中日新聞 2021年6月17日 愛知県内版



愛知県美術館受付



賑わう展示会場

令和を拓く大作展

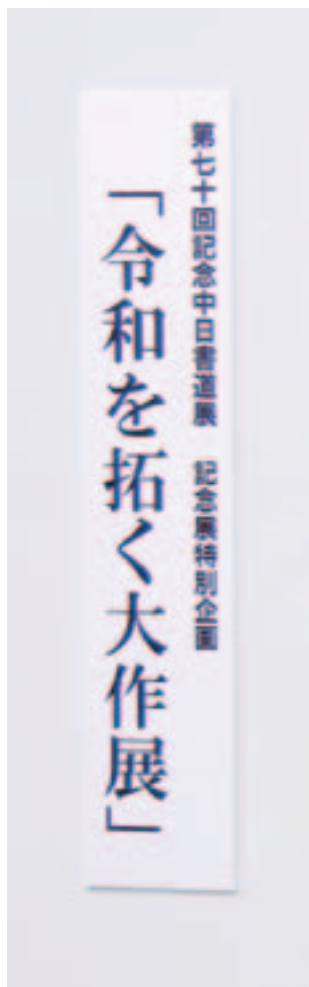
第七十回記念中日書道展 記念展 特別企画『令和を拓く大作展』を 開催して

第2企画・IT部長 上小倉 積山

第七十回記念中日書道展の記念展特別企画として「令和を拓く大作展」が愛知県美術館ギャラリーにて併催されました。今回の大作展は、二八〇cm×一八〇cmのパネルを舞台に理事長・副理事長をはじめとする中日書道会執行部の各部長・各支部長が、おのおの自由に表現した作品を展示しました。合計三十点もの作品が展示されるのは、過去の大作展でも無かった事であり、会場を訪れた方達にもそのスケールの大きさを十分に感じてもらえたようでした。また、漢字、かな、近代詩文、小字数、篆刻・刻字の五部門からなる本会の特徴を生かし、様々な表現形式を一同に展示することができたことも、他の書道展には無いものであったと思います。大きなパネルを生かした大字書はもちろん、あえて繊細な文字を利用ながらも大作書としての雄大さを見せている作品、通常の作品紙面ではとても表現することが出来ないほどの大胆で激しい動きを見せているもの、工夫をこらして篆刻作品を大作として表現したものなど、それぞれが大作という難題に様々な手法の限りを尽くして向き合っていることも、来場者には興味深く楽しめてもらえたように感じています。今回の大作展は、例年の中日書道展とは全く異なる作風を観ていただくことができただけではなく、公募展には無い書表現の多様性を示すことができたのではないかと思います。これを機会に更に多くの方が書に関心を持っていただくことができればと考えるとともに、ご来場いただいた方々に熱く御礼申し上げます。



大作展会場風景



※次号、中日会報二〇二号に「令和を拓く大作展」三十作品を掲載いたします。

オーラに満ちた世界

——第七十回記念中日書道展を見る——

名誉顧問 西嶋 慎一



一年振りの中日書道展は、何かオーラに満ちた世界であった。七十回記念展を迎え、会員の気持ちに一つの高まりが出たのである。どの作品も技術レベルが高い。記念賞を受けた作品が陳列された室に入ると、まるで整ったビルが屹立した空間にたえずむ思いに捕われた。技法修練をゆるがせにしない中日書道展の伝統が、本年はいつそう発揮されたかに見えた。

「令和を拓く大作」の展示が、この中日展の好ましい伝統に発する成果であった。理事長以下企画委員の三〇名が大画面にいとむ。大作は第二室から第三室にかけて展示されるが、いささか陳列が窮屈だ。せめて五割増しの壁面を用意して飾られれば、大作の輝きが増したのではないか。今回は大部屋に押しこめられた雑兵の扱いで、意欲作が多かっただけに勿体ない。

伊藤理事長は大きな筆の動きで感性豊かな世界を望む。松下副理事長も、淡墨であるが伊藤と同じ叙情世界を演じる。岡野副理事長は篆刻も書も技巧の粋を表わす。刻り行く力、書き行く力で作品の密度を高めている。加藤副理事長の「方丈記」は問題作だ。細字でビッシリと書き行く。文字や行の乱れを無視してずんずん書き進むさまは一つの傑出した感性の世界を感じさせる。今回展随一の問題作だろう。

の作品は自然と表現に工夫を凝らす競演となる。

画面を二つ、三つに割って行書きを試みる手法はやや常套に過ぎよう。行草作の殆んどがこれであった。なかで一つの大画面ととらえた磯谷凄聴の意気ごみは光る。川崎尚麗の文字に大小をつけ変化を求めた意欲も買える。坪井景照の大振りな横書きは整っていた。

横井宏軒、三野島凌雲の隸書、谷鴻風の楷書は、層々と積み上げた力が好ましかった。かなは村瀬俊彦、馬場紀行の闊達、水野峯翠のたゆたいが面白い。

後藤啓太の「鐵虎」は形破りだが求心力がある。上小倉積山の「戩鱗潜翼」が整い過ぎたのと好対象だ。広澤凌舟の「沸騰」も面白い。

役員作品はさすがに安定感がある。樽本樹邨、安藤滴水は遊び心豊かだ。伊藤仙游、安藤秀川は風格。後藤汀鶯の艶は逸品。鬼頭翔雲、関根玉振、平松紫雲も健在。早川泰山の作には眼を見張った。打ち込みが強く構造が充実している。松下英風は例の淡墨調だが、情に流れず骨格が有る。

黒田玄夏は竹取物語を素材とし艶を感じさせる作だ。お歳に似合わずかように初心な世界を生む気持の若さには敬服する。加藤裕は近頃凝っている宮沢賢治詩、法華経信者であった賢治の一途さを良く出している。

片山清洲は懐が広い。岩田澗流、加藤矢舟は着実な運筆、松永清石、工藤俊朴、松浦華苑の章法は魅力だ。山際雲峰の切れ味鋭い造型も健在。水谷海越は叙情に秀れる。山本雅月は細字仮名で気を吐く。タッチの強さは天性であろう。



第70回記念展をご高覧の西嶋慎一先生

記念賞は、草野慧泉、千葉晨翠、かなの堀部保子、今枝節峰が目につく。太田由香の詩文書も強い。岡田麗峰の篆刻は手堅い。海部俊樹賞の須田静波は着実な運筆が光る。かなの準大賞、加藤玉華のおおらかさ、鈴木裕子の筆の柔らかさも光った。

大賞の長谷川結の作は、今回展で最も輝やく一点ではないか。問合いが好ましく、バランスが取れて美事な造型だ。筆も軟らかい。まだ若い方だと聞くと、この天性の感覚を大事に育てて大成して欲しい。

第七十回記念中日書道展 審査総評

審査部長 岡野 楠 亭



第七十回記念中日書道展にご入賞されました皆様、誠にありがとうございます。衷心よりお祝い申し上げます。このたび第七十回記念展という

大きな節目の年に審査部長を務めさせて頂きましたこと、光栄に存じますとともに、その責任の重さに緊張しつつも無事審査を終了する事ができました。これも偏に経験豊富な副部長、主任の先生方のご理解ご協力のお蔭と感謝申し上げます。

さて今回の第七十回記念中日書道展は、昨春に発生した新型コロナウイルス感染症拡大による多大なる影響で、止むなく一年延期するという異例の事態に見舞われました。未だその収束が見えない現状が続いており、自粛生活を余儀なくされる中、この一年余り皆様におかれましては作品制作や指導現場において充分とはいえない状況であったことと思われれます。そんな中、本年度の総出品点数は三、八二九点と、前回の出品数より僅かな減少が見られたものの、当初心配を抱いていたほどの減少はございませんでした。これも指導にあられた先生方や出品者皆様の本展に対する熱意の賜と厚く御礼申し上げます。

審査は五月十四日(金)～十六日(日)の三日間、伏見の電気文化会館において感染症拡大防止対策として審査場の人数制限等々万全の体制を整えた上、各部とも公明正大に慎重なる選考にあたり、一党一派に偏することのないよう基本方針に基づき実施されました。

今回は記念展ということで入賞率を通常よりやや高く設定し、一科・二科作

品では入賞比率に基づきそれぞれ各賞を決定し、また特別賞につきましても選考委員により無監査作品の中から中日賞を各部一点の五点和桜花賞を、依頼作品の中から海部俊樹賞、大賞を各一点と準大賞を、そして今回は五年に一度の二科審査会員の作品から一科審査会員に昇格される記念賞九十八点が選考されました。いづれも厳

しい審査を経てのご受賞となり、改めてお祝い申し上げます。

また今回僅差により惜しくも賞を逃した作品の中にも非常に質の高い作品が多く見られ、本展の層の厚さを実感致しました。

書の作品制作において楽しみを感じるまでには長く険しい道のりがありますが、それには日頃の弛まぬ精進努力と継続することが必要不可欠となります。出品者皆様の今後より一層のご精進を期待致します。最後に、この度の審査に当たりご指導ご協力を頂きました方々に御礼申し上げますとともに、一刻も早く平和で安全な社会が取り戻せますことを願ひ審査総評と致します。



審査部長挨拶



審査準備

記念賞・海部俊樹賞・大賞・準大賞 受賞者紹介

〈作品評〉伊藤 仙游 (一部・記念賞)・松下 英風 (一部・海部賞・準大賞)・馬場 紀行 (二部)
加藤 裕 (三部)・波切 童州 (四部)・岡野 楠亭 (五部)



特 別 賞 選 考 委 員

記念賞

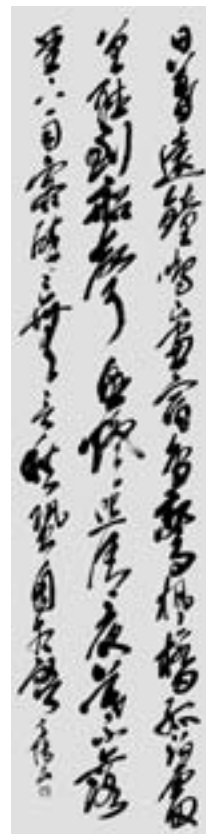
第一部 青山 高陽



この度記念賞を受賞でき、心より感謝と感激しております。これまで私の書活動を支えてくれた家族と書友の皆様へ感謝の気持ちでいっぱいです。勤めの関係で出品を控えていた時期がありましたので、今回の受賞は一層感慨深いもの

があります。社中の研究会で諸先生方のアドバイスとご指導が大いに作品づくりに役立ちました。作品の締切り日間際まで書込んだのが良かったかなあ…。と思っています。受賞を励みに、更に精進して参りたいと思っております。

〔評〕筆致雄勁にして構成大胆、流れも良く迫力あり。



記念賞

第一部 浅井 径桜



この度は、思いがけず記念賞をいただき、ありがとうございます。二年前には、長く勤めた仕事も区切りが付き、自分の時間が増えました。が、なかなか思い通りに書けるものではありませんでした。書くことが好きというだけで

続けているこんな弟子を、中学生になったときからの長い長い間、いつも温かくご指導くださっていただいております師匠に心より感謝申し上げます。この嬉しさを忘れず、これからも頑張りたいと思います。

〔評〕緻密な筆法で細部まで気力が行き届いた温雅な作。



記念賞

第一部 浅井紫泉



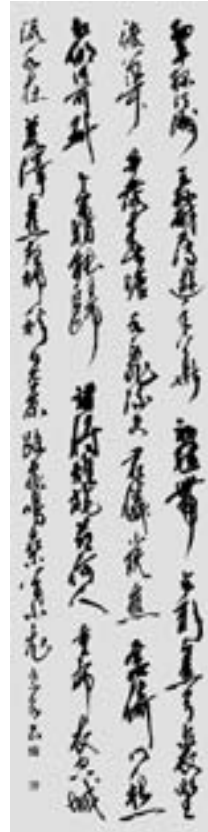
この度は、栄えある記念賞を賜り、誠にありがとうございます。これも偏に、熱心にご指導下さる師匠

を始め、諸先生方、又社中の皆様の支えの陰と深く感謝申し上げます。作品制作においては、墨量と線の流れを常

に意識してまいりましたが、充分な出来とは言えません。変わりゆく日常の中でも、感謝の気持ちと共に、筆を持つことが楽しいと思う今の気持ちを忘れずに書道が続けていきたいと思っております。責任ある賞の重さを自覚し、精進して参りますので、今後ともご指導の程お願い申し上げます。

〔評〕

縦への動きを生かし、流麗にして余白美し。



記念賞

第一部 家田翠徑



この度は第七十回記念賞を賜りまして、身に余る光栄と感謝の気持ちで一杯です。

姉の影響を受けて幼少時代より書道を習い始め、現在まで続けてこれましたのも、偏に師匠を始め諸先生方、社中の皆様、家族のお蔭と深く感謝申し

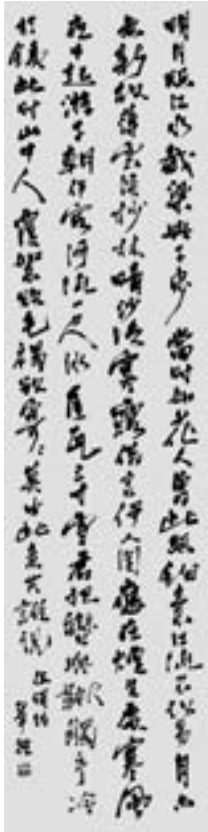
上げます。

今回の作品は、文字の強弱や行間、急いで書き進めてしまわないよう心掛けました。まだまだ未熟さを痛感するばかりですが、色々な作品に挑戦しながら楽しく書道が続けていけたらと思います。

この受賞を励みに精進して参りますので、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

連綿を極力抑制し放縦ままに躍る筆が幽美へと誘う。



記念賞

第一部 石川明加



この度は記念賞を頂き、喜びと身の引き締まる思いでいっぱいです。

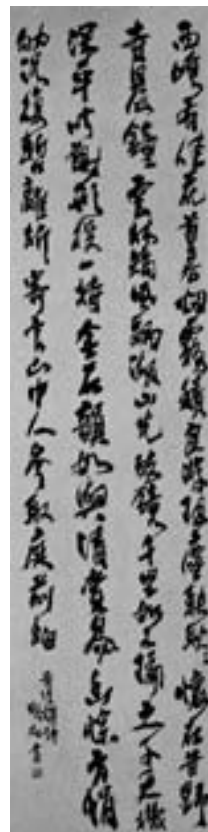
先生、先輩方の作品を日頃から拝見し、それぞれに作品の色を持っておられ、私もそんな風に自身の作品の色を出せるようになりたいと感じております。その為にも古

典を勉強し、練筆、作品の作り方を改めて勉強し直さなければいけないと感じました。平成生まれということもあり、もつと若い世代の方にも広く書に興味を持ってもらえるよう努力して参ります。

諸先生方、ご指導の程宜しくお願い致します。

〔評〕

墨量を豊かに使い、文字の自然な大小を生かして幽韻高し。



記念賞

第一部 伊藤杏華



第七十回記念中日書道展におきまして栄誉ある記念賞を賜り身に余る光栄と厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルスの影響で世界も一変し、何が大切か考えさせられる日々の中で、いつもとは違った思いでの作品作りとなりました。

した。作品は古典を踏まえて余白の美と緩急に富み潤いある練筆を心がけましたが、力不足で表現する事の難しさを痛感しております。今後はいつも温かく支えてくださる師匠、諸先生方、社中の皆様、そして書に携わることができ環境に感謝の気持ちを忘れず精進する所存でございます。

〔評〕

筆鋒自在に躍動して迫力充分、他を圧す力あり。



記念賞

第一部 犬飼 游華



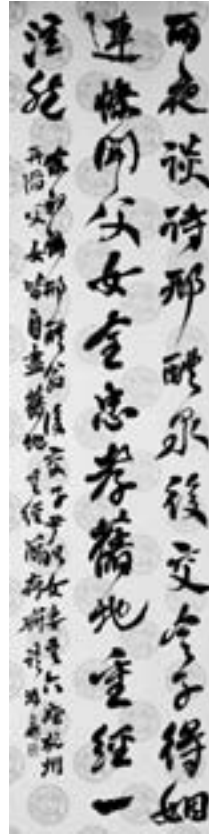
この度は第七十
回記念賞という栄
誉な賞を賜わり、
大きな喜びと同時
に身の引き締まる
思いでございます

す。これも偏に師を始め諸先生方のご指導の
賜と深く感謝申し上げます。
師からの勧めで何紹基を学び始めて、何度

も臨書を重ねてまいりましたが、やればやる
程古典の奥深さを実感し、試行錯誤を繰り返
しながら書き上げた作品でございます。
まだまだ未熟な私ですが、尚一層精進努力
して参る所存でございます。
今後共、御指導を心よりお願い申し上げます。

〔評〕

線条よく冴え、古意を汲みて充実感あり。



記念賞

第一部 岩 本 瑞 華



この度は、思い
がけず記念賞受賞
の知らせを頂き驚
いております。あ
りがとうございま
した。

在宅を求められる今、趣味としての書道の
おかげで時間を持て余すことなく日々、過こ
せています。時間、気持ち共に、余裕を持つ

て書く事ができ、自分で納得のいく作品を出
品することが出来ました。出品し続けて三十
数年。何の為にと思った時もありましたが、
続けてきて良かったと今は心から思えます。
楽しみながら、末永く続けられる様、今後
共、ご指導よろしくお願い致します。

〔評〕

潤濁と細線を利かして変化に富み、纏りも
良し。



記念賞

第一部 内 田 翠 径



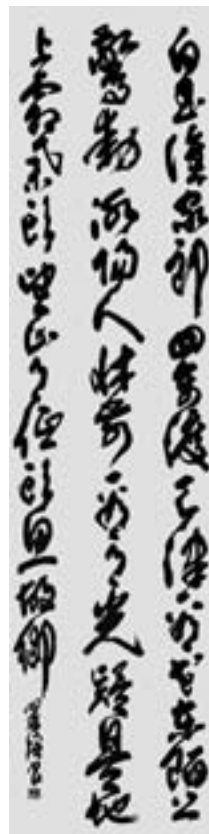
この度は、「第
七十回 中日書道
展記念賞」を頂戴
し光栄に思ってお
ります。又、師匠
の丁寧な指導や書

仲間の温かいアドバイスがあったからこそこの
結果だと感じております。
今回の作品は、「王鐸」の線質を意識しな

がら、起筆・連綿の書き方に重点を置き書き
上げました。
今後は、更に古典の臨書を怠ることなく学
び、書の基礎をしっかりと身につけた上で、
創作作品制作に取り組んでいくよう心がけて
いく所存でございます。ありがとうございます。

〔評〕

重量感ある伸びやかな線条で大らかに詠い
上げた作。



記念賞

第一部 大 鐘 紫 陽



この度は、第七
十回記念賞をいた
だき、誠にありが
とうございまし
た。喜びと感謝の
気持ちで、いっぱ

いでございます。
今回の作品につきましては、一貫とした気
脈を通じるよう心がけ、躍動感・墨量・心地

良い余白を、試行錯誤を繰り返してまいりま
した。
これからも、基本を大切にして、一層古典
を学び、書の奥深さ・豊かさを求めて励み、
そして、家族の理解と協力で心より感謝して
努力して参りたいと思えます。

〔評〕

筆良く紙面を捉え、強靱にして躍動感あり。



記念賞

第一部 太田 游山



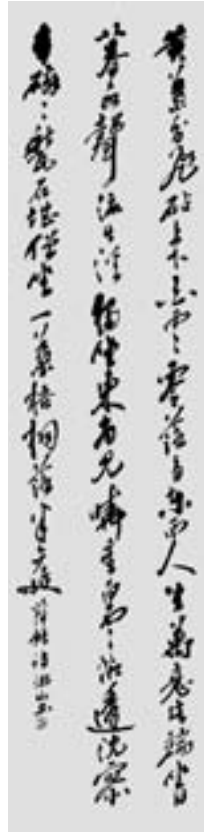
木々の緑もよう
やく深くなり若鮎
の踊る季節、思い
がけない御一報を
いただき、一瞬に
して梅雨空から晴
れ間が覗いた感じがいたしました。このよう
な身に余る光栄に浴することができましたの
も、小生を叱咤激励し、指導していただいた

師をはじめ、諸先輩方のお力の賜物と深く感謝いたしております。また、審査に当たられました諸先生方のご厚情に厚く御礼申し上げます。

今後も「書」を大いに味わい大いに楽しみ、「書」に邁進してまいります。更なるご指導ご鞭撻を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

筆致素直にして灑洒、白美しく残りて品位あり。



記念賞

第一部 小笠原 青華

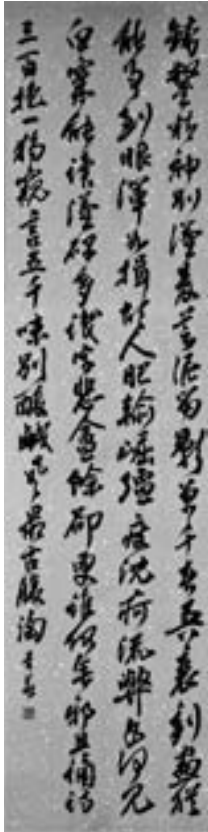


この度は、栄誉ある記念賞を賜り、厚くお礼申し上げます。これも偏に、日頃熱心にご指導くださる師匠、諸先生方のご支援、ご厚情、共に学ぶお仲間のお陰と心より感謝申し上げます。作品は行の流れ、線質の変化、墨量に留意して書

きましたが、制作の厳しさに力量不足を痛感しております。未熟な私には大変重い賞であります。今後も古典の臨書を大切にして、努力、精進してまいる所存です。宜しくご指導賜りますようお願い申し上げます。

〔評〕

古意をよく捉えて気迫に満ちた作、格調高し。



記念賞

第一部 奥村 三葉

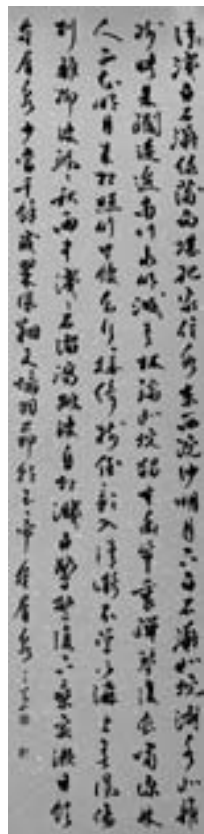


このたびは栄誉ある記念賞を賜り、心よりお礼申し上げます。
二十数年間ご指導いただいた亡き恩師、いつもあたたく励ましてくださる先生方。社中の皆様の書に刺激を受け、家族の理解に支えられ…。私が今こうして書道を続

けていられるのは、数多くの方々のおかげであると、改めて感謝しております。作品は繊細で鋭い王維の詩を、墨量と線質を意識して書きました。しかしまだまだ勉強することは多く、この受賞を機に一層精進して参りたいと思っております。今後とも何卒よろしくお願い致します。

〔評〕

単体による表現、大小の変化美しく筆致温雅なり。



記念賞

第一部 加地 孤握



この度は、栄誉ある記念賞を賜り誠にありがとうございます。幼少の頃から暖かくご指導くださいました師匠をはじめ、諸先輩方のお力添えにいただいたお蔭と厚くお礼申し上げます。また、「継続は力なり」の思いで習い続けることに

対し、家族の支えがあつたからこそと感謝しています。今回は、漢詩の诗情に少しでも近づける作品になるよう心掛け、行間の流れと余白に留意しました。この賞を励みとし頂いた賞に恥じぬよう努力を重ねる所存です。これからもご指導の程、よろしくお願いいたします。

〔評〕

気韻生動、線条よく冴えて紙面を切り裂くが如し。



記念賞

第一部 神谷 緑泉



振り返ってみると中日書道展は、私の書の出発点です。学生時代の表彰式段上、先輩方の輝かしい姿は、私も素晴らしい作品を書きたいと、決意させたものです。

あれから四十年以上。今日まで御指導下さった師匠のお蔭で、若き日からの集大成の榮譽をいただくことが出来、感無量です。

その上、昨年よりコロナ禍・生活激変の日々を物ともせず、泰然と書に打ち込む師匠の姿は、私にとつて最高のお手本でした。今後は初心に帰り、更に精進して行きたいと思えます。この度は本当に有難うございました。

〈評〉

古典を踏まえた豊潤で冴えた筆致、安定感と品格あり。



記念賞

第一部 草野 慧泉



この度は、中日書道展において栄える記念賞を頂き喜びと共に、ご指導して下さった師また諸先生方に感謝の気持ち一杯です。

この作品は、光悦の素朴な線を意識して書きましたが、とぎれとぎれにならないように気脈を出すための字間の呼吸に苦心しました。

今後も光悦と佐理の臨書をしっかりとしつつ、和様の作品を創っていきたくと思っています。

〈評〉

確かな結構と豊潤な筆線、悠然と動き響きあり。



記念賞

第一部 亀井 小琴



この度は第七十回記念中日書道展におきまして、栄えある記念賞を頂戴し、誠にありがとうございました。

私は倪元璐の書法をここ何年か学んできました。字形、線質、潤滑、余白等々、私には

とても難しく、作品づくりにどう取り入れたらよいか試行錯誤を続けています。この度受賞できましたのは、偏に諸先生方、諸先輩方の熱心なご指導の賜物と心より御礼申し上げます。これからも精進してまいりたいと思えますので、今後ともご指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。

〈評〉

古意を体得して線条よく紙に軋み凜とした響きあり。



記念賞

第一部 倉地 西萩



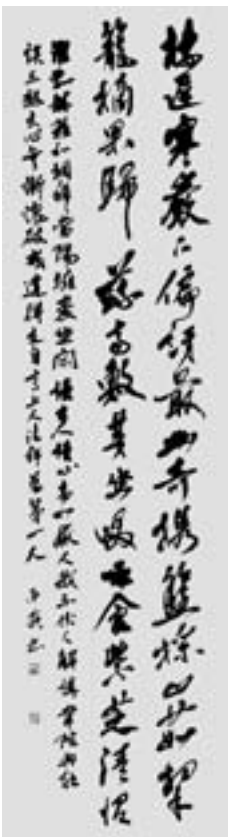
この度の思いがけない栄えある記念展の記念賞受賞に唯々驚き、指導してくださった師匠からの賜物と深く感謝し、それと共に身の引き締まる思いです。

私は高校で若者に書道の楽しさ、日本文化

の良さを伝えていきます。毎年大学へ書を学ぼうと進学する生徒を送る度に大変嬉しく甲斐を感じ、書を引き継いでくれる事を切に願っています。今回の受賞は、私に自分のこれからの生き方を示してくれたような気がします。手書き文字が薄れていく現代だからこそ、書は貴重でなければならぬと痛感します。

〈評〉

線条大らかで規模大。作品構成にも妙味あり。



記念賞

第一部 黒川 鵬 霄



この度は、栄誉ある記念賞を賜り、身に余る光栄と感謝しております。これも師匠です。これも師匠を始め、諸先生のご

厚情と、心から御礼申し上げます。長年、隸書の筆法に魅力を感じ、古典の臨書を中心に勉強してまいりました。

〈評〉

古意を良く捉えて素朴にして風韻あり。

記念賞

第一部 小林 祥 鶴



第七十回記念中日書道展において、予想だにしないかった「記念賞」受賞の一報をいただき震駭するばかり

り。古希を迎えての受賞は嬉しいのですが、照れ臭いやら恥ずかしいやら適切なことばが見当らず、困惑している次第です。「七十に

〈評〉

大字篆書、大胆に書して清烈の響きあり。



記念賞

第一部 小池 玲 翠

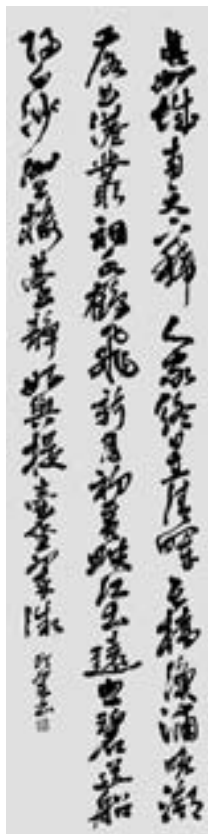


この度は、栄えある記念賞をいただき、大きな喜びとともに、これまでも導きくださいました師、諸先生

方、先輩、書友の皆様のご指導のおかげと心より感謝いたしております。呉昌碩の書風に基づき、強靱な線、重厚か

〈評〉

筆良く躍動して鮮烈。行相互も響き合い余白美し。



記念賞

第一部 近藤 晴 翠

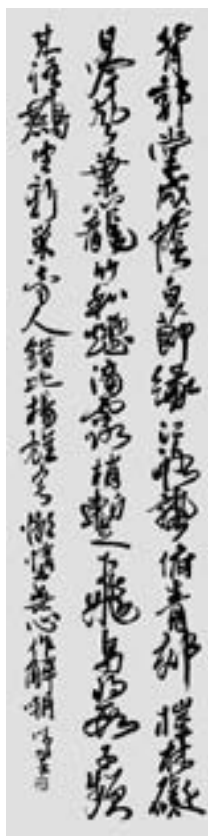


この度は、第七十回記念中日書道展に於きまして、記念賞を賜り身に余るよろこびと感謝の気持ちで一杯

です。これも偏に熱心にご指導くださいました師匠をはじめ、諸先生方の温かいご支援、社中の皆様方の励まし、また家族の協力の賜

〈評〉

横への拡がりに意を用い迫力と安定感ある作。



記念賞

第一部 近藤 青洩



この度は、栄えある賞を賜りありがとうございます。入門より筆の持ち方から温かく丁寧にご指導くだ

さいました師匠や先輩方に心より感謝しております。様々な書道展で拝見する諸先生方や皆様方

の作品に刺激され、「自分もやってみたい」との思いに駆られますが、何事も日々の精進あつてのこと。今回の受賞を励みとして、書を学べる幸せに感謝しつつ、古典の書法を学び力をつける。と、同時に作品に活かせるよう努力していきたいと思えます。今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

緩急自在の伸びやかな線と、造形の妙に魅力を感じる。

記念賞

第一部 佐藤 水香



この度は、第七十回記念中日書道展におきまして、記念賞を受賞させていただきます、うれしさと感謝の気持ち

ちでいっぱいでございます。これもひとえに、師・諸先生のお陰と、心より感謝いたしております。作品は、黄山谷の特徴を表現したい

と思い制作いたしました。枚数を重ねていくうち仕上がったものは、いつもの自分の顔になってしまいました。今後この賞に恥じないように、一層精進していきたいと思っておりますので、よろしくご指導お願い申し上げます。ありがとうございました。

線条鮮やかにして重厚、迫力に富んだ練度高き作。

記念賞

第一部 近藤 梅鶯



この度は、中日書道展第七十回記念賞を拝受させていただきました。誠に有難うございました。憧れの賞の受賞に

暫くの間実感が湧いてきませんでした。これも偏に、師匠と諸先生方の温かい御指導の賜と厚く御礼申し上げます。

呉昌碩の詩翰から文章を選び、先生から指導していただいた言葉の思い起こしながら書き上げましたが、力不足を痛感する日々でした。今後はこの賞を励みにしてより一層精進して参ります。今後共御指導賜ります様お願い申し上げます。

骨力溢れた筆致、気迫と躍動感に満ちて一体感あり。

記念賞

第一部 清水 翠芳

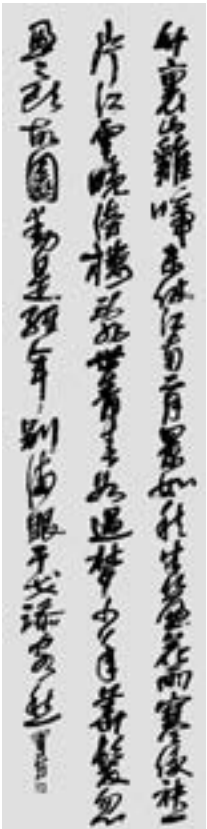


この度は、伝統ある中日書道展において、「第七十回記念賞」という栄誉ある賞を拝受し大きな喜びと共に

に、身に余る光栄と厚くお礼申し上げます。良き師に恵まれ、諸先輩、書友に恵まれて日々楽しく学ぶことが出来、感謝の気持ちで

いっぱいです。師の味わい深い、重量感ある線質、字姿に少しでも近づきたいと念じつつ、又、長年学んできた明清の書、特に王鐸、呉昌碩の書法、書風の探求に努めながら、尚一層の努力を重ね精進して参ります。今後共ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

蔵鋒による充実した筆線、リズムに乗せて軽快なり。



記念賞

第一部 下村 汀柳

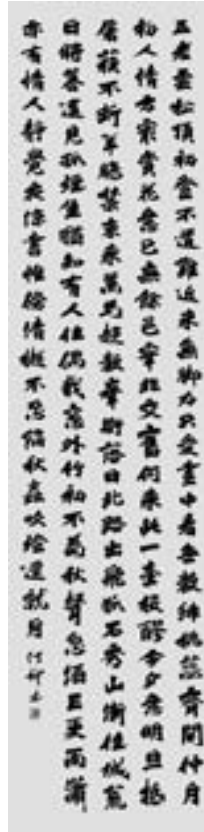


この度は、第七十回中日書道展において栄えある記念賞をいただき誠に有難うございました。これも偏に

四十数年にわたり熱心にご指導くださいました師匠をはじめ、同門の諸先生方の励ましのお陰と深く感謝いたしております。

ここ何年間は楷書の多字数作品に取り組んでまいりました。今回の作品も一四〇字を五行にまとめたもので、冷静且つ誠実に表現したいと念じ、紙に向いました。反省点は多々ありますが、今後の課題と捉え、更に研鑽を重ねてまいりたいと思います。ご指導の程よろしくお願い致します。

〈評〉 古典を踏まえた錬度高き筆致、安定感と品位に富む。



記念賞

第一部 白井 景星



第七十回中日書道展において「記念賞」という榮譽ある賞をいただき、この上もなく身に余る光栄と感

激いたしております。これも、ひとえに審査にあたられた諸先生方のご厚情の賜と、心より御礼申し上げます。

作品制作には、以前より清の時代の作風に魅力を感じて勉強してまいりましたが、まだまだ勉強不足と痛感いたしております。又、この閉塞感漂う状況の中、御指導下された師匠及び諸先輩方々に、只々感謝の気持ちで一杯でございます。今後共、何卒御指導、ご鞭撻の程を、伏してお願ひ申し上げます。

〈評〉 遅速緩急巧みに用いて力感と躍動美に溢れた作。



記念賞

第一部 関戸 海越

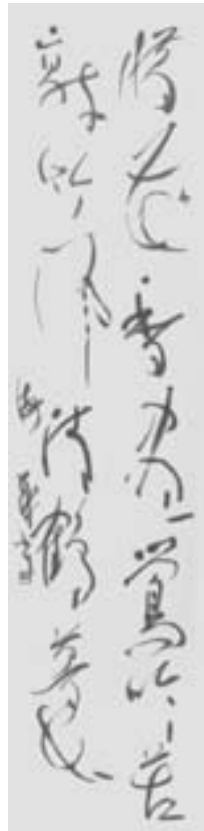


第七十回記念展において記念賞を賜り誠にありがとうございました。これも偏に師匠、諸先生方のおかげ

と心より感謝申し上げます。まだまだ勉強不足ですが、作品に対しては常にその時の最高の作をと心掛けてまいりま

した。しかし、変化、リズム、空間、造形、そして線質、どれをとっても未熟であり、一層の精進が必要と痛感しています。この度の受賞に恥じないよう努力してまいりたいと思っています。今後共ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉 墨痕淋漓、造形と緩急の見事な統一、格調高し。



記念賞

第一部 説田 朱麗

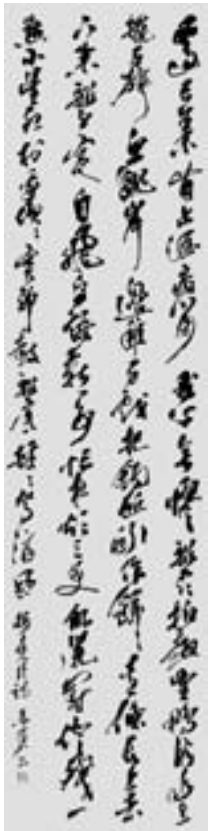


この度は、中日書道展において栄えある賞をいただき誠にありがとうございました。諸

先生方、亡き師匠に心より感謝申し上げます。この吉報を受けた驚きと喜びは、中日書道展における初受賞の感動を呼び覚まし、まだまだ未熟な自分自

身を初心へと立ち戻してくれました。これまで、温かく見守ってきて下さった先生方や懸命に書に取り組む良き生徒の皆さんに囲まれて、自分なりに努力し続けることができました。書道の道を歩んでまいりたいと思います。

〈評〉 潤渇、線の強弱、大小の変化など熟達した筆力の作。



記念賞

第一部 千田 京華



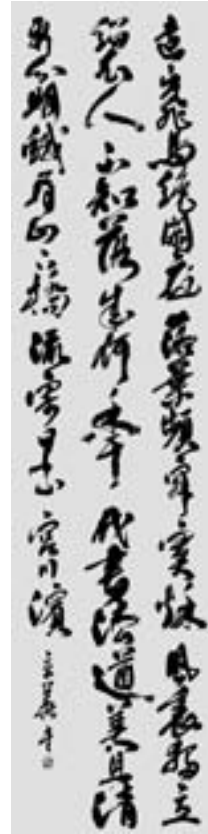
中日書道展におきまして、記念賞を戴き光栄に存じます。このような栄えある賞を戴きましたのも師匠、

諸先生の御指導の御陰と申します。今回は、字数を減らし、力強いイメージにしようと思ひ挑戦しました。最近書いてみた

いと思つていた良寛の詩を選びましたが、文字数と全体のバランスを取るのに苦労しました。うれしさでいっぱいですが、今回の受賞を励みに、書道を楽しみながらさらに努力していきたいと思ひます。これからもよろしく御指導お願い申し上げます。

〔評〕

筆致重厚にして細部まで力感に溢れた充実の作。



記念賞

第一部 高松 秀翠



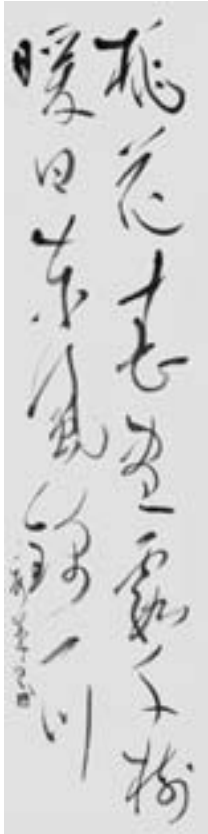
この度は、第七十回中日書道展におきまして、「記念賞」を賜り誠に有り難うございました。これも偏に

師匠はじめ、諸先輩方のご指導のおかげと心より感謝申し上げます。いつも作品制作の時は、「変化・リズム・

調和」を心がけ、今回は特に墨色と余白、そして「懐」の大きな文字を目指し頑張りましたが、まだまだ、力不足を痛感しております。この度の受賞を励みに、更なる研鑽を積んで参りたいと思ひます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

〔評〕

運腕雄飛して造形豊か、心手一如の作。



記念賞

第一部 武田 晶庭



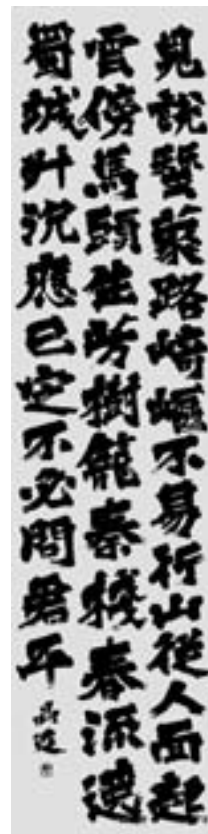
この度は栄誉ある記念賞を賜り、身に余る光栄と心よりお礼申し上げます。これも偏に

指導と、励まし支えてくださいます諸先輩方のご厚情によるものと深く感謝を申し上げます。

昨年はコロナ禍の先の見えないう不安から、自分にとって大切なものは何かを考える機会となりました。筆を持つと没頭し不安は消え、心身の安定を保つことができました。一層研鑽を重ねる所存です。今後共にご指導賜りますようお願い申し上げます。

〔評〕

充実の気迫、紙面に横溢し豪壮、迫力に満ちている。



記念賞

第一部 谷 鴻風



このたび記念賞という輝かしい賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。今回記念賞を受賞できましたのは、未

熟な私を支え続けて下さった師匠をはじめ、諸先輩・書友の皆様のお蔭と心より感謝申し上げます。北魏の楷書一筋で、早五十年が経ちました

が、まだまだ試行錯誤を繰り返しながら紙面に向っております。この賞に甘んじることなく、今後一層の努力を重ねてまいりたいと思っております。何とぞ今後ともよろしくご指導、ご鞭撻をいただきますようよろしくお願い申し上げます。末筆ながら選考に携っていただきました先生方に感謝申し上げます。ありがとうございます。

〔評〕

古典を捉えて線条秀潤、構成もよく整い霸気あり。



記念賞

第一部 谷口 琇苑



記念賞を賜り、ありがとうございます。

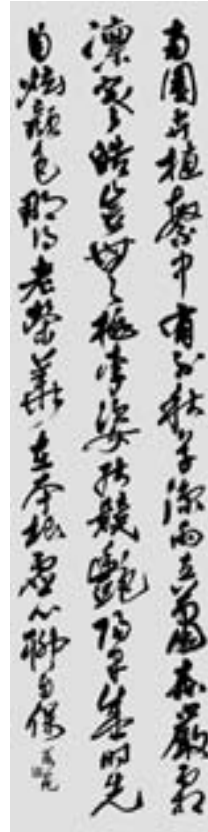
己丑の年に準大賞をいただき、それから今までの自分を振り返ってみますと、何でもやってみようといういろいろな体験や挑戦をして、時に悩みながらも、自由に楽しく書続けることが出来ま

ました。そのような我儘が出来たのは師匠や先輩、お仲間の理解と家族の協力があつたからこそ。深く感謝しております。

今後も中国や日本の書作品の臨書を通じて、時代や書人の生涯に思いを馳せ、自らを磨けるよう努力したいと思えます。そして書を介して得られたご縁が、さらに広がっていくことを願っています。

〔評〕

筆良く躍動して気迫溢れ、文字中の白も生きたり。



記念賞

第一部 千葉 晨翠



師匠の書く萬葉歌のはんなりとした作品、そこから醸し出される表とは別の、鋭い説得力のある文字に魅

せられ勉強が続いています。しかし、書の奥は深く、文字が訴える内面を到底引き出すことは出来ず、試行錯誤の繰

り返しです。今回の作品も、何枚書いてもその域には遠く及ばず、悶々とした日々を過ごす中での一枚でした。

〔評〕

緩急自在、構成と渴筆に妙趣ありて温雅なり。



記念賞

第一部 中井 港 星

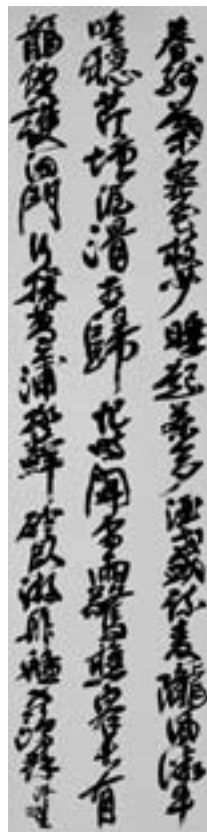


この度は、第七十回記念中日書道展において栄えある記念賞を賜り誠にありがとうございます。

賞は、ここまで導いていただいた、今は亡き師匠と、社中の諸先輩のご指導の賜と深く感謝申し上げます。三十半はより始めた中日書道展も、今は七十前半憧れの記念賞へは長い

〔評〕

的確な筆致で墨量豊かに、充実感溢れた作。



記念賞

第一部 中村 華 風



此度は第七十回記念賞にご選出いただき、誠にありがとうございました。栄えある授賞を賜りましたこと

はこの上ない喜びであり、深く感謝申し上げます。これまで御指導頂きました諸先生並びに諸先輩の皆様はじめ、支えて下さいました

〔評〕

線條優美、余白独特にして雅味深し。



道のりでした。

作品は行書を中心に力強さを出しつつ、字の大小、墨量や余白のバランスに気を付けて書き上げましたが、思うように表現できず、力量の無さを痛感いたしました。

この受賞を機に、一層精進して参りますので、今後とも変らぬご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

記念賞

第一部 野田虹園



この度は、栄誉ある記念賞を賜り誠にありがとうございました。ございませう。これにも偏に師をはじめ諸先生方、社中の皆様のおかげと心より感謝申し上げます。長年続けて参りました書は私の人生に大きな幅をもたせてくれたかけがえないものとなり

ました。古典を基盤に躍動感と力強さを感じられる作品を創りたいと試行錯誤を重ねましたが書くほどに書の奥深さを痛感し苦心いたしました。もつと研鑽を積むように、という意の込められたご褒美と心に刻み更に精進を重ねてまいりたいと思えます。今後ともよろしくお願いいたします。

〔評〕

活達な筆線で切れ味良く、安定した作。

記念賞

第一部 野村揚月



「記念賞受賞」の朗報は、全く予期せぬ出来事で、時の経過とともにやつと本当かもしれないと思いはじめ

とりたてて書の才能があるわけでもない凡人でも、師の教えをできる限り自分の小さな受け皿に吸収し、がんばる気持ちだけはめいっぱい歩めば、このような幸運が訪れるのだと、しみじみ喜びをかみしめています。同時に今の力不足を痛感し、今後はさらに努力してまいりたいと存じます。一層のご指導賜りますようお願い申し上げます。

〔評〕

運腕自在、筆致躍動と変化に溢れて秀逸なり。



記念賞

第一部 林幸湖



思いがけぬ七十回の記念賞を戴きました事身に余る光栄と感謝致します。亡き師に死ぬまで書けよと言われたのもついで此の間の事でございます。昭和五十五年五月、師の門を叩いて継続だけを目標とした私に此の度の御褒美は嬉しい限りです。憶良の『貧窮問答歌』は中学二年生の時習い、ずっと心の中に生きていました。一昨年元号が、令和となりこの歌こそ私の原点だと思ひ三年続けて書きました。

方の、御指導の賜と厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

〔評〕

多字数の調和体、墨量の変化と行の構成に妙味あり。

記念賞

第一部 波多野香葉

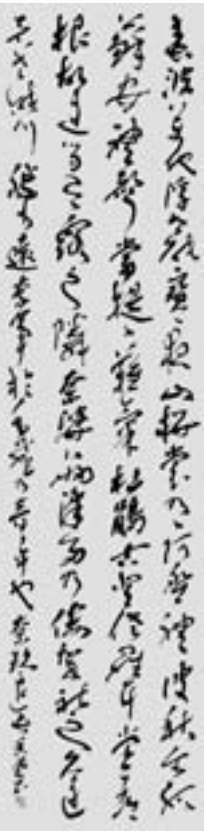


この度記念賞という身に余る賞を頂きましたこと至極光栄に存じます。ご指導下さいました諸先生、先輩方に大変感謝致して居ります。ここ数年良寛を基調とした作品を模索して居りますが、良寛の大药房でありながら鋭い線筆や点の響き等を如何にすれば出せるか、巧みな空間の処理や温かく深味のある作風を

如何にして表現するかと試行錯誤を重ねて居ります。それは大変難しい課題であり、愚愚遠く及ばざると痛感して居りますが、この受賞を励みに今後も研鑽を重ねて参りたいと存じます。

〔評〕

線條無理なく大らかに、和を豊かに表現せ



記念賞

第一部 坂野 渚 月



「第七十回中日書道展」において、栄えある「記念賞」を拝受し、身に余る光栄と厚くお礼を申し上げます。

これも偏に熱心に、ご指導いただいた師を始め、書友の皆様のお陰と深く感謝しております。考えれば考えるほど奥義が深く、自分の

非力さを痛感しつつ、作品づくりに努めました。これからも、この賞に恥じない様、線質、余白、緩急等々に研鑽を重ねて、一層精進してまいりますので、今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

行相互の関連響きあり、温厚な書きぶりで見え、清澄なり。

記念賞

第一部 広井 秀 琳



目標が、いつの間にか憧れに変わっていった記念賞を受賞する事が出来、喜びでいっぱいです。コロナ

禍の厳しい折、審査を頂きました諸先生方には、大変感謝しております。本当にありがとうございました。今まで続けてこれたのも、

師匠の温かい御指導、良き先輩、社中の方々、見守ってくれた家族のお蔭です。改めて御礼を申し上げます。この賞の重みをしっかりと受けとめて、一歩でも前へ進めるよう、続けて行きたいと思えます。今後共、御指導の程、宜しくお願い致します。

〔評〕

小粒ながら字形の振幅を利かせて品格高し。

記念賞

第一部 日江井 芝 香



この度は、第七十回記念中日書道展におきまして記念賞を賜り誠にありがとうございます。本当に夢のようです。そして今年、開催されましたことに感謝いたします。

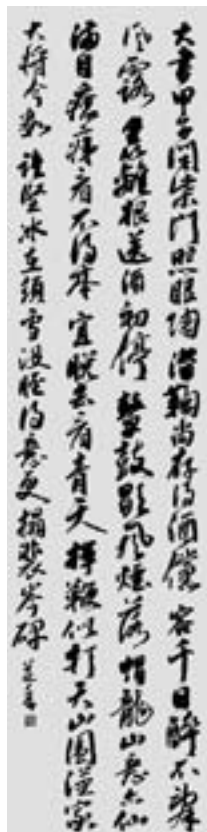
これも諸先生方、諸先輩の皆様のお陰と心

より御礼申し上げます。

墨の潤濁、行間、運筆の遅速に心がけ取り組みましたが、なかなか目標には遠く力不足を痛感しております。賞の重みを心に留め、一層努力しなければと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

〔評〕

重量感に溢れた四行書、縦画に力点を置き、迫力充分。



記念賞

第一部 藤 澤 秋 嶺



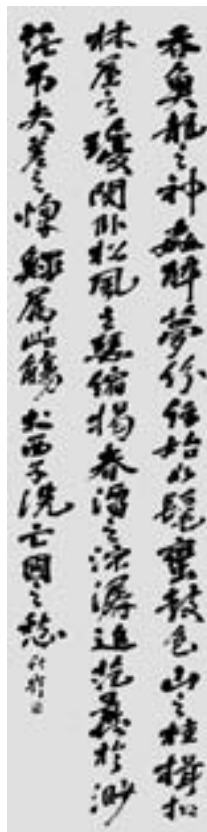
このたびは第七十回中日書道展において、栄えある記念賞をいただき、感無量です。

蘇東坡に変え、書風の違いに悩みながらも、「力強さの中にも懐のある作品を」を目標に、何度もひたすら書き込んだ結果が記念賞受賞

につながったことを嬉しく思います。根気よくご指導いただいた先生方、まことにありがとうございます。日々精進を重ね、さらに上達できるよう頑張りますので、今後も引き続きご指導くださいますよう、よろしくお願

〔評〕

線条の太細と潤濁の変化による表情ある作。



記念賞

第一部 藤村真徳

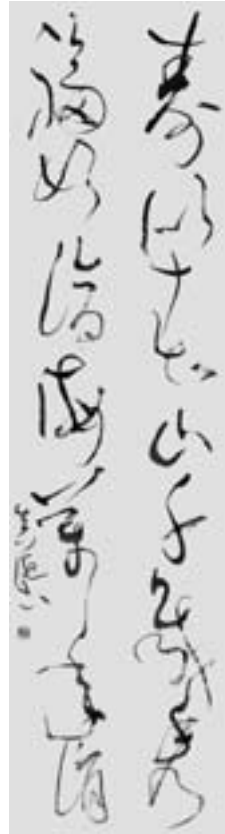


『第七十回記念賞』受賞の知らせを受け一瞬間が止まりました。そして、在り来たりですがじゅわっと喜びが湧き上がって、これからはもっともつと精進しなさいと、しなければいけないと応援されているように感じました。本当に有難

うございました。師匠・諸先生方・諸先輩方と過ごした日々が走馬灯のように蘇って、楽しくもあり厳しくもあり、その全てが今の自分を作ってくれたのだと心より感謝を致しております。師匠の教えを胸にこれからも精進して参ります。今後共宜しくご指導の程お願い申し上げます。

〔評〕

悠々と書して規模大、余白を包み込む和の心見事。



記念賞

第一部 藤原桃李

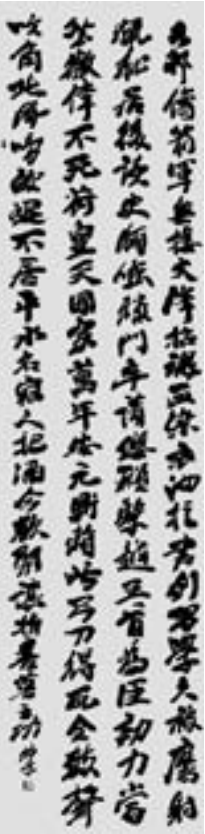


この度は、栄えある『第七十回記念賞』を受賞させて頂き、大変嬉しく、身の引き締まる思いです。

られる姿を学ばせて頂いていることに感謝致しております。まだまだ未熟な私ですが、これからも、古典の臨書を中心として幅広い作品が書けるように一層の精進を続けて参りたいと思っておりますので、今後とも御指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

墨量豊かに線条冴えて錬度の高きを感じる。作。



記念賞

第一部 堀穂慧

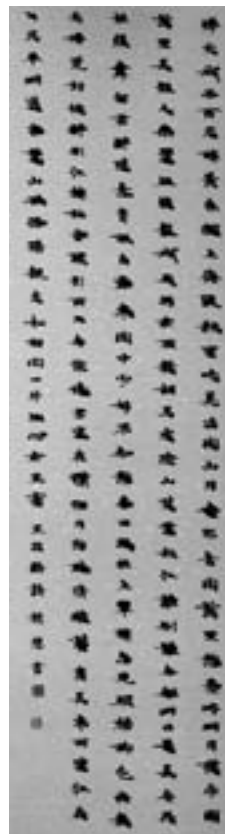


この度は、栄えある記念賞を賜り、誠にありがとうございました。時が経つにつれ、身の引き締まる思いでおります。就職して間もない頃、先輩に誘われて師匠の教室に伺いました。あの日から、休み休みのお稽古でしたが、師匠の温か

いお人柄と熱心に御指導下さいましたお陰で続けることができましたことを深く感謝申し上げます。今回は整然とした中にも華やかさを感じられるような作品にしたいと墨量や線質に気を配りました。これからもこの賞に恥じないよう精進して参りたいと思っております。ありがとうございました。

〔評〕

点画の隅々まで緊張感に満ちて、古意良く捉う。



記念賞

第一部 三代雄峯

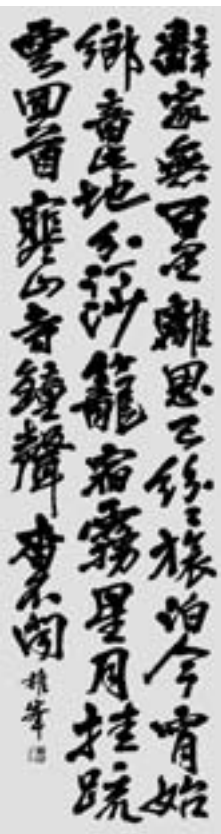


この度は、栄えある記念賞をいただき誠にありがとうございました。これも偏に、長年にわたり温かく熱心に御指導くださいました師匠はじめ、中

作品制作にあたっては、まだまだ勉強不足を痛感する日々ではありますが、この受賞を励みに、魅力ある作品づくりを目指して努力していきたいと思っております。今後ともご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

直線の強さと弾力を利かせて重厚にして躍動せり。



記念賞

第一部 水田 珪華



この度は、記念賞を頂きまして有難うございました。師をはじめ諸先輩方、私を支えて下さいました周

りの皆様に深く感謝しております。空間に響く線ということを意識し、鍛錬された線で、端正な作品を書くことが目標です。

一つ一つの字の形を大事にし、古典を勉強した匂いが出る事が理想です。どういうものを美しく感じるかがその人の個性であると思うので、自分の感性を磨く努力をして書の勉強を続けていきたいと思えます。今後も少しでも進歩出来るように頑張りたいと思えますので、ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

筆線鮮やかにして古意を上手く漂わせて風格あり。

記念賞

第一部 美濃羽 城開



この度は栄えある第七十回記念賞を賜り、心より厚くお礼申し上げます。有り難うございました。

一年の延期を経た今年、腕も身体も錆び付いた様で思うように書けず、心が折れる中、社中の諸先輩方のご指導と書友に励まされな

がら作品に向き合う日々。満足出来ないままの提出で諦めていた記念賞。書友からの電話で知った受賞。その後の電話やメールで届くお祝いの言葉に受賞を実感しました。これを新たな出発点と捉え、精進して参りたいと存じます。この度は、本当に有り難う御座いました。

遅速緩急自在にしてよく躍動、大胆にして風格あり。

記念賞

第一部 溝口 純華



この度は、第七十回記念中日書道展におきまして記念賞を賜り厚く御礼申し上げます。身に余る光栄に驚

くと共に、師の温かいご指導と諸先生、先輩、書友のお蔭と感謝の気持ちで一杯です。受賞の知らせをいただいてから、一日一日、賞の

重みと感動が増してきております。作品の制作にあたりましては、詩の情趣を響き合う線と余白で表現出来たらと取り組んでおりますが、いつも未熟さを痛感するばかりです。

今後はこの受賞を励みに一層の精進を重ねて参ります。

廻転するリズムに乗り造形豊かにして流れ良し。

記念賞

第一部 望月 希彩



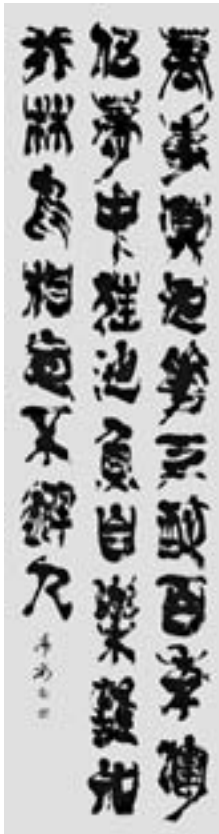
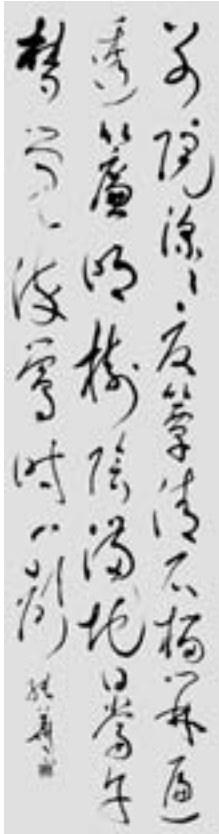
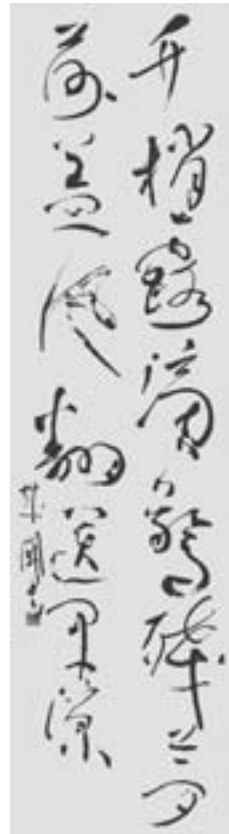
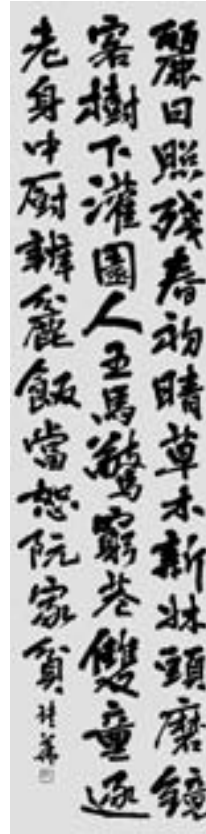
この度は、栄誉ある賞をいただき、有難うございます。恩師の御指導や書友の助けがあったからこそと

思い、喜びと共に感謝の思いでいっぱいです。コロナ禍で、昨年に引き続き外出自粛等、様々な不自由を強いられていますが、どんな状況

下であれ楽しみを見つける事は出来るという思いで、今年の作品の題材を選びました。筆の運び方、墨の濃淡等、御指導をいただきながら、自分なりに詩に込められた意味を表現出来る様筆を進めました。

いただいた賞を励みに、これを新たな出発点として初心に戻り精進していくつもりです。 (誠に有難うございました。)

古意の表出と現代性との調和に優れた作。



記念賞

第一部 森 絹 泉

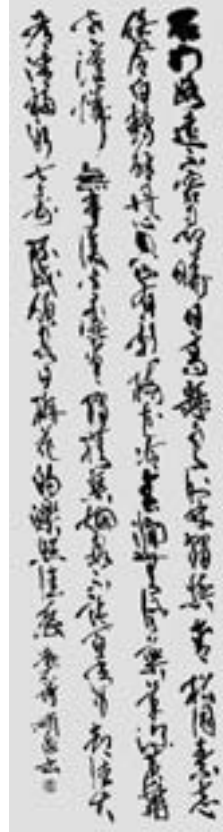


第七十回記念中

日書道展へ無事出品する事が出来、安堵しております。所、記念賞という思いもよらぬ朗

報に、喜びと賞の重さに身の引き締まる思いでございます。

「継続は力なり」と牛歩ながら書の道を歩



〔評〕

手慣れた筆致、静と動の躍動美を演出して秀作なり。

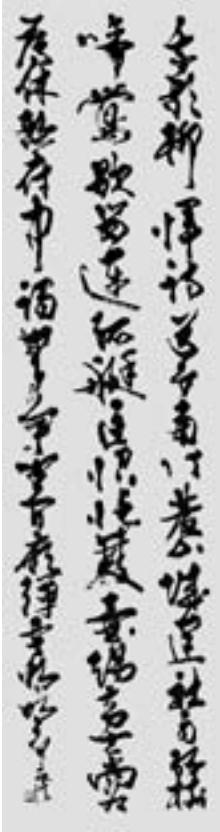
記念賞

第一部 森 本 夏 溪



この度は、第七十回記念展におきまして身に余る賞を賜り、誠に光栄に存じます。

決して自分一人の力ではなく、ご指導いただいた師匠、諸先生方、全てのご厚情と感謝申し上げます。作品は、張瑞図の書法を基礎に軽快で一貫



〔評〕

豊富な墨量と冴えた線条、行間に響きありて安定せり。

記念賞

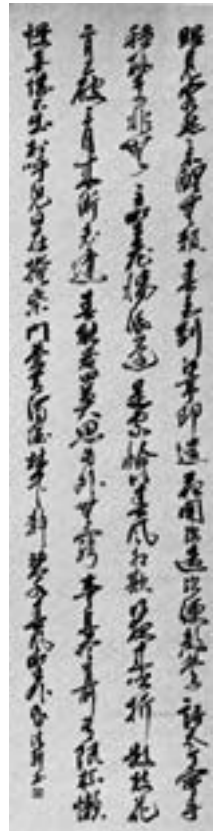
第一部 吉 川 清 軒



この度の「記念賞受賞」という思い

いがけない朗報に、驚きと感謝の気持ちで一杯です。審査選考に当

たられました諸先生方に心からお礼申し上げます。幼少の頃より手解きを受け、私を書の世界へ導いてくださった今は亡き恩師に受賞の報



〔評〕

気韻生動して流麗、行間響き合いて余白美しき作。

記念賞

第二部 今 枝 節 峰



第七十回記念中日書道展におきまして、名誉ある記念賞を賜り、大変な驚き、喜び、感動を得、これも偏

に熱心に御指導をして下さいました師匠をはじめ、諸先生方の御尽力、ご厚情の賜物であると敬愛の念を持って深く感謝申し上げます。



〔評〕

連綿を多用し見せ場を三か所に絞った縦作品の妙。

す。与謝野晶子の情熱的な歌を題材に、筆の躍動、勢い、円心力、リズム感を求め考慮制作しましたが、力不足を痛感します。コロナ禍の折、書壇を代表する巨匠書家の先生方の制作風景の動画を拝見する機会が増え、学ぶ励みとなっております。今後とも一層の努力精進を重ねて参りますので、変わらぬ御指導を賜りますようお願い申し上げます。

記念賞

第二部 足立麗華



この度は、第七十
回記念賞を賜りまし
て、誠に光栄に存じ
ます。

昨年はコロナ禍の
ため、中日書道展が
中止となり、今年に
入っても尚、蔓延が
心配される中、審査
をして下さいました
先生方には、心より
御礼申し上げます。

今回受賞する事が
出来ましたのも、師
匠の御指導を始め、
社中の先輩方のご支
援の賜物と深く感謝
申し上げます。

これを機に尚一
層、一点一点の作品
と真摯に向き合い精
進してまいりたいと
存じます。

今後とも宜しくお
願い申し上げます。

〔評〕
極めて繊細で速度
感と冴えの有る優れ
た卷子作品



記念賞

第二部 石川瑞峰



此の度は、身に余
る賞を頂き恩師、諸
先輩の方々に心より
深く感謝申し上げます。
コロナの為去年
は中止になり、今年
はどの思いで何にす
るか迷いの中、卷子
に決めました。所が
気持的になかなか
入って行けなくて時
間ばかり過ぎて行き
ました。試行錯誤し
つつ書く程に思いが
定まらない、最終的
に書き上げた作品を
見て墨色の悪さに納
得出来ないまま余裕
はなく出品、そんな
作品で賞を頂けた事
は最高の喜びです。
有り難うございまし
た。

〔評〕
乱れない行の中
に微妙な変化を配
し、雅を演出。



記念賞

第二部 石田三喜



この度は第七十回
記念中日書道展にお
きまして「記念賞」
を頂き、ただただ驚
き感激しております。
コロナ禍、緊急
事態宣言の発令され
た中でもやりたい事
ができる環境に感謝
すると共に御指導頂
いた師匠、書友の皆
様のおかげと感謝申
申し上げます。ここ数
年、力量もさること
ながら思うように書
けない自分を痛感し
ておりましたが、ま
ず初心にもどり元永
本古今集の臨書を中
心にゆつくりと書く
ことで作品を仕上げ
るよう心掛けてまし
た。未熟ではござい
ますが、今後共、御
指導宜しくお願い申
申し上げます。

〔評〕
流麗な筆致は古筆
の修練が成せる爽快
感のある帖作品。



記念賞

第二部 加藤博子



この度は、栄えあ
る「記念賞」を頂き
まして、大変光栄に
存じます。これも偏
に社中の先生方にお
蔭と心より感謝申し
上げます。

恩師を失くして三
年余り、霧の中にい
るような私を激励し
続け、ご指導を求め
て私が門を叩けば常
に門を開いてくださ
る、社中の先生方に
感謝の気持ちでいつ
ぱいです。

今回の作品は、日
頃からご指摘をいた
だく線質を強く、ま
た墨量の変化を自然
にと心掛けて書きま
したが、道半ばです。

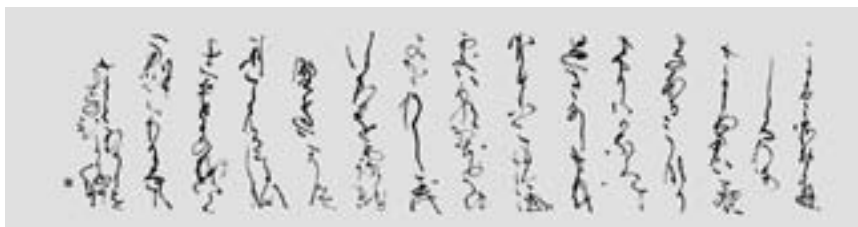
この賞に恥じぬよ
うな書が書けるよう
努力してまいります
ので、今後ともご指
導よろしくお願いい
たします。

〔評〕
遠く山並みを描く
が如く墨色の潤濁が
心地良い秀作。



記念賞

第二部 木島 静月



この度の思いがけない知らせは、身に余る光栄と賞の重さに戸惑い驚きました。ただただ有り難く、お礼申し上げます。師匠はじめ諸先生方、先輩、書友の皆様御指導と御厚情に心より感謝いたしております。

作品は昨年やりかけたもの、を再考、時を経て欠点が見え、修正できたでしょうか。日頃は書の奥深さに感動しつつ、出会えた事、継続できる事を喜んでおります。微たる歩みでも続けられるよう願っています。皆様様、今後共何卒宜しくお導き下さい。

ありがとうございます。濃密な文字間隔と行のうねりを渴筆が上手く和ませる。

〈評〉

記念賞

第二部 小谷 春苑



この度は、第七十回記念展におきまして、大変栄誉ある記念賞を賜り、誠に有難うございます。思いがけぬ朗報に、身に余る光栄と感謝の気持でいっぱいです。これも偏に、四十年余りご指導戴きました師匠はじめ、諸先生方、社中の皆様方のお陰と心より深くお礼申し上げます。

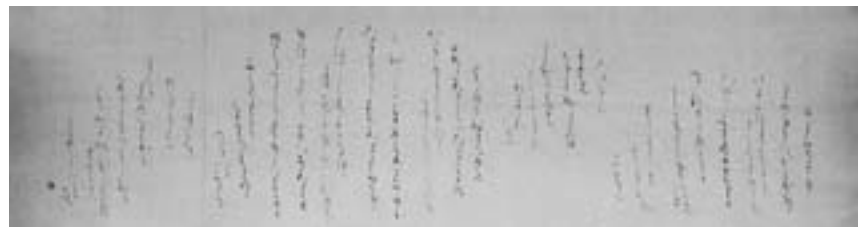
今年もコロナ禍の中、心が荒び筆を持つ事が鈍る日々でしたが、今回の作品は、初めての横書きに挑戦してみました。余白行間のひびき、山場の墨量のバランス等、多くの課題に力不足を痛感しております。今後共よろしくご指導下さいますようお願い申し上げます。

筆圧をほぼ一定にして中太線で上手くまとめた逸品。

〈評〉

記念賞

第二部 佐々木 宏潤



「第七十回記念中日展」におきまして「記念賞」を頂くことができ、大変うれしく思っております。受賞までには、長い道のりでしたので、感無量です。これも、ご指導下さいました諸先生方と、諸先輩方の励ましのお陰と、深く感謝しております。

古筆の美しさに魅かれ、かな書道が続けることが出来ました幸せを感じております。受賞を励みに、より精進を重ねてまいります。ありがとうございます。ありがとうございました。

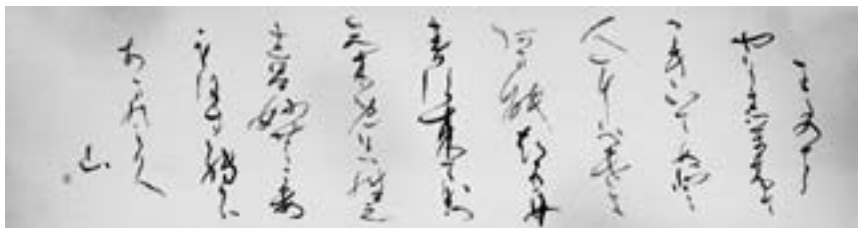
最後に、大変な状況の中「記念展」開催にご尽力下さいました中日書道会の皆様、心より御礼申し上げます。

はんなりとして懐が広く、これぞ細字仮名の神髄。

〈評〉

記念賞

第二部 土屋 香風



この度は、栄えある記念賞を賜りありがとうございます。

昨年から今年にかけてのコロナ禍で、書展や行事が中止となり気持も塞ぎ気味でした。そんな中、受賞の吉報をいただき、信じたがたく驚きと感謝で一杯です。師匠はじめ、諸先生方のご厚情に心より厚くお礼申し上げます。

作品は、百人一首より二首の構成で、中心部分の「春すぎ」と「しろ妙」の字形に苦労しました。潤濁、行間の取り方、一本の線が作品全体に及ぼす影響など表現には課題が多く残り、自分の未熟さを痛感しています。

今後も賞の名に恥じぬよう精進してまいります。ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉

文字に躍動感があり、中盤の潤筆が作品を引き締める。

記念賞

第二部 野口紀代子



思いもよらぬ賞を賜り誠に有難うございました。お礼申しあげます。

筆を持ち始め、最初に出展させていたのが中日書道展でした。書と共に歩んだ日々、どれだけの月日が流れたことか。

色々学び、豊かな時を過ごす事が出来ましたのも、師匠はもとより、励まし合った大勢の仲間達のお陰だと心より感謝しています。

この素晴らしい日本の文化である書がこれからも発展しますよう心より願っています。

〔評〕 落ち着きのある行の佇まいは安心感を醸し出す。



記念賞

第二部 野村清涼



小学三年生の時から書道教室に通い始め、以後書に親しんで参りましたが、書を通して素晴らしき二人の師匠に御指導いただき、また、温かく見守っていただける諸先輩と出会い、そして、いろいろなことを話し合える友に出会うことが出来ました。その上、記念賞という身に余る賞を賜り本当に幸せです。言葉で言い尽せない程感謝の気持ちで胸がいっぱいです。

まだまだ未熟な私ですが、今後はこの賞に恥じないように、「きりつとした線」で書くことを目標により一層の研鑽を重ね努力して参りたいと思います。

〔評〕 古筆の深い味わいと現代風な匂いが織り込められた秀作。



記念賞

第二部 堀部保子



この度は第七十回記念賞を賜りまして心より御礼を申し上げます。

この受賞をまず亡き師匠に心の内で報告致しました。その後の長い道のりをここまで導いて頂いた教えの深さを改めて感じております。

今回は、「草の花」と題して高浜虚子の句から草や犬ふぐりの句を書きました。昨年から続くコロナ禍の中で、ふと足元の小さな花達に気付き救われた一瞬を書いてみたいと思います。

これからも精進して参ります。よろしくお願い申し上げます。

〔評〕 無理のない筆さばきと穏やかな間合いが醸し出す飄逸。



記念賞

第二部 宮田洋美



この度は、第七十回記念中日書道展におきまして「記念賞」をいただき、誠にありがとうございます。

ここ数年は方形に一首を、今回は中日サイズ横に二首と、少し趣きを変えて作品にしました。

コロナ禍において、中日書道展など各種行事も中止になり残念な思いもありました。

この賞を励みとし頑張りたいという意欲がわいてきました。

先生はじめ仲間の皆様のお陰と感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

〔評〕 凛とした線質と行間処理、中盤の変化が上級の額作品。

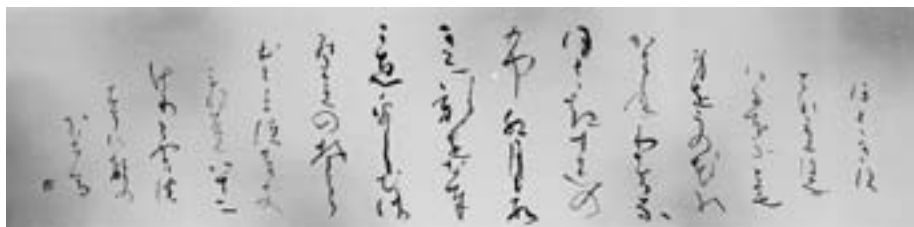


記念賞

第二部 村井康山



この度は記念賞という名誉ある賞を頂き大変光栄に存じます。諸先生、諸先輩の皆様にお力添え頂いた御蔭と深く感謝致します。



諸先生方からは厳しい中にも暖かいご指導を受け、書道は生涯学び続けること、真摯に作品制作に向う姿勢等心に響く教えを頂くことができました。七十回記念展はここ数年題材にしている西行の山家集から三首、教えを参考に試行錯誤しながら制作に取り込みましたが、自身の力の無さを思い知らされるばかりでした。もう一度初心に戻り受賞に値するよう精進しなくてはと身の引き締まる思いでございます。

〈評〉

放ち書きを用い、振幅がある文字で嫌味を無くした。

記念賞

第三部 浅井明奈



このたびは記念賞受賞の榮譽を賜り光栄であるとともに、ひとえに選考委員の諸先生、師匠また共に学ぶ



仲間の励ましのお陰であると心より感謝しております。

この作品は浅田真央さんを現役続行に導いたと言われているドリカム吉田美和さんの歌詞のフレーズ「今のあなたで」をイメージしながら「美しい造形と生きいきした線」を描きたいと思いついた。書道を始め半世紀以上の時が過ぎましたが「書の学びを自分の一生を潤す伴侶として永く歩み続ける」との師匠の言葉を胸に今後も精進を重ねて参りたいと思います。

〈評〉

意表を突く AGAIN の大胆さと線の切れが光る。

記念賞

第三部 市橋蒼流



この度は、第七十回記念中日書道展にて栄えある記念賞を賜り誠にありがとうございました。一報を受け、



一瞬何のことかピンとこないくらい驚きと同時に賞の重さに「どうしよう」と呟いてしまいました。

文化センターで亡き恩師に出会い、誘われるまま教室に伺ったのが書道のはじまりでした。何もわからないまま今まで導いて下さった師匠に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも叱咤激励宜しくお願い致します。今後この賞に恥じぬよう、また励みにして精進してまいりますのでご指導の程宜しくお願い申し上げます。

〈評〉

長鋒を駆使した切れのある線と確かな造形が魅力の作。

記念賞

第三部 川口碧水



未曾有の感染症のまん延で不安と閉塞感に押しつぶされそうな毎日、幸い筆を持つている間は何か考えず



にいられました。某音楽配信番組で、ミュージシャン達がライブができない代わりに互いがリモートでコラボして新曲を届けるという機会がありました。音楽の灯を消すまいとする力強い歌詞と曲想に「書きたい！」という衝動から生まれた作品です。この作を記念賞に選んで頂け本当に有難く心より御礼申し上げます。私も微力ながら書の灯をともし続けると心に強く誓いました。諸先生方、今後益々のご指導を賜ります様お願い申し上げます。

〈評〉

抑制の利いた運筆に作者の思いを感じる。余白の美しい作。

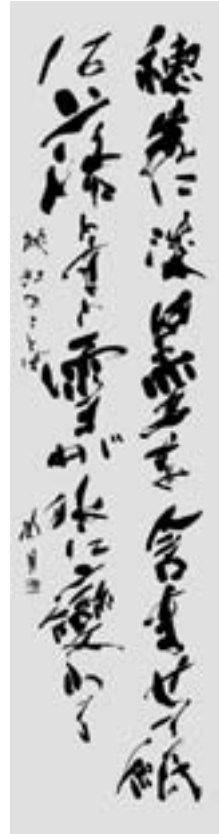
記念賞

第三部 内山 蘭 月



この度は第七十
回中日展に於いて
記念賞をいただき
厚くお礼申し上げ
ます。これも偏え
に師をはじめ諸先
に師をはじめ諸先
生方のお陰と深く感謝申し上げます。

作品は愛読する篠田桃紅さんの一文より筆
をとりました。墨から生まれる情景を書きた



いと紙に向かうのですが、上手いはず、寝
ても覚めても脳裏に浮かぶ日々でした。
今回の報には、ただただ感謝の気持ちで一
杯です。未熟ではありますが、一層精進する
所存ですので、何卒ご指導賜りますようお願い
申し上げます。

〔評〕
小気味の良いいリズムに乗って躍動する筆致
が見事な作。

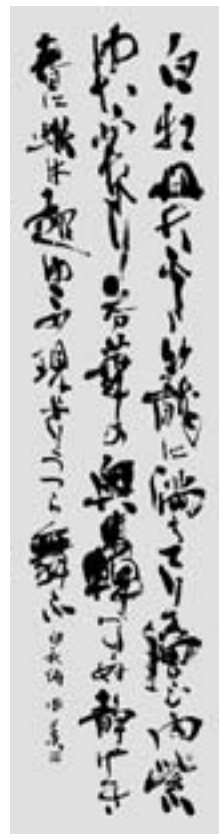
記念賞

第三部 川口 由 美



『第七十回記念
賞』受賞の電報に
喜びをかみしめて
おりました。師匠、
社中の皆様、諸先
輩方、そして家族

に支えられ、背中を押されてこの場に立たせ
ていただきました。本当にありがとうございます
ました。仕事で詩文書の必要性を感じ学びた



くて師匠の元を尋ねて二十五年。書に関する
ことや人生の歩み方などについて常に厳しく
暖かく示して下さい、楽しくて、驚きと感動
の連続でした。書を仕事として生活できるこ
とに感謝し、今後は様々な場面で少しでも他
に貢献できるよう、精進してまいります。ど
うぞ、今後ともご指導よろしくお願いたし
ます。

〔評〕
三行の構成の中でも密度の高い引き締まっ
た調和を見せた作。

記念賞

第三部 太田 由 香



この度は、第七
十回記念、中日書
道展におきまし
て、栄ある記念賞
を賜りました事、
身に余る光栄と存
じ胸がいつぱいでございます。これも偏に、
限りなく温かく、また時に厳しく、ご指導く
ださいました師匠をはじめ、諸先生、諸先輩、



書友の方々のお蔭と深く感謝しております。
作品につきましては、躍動感溢れ、流麗かつ
余白の美の表現を追い求めました。
今回の受賞を励みとして、更に精進してま
います。今後とも、ご指導、ご鞭撻を賜り
ますよう宜しくお願い申し上げます。

〔評〕
ゆつたりとした運筆から導き出される落着
きを感じられる。

記念賞

第三部 式 守 白 萩



この度は、第七
十回記念中日書道
展におきまして記
念賞という栄えあ
る賞をいただきま
りがとうございま
した。これも幼き頃よりご指導いただいた師
匠を始め、諸先生方のお陰と深く感謝いたし
ます。今迄何度も壁にぶつかり迷う中、いつ



も温かく見守りご指導くださった師匠が共に
この受賞を喜んでいただいたこと大変うれし
く思っております。まだまだ未熟な私にとり
ましては身が引き締まる思いですが、今後と
もこの賞に恥じぬよう今迄以上に精進して参
りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願
い申し上げます。

〔評〕
真正面から書き進む純真な気持が生々しく
見えてくる作。

記念賞

第三部 鈴木 凍山



この度は、第七十回中日書道展におきまして栄えある記念賞を賜り、誠にありがとうございます。

師匠、諸先生方、書友の皆様方のお蔭と深く感謝しております。作品制作にあたり、師匠からの熱心な指導

を頂き、一文字の中に変化があり、それでいて、線の質がどれも高くなるように努力してみました。しかし、まだまだ力不足です。今後は、師匠をはじめ周りの方々への感謝を忘れずに一層努力し、研鑽していきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻賜りますようお願い致します。

〈評〉

紙面を堂々と覆い尽くす大字と左辺の小書きが作品を引き締めた。



記念賞

第三部 花井 清水



第七十回記念賞という身に余る賞を賜り、ありがとうございます。

先輩方が、自由に言葉や文章を選んで展覧会の作品にしていらっしゃるのを拝見して驚き感動しました。近代詩文書に出会って楽しく書道が続けて来

られました。今回の作品は、力み過ぎず素直に。主役ばかりでなく脇役も：と気をつけながら書きました。まだまだ課題の多い作品ですが、今後は多くの作品を鑑賞し研鑽を積んで行きたいと思っております。今後とも宜しくご指導の程お願い致します。最後になりましたが、師匠、先輩、会友の皆様へ感謝します。

〈評〉

安定した運筆から生まれる造形が作品に落着きを与えた。



記念賞

第三部 前田 祥石



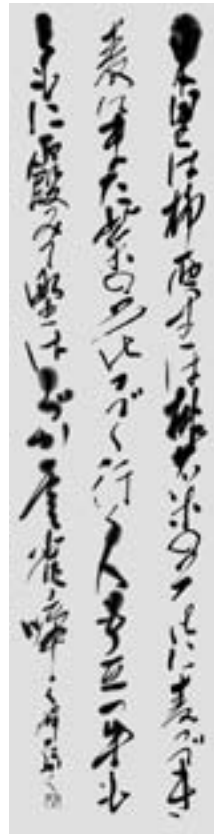
この度は第七十回記念展において「記念賞」という栄誉ある賞を頂き、誠に有難うございました。

思いもよらぬ受賞の知らせに驚きと喜びそしてその重さに身の引き締まる思いで一杯です。

これも偏に幼少期より今も変わらず熱心に御指導して下さる師匠はじめ諸先生方のご厚情の賜と深く感謝申し上げます。線質と余白の美など奥深い書の道を追求めればする程思うようにはいかず未熟さを痛感するばかりですが、これからも「継続は力なり」を胸に書を楽しみ精進して参りますので、今後ともご指導の程宜しくお願い申し上げます。

〈評〉

スピード感のある運筆は小気味よいリズムで流れを見せた。



記念賞

第三部 松下 聖心



この度は、中部日本書道展におきまして記念賞を賜わり誠にありがとうございます。

諸先生、ご指導いただいた先生方に心より感謝、お礼申し上げます。今年一月、突然、師を失い、途方に暮れて

いた中での作品制作でした。幸いにもお力添えいただける先生に恵まれ、良き日を迎える事ができました。亡き師匠も「よく頑張ったね。」と、喜んでくださっていると思っております。これからも古典の研鑽を積み、感性を磨いて精進してまいります。今後共、ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

〈評〉

流動的で柔らかさのある線が作品を温かな味に仕上げた。



記念賞

第三部 小林 恵風



この度は、第七十回記念賞をいただきまして誠にありがとうございます。新型コロナウイルスの影響で外出ができなくなり展覧会も次々と中止になるなど、再開を信じて草園を歩きながら草稿を思案する日が続きました。公園の森の中で詩文が生まれ自粛生活の中で書き上げた思い出深い作品に賞をいただきましたことを大変うれしく感じております。これもひとえに師匠をはじめ、日々の書作活動を支えていただいております。社中の諸先輩、書友のみなさまのおかげであります。感謝しております。

今後より一層の精進をまいります。

〔評〕
伸びやかで幻想的な筆致で展開した余白が美しい。

記念賞

第三部 新山 翠香



この度の記念賞受賞の報、身に余る光栄なことと心より御礼申し上げます。

思えば書道を通して、尊い出会いに恵まれてきました。温かくご指導下さる師匠、諸先生、書友、社中の方々。偏にこの幸運なお導きのお陰であり、感謝の気持ちで一杯です。

また詩歌など、作品の素材との出会いにも心を動かされます。この閉塞感漂う昨今、思いの丈を表現する喜びを再認識しています。

道半ば、未熟ではございますが、日々研鑽を重ねていく所存です。今後共何卒ご指導賜ります様、お願い申し上げます。

〔評〕
文字に意志があるかのように文字群が動きを見せている。

記念賞

第三部 谷利 紫鳳



この度は中日書道展におきまして、栄えある記念賞を賜り誠に有難うございました。

コロナ禍での思いもよらぬ受賞に、更なる重みを感じ身の引き締まる思いでいっぱいです。

これも偏に、代表、師をはじめ諸先生方、社中の皆様のお蔭と深く感謝申し上げます。

作品は、行間、余白を意識し取り組みましたが、まだまだ課題は多く書の奥深さを痛感しております。

めまぐるしく変わる世の中で、書が続けられる事に感謝し精進してまいります。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

記念賞

第三部 前田 千登世



この度は、栄誉ある記念賞を賜り、誠に有難うございました。

これも偏に師匠の御指導と書友の皆様の支えがあつてのことと感謝申し上げます。

また、コロナ禍で第七十回記念展開催にご尽力下さいました中部日本書道会の諸先生方へ心よりお礼申し上げます。

近代詩文書の作品では、美しい日本語を美しい線で表現したいとの思いで創作しております。今回の受賞を励みに、更に魅力ある作品を目指して精進して参ります。

今後とも御指導賜ります様お願い申し上げます。

〔評〕

潤濁の調和と行間の響き合いが美しく、明るく仕上げた。



〔評〕

紙面を圧したシャープな筆勢が作品にインパクトを与えた。



記念賞

第三部 松本 紅 雨



この度は第七十回記念賞に過分の受賞を頂き、誠にありがとうございます。

思えば初出品は

半世紀近く前の事、当時、近代詩文書を錬成会で師や、諸先輩の揮毫されるお姿は、それは大きな感動、驚きを私に満ちさせてくれました。私は少しも追いつけず、休みがありました。私も長年拘われました。

諸先生、諸先輩、書友の方々、家族に深く感謝の念を抱いております。

忘れにし 幽かなる夢 翔雲よりの朗報 吾舞いあがる

〈評〉
ほのぼのとした線質が宇宙の広大さを表わしているようだ。



記念賞

第三部 三輪田 香 苑



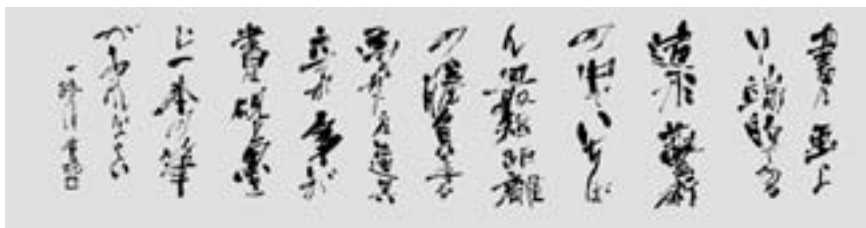
この度は記念賞受賞誠に有難うございました。感謝の気持ちで一杯でございます。これも偏に先生のお陰と心より御礼申し上げます。

作品は、詩読の中、書と画の二文字で選文二文字の芸術的相違、余白と美デフォルメ等どう表現するか試行錯誤の作……

コロナ禍の中、膝痛で歩行困難乍らの受賞は私にとってまささに青天霹靂！でございます。

今後は賞に恥じぬよう古典を礎に精進して参りますので御指導の程宜しくお願い申し上げます。

〈評〉
凝縮した文字群が横へ展開し行間の美しさを際立っている。



記念賞

第四部 泉 好 子



この度は、第七十回記念中日書道展の栄えある記念賞を賜り、誠に有難うございました。

いつも熱心にご指導下さる師匠はじめ諸先生方、共に励まし合う書友の皆様のお蔭と心より感謝申し上げます。

作品に向かう時は美しい墨色で、気持ちのこもった一枚が書きたいといつも心掛けますが、なかなか思うような書とならず、奥の深さを痛感するばかりです。そんな時間を苦しみながらも楽しめる様精進して参りますので今後とも御指導賜りますようお願い申し上げます。

記念賞

第四部 犬塚 玉 陽



この度は、栄えある賞をいただき誠にありがとうございました。

小字数書と出逢いに惹かれ、続けてきた道です。学び重ねてきた古典をもとにイメージを膨らませていきます。そして、想いを込めて握った筆は、墨色の力を借り、突き動かされるように、流れの中にさまざまな表情の変化が宿り、白い紙の上を走りました。

受賞ができましたのは、ひとえに御指導くだされた先生方、社中の皆様のお陰と、心より感謝申し上げます。

〈評〉
軽妙な筆致で筆の開閉自在で妙技が光る好作。



〈評〉
鍛錬された筆使いで、絶妙な空間表現は実に見事。



記念賞

第四部 神谷光園



この度は記念賞をいただき、ありがとうございます。師、諸先生方、先輩のご指導と家族の支えのおかげ

と、心より感謝致します。

「聴」という漢字は、耳をすまして心をまっすぐにして聴くという意味だときいたことがあります。聴いたり、聴いてもらったりする豊かな人間関係の中で、人として成長していきたい、そんな気持ちでこの作品に取り組みました。

未熟ながらも自分の心を表現できる書の世界に幸せを感じています。今後も精進して参りますので、ご指導よろしくお願ひ申し上げます。

記念賞

第四部 佐藤寛山



この度は、第七十回中日書道展において、栄えある記念賞を頂き、誠にありがとうございます。

に、師匠、諸先輩のご指導、審査の先生のお蔭と感謝しております。

作品の「流」は、川の上流で岩魚の住める、きれいな水の流れを連想して書きました。作品製作では、余り激しさを出さずに、穏やかで美しい線で書くように努めました。今年度の賞に恥じぬように、努力していきたいと思っておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

ます。

〔評〕

躍動感があり、紙面を大きく掴み、雄大な少字数書。



〔評〕

長年修練された線質で、明るく弾んだ秀作。



記念賞

第四部 角谷弘子



この度は記念賞という大変名誉な賞を賜り、誠に有難うございました。これも偏に師匠をはじめ諸先生

方の熱心なご指導や、諸先輩、書友の皆様の温かい励ましのお蔭かと深く感謝致します。

今回の作品「遠」はどこまで追求しても果てしなく続く書の道の様なものをイメージして製作にあたりました。

これからも体力、気力等整え、古典の山をひたすら学び、又、この受賞を励みに更に精進して参りたいと思っております。今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

記念賞

第四部 三島濟美



この度は栄誉ある大きな賞を賜り、身に余る光栄と感謝の気持ちで一杯でございます。

愛知県に三度めの緊急事態宣言が発令された中で審査・運営にご尽力いただいている諸先生方、熱心にご指導下さいました師匠、受賞を私以上に喜んで下さっている社中の皆様にも心より御礼申し上げます。

今回の受賞は、一層の努力精進をするようにとの励ましをいただいたものと心を引き締め研鑽を積んで参りたいと思っております。今後ともご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

〔評〕

爽やかなリズムで空白の美を醸し出している佳作。



〔評〕

流暢な筆使いで、心とらぐ清々しさを感じる作。



記念賞

第五部 岡田麗峰

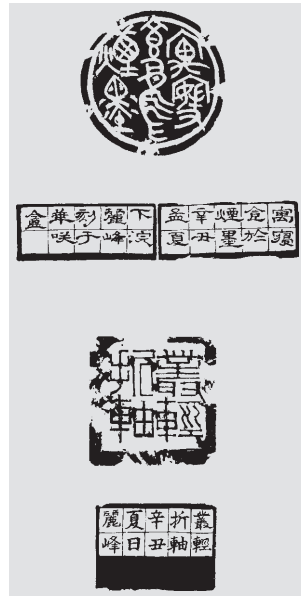


今回の作品は、「萬寢食於煙墨」の六文字を金文で円形の白文で、「叢輕折軸」の四文字は正方形で

印章を封泥風の朱文で作成しました。円形作品は、内輪郭を真円にする事や、円に沿って文字を傾けるのに苦労しました。練質も自分なりに金文の雰囲気が出る様にしたつもりでしたが、思いきり不足で稚拙な作だと反省しました。印章の作品は今回初めて挑戦した作品です。道半ばですが、これからも頑張るつもりです。末尾になり

〈評〉

白文印は圓壘の風格を追求し、また朱文印は封泥をモチーフに文字と外縁の融合を巧みにこなす。



記念賞

第五部 花村秀嶽



日々コロナウイルス拡大が報道され、外出もままならない高齢者。字典を手にした折、記念賞の吉報

を戴いた。励ましのある師のご指導の賜物と深く感謝する次第です。方寸の世界に入門し「朱白の妙味」「陰と陽」「書としての美」「制作の楽しみ」等模索して二十一年経過した。篆刻という造形美術は、迷いの世界であり弛まぬ学習と修練が必要と痛感している。真の楽しみを得るために視野を広げ様々な文化に触れ、篆刻を生涯の友として鉄筆を持ち続けたい。そのためにも「吐く息は深くゆつくりなめらかに」健康に留意

〈評〉

刀意を全面に押し出した線には緊張感があり、清新な印面を作り出した。



記念賞

第五部 紀藤捷庵



第七十回記念中日書道展におきまして記念賞として身に余る賞をいただき誠にありがとうございます。どうぞ

れも偏にご指導いただきました師はじめ、諸先輩方のお陰と深く感謝しております。日頃から印を作るにあたり、「大胆かつ繊細に」刻すことを心掛け、「常に古典に立脚し伝統を重んじた作品を」という師の教えを守り創作していますが、まだまだ努力不足と痛感しております。今後この受賞を励みに、教えを実践し精進を重ねる所存ですので、更なるご指導を賜りますようお願い申し上げます。

〈評〉

金文を取材し古璽印の法に倣い古拙秀麗な作で品格が漂う。



記念賞

第五部 水谷有志



この度は名誉ある「記念賞」の報を頂き驚きと共に感謝の思いと心より御礼申し上げます。これも偏に師

をはじめ諸先生の方々の温情と諸先輩の方々に至る全てのご恩に心より深く感謝申し上げます。今回の作品の題名は「五斗解醒」酒好きを述べたもので迎え酒の意味です。お酒が大好きな私にとっておもしろい題名と思いい取りかかりました。最初の二文字が簡易で後の二文字が画数が多い為左右で簡と密に

〈評〉

小篆の伸びやかな線状と余白のバランスが見事に兼ね合い、筆力雄健な作。



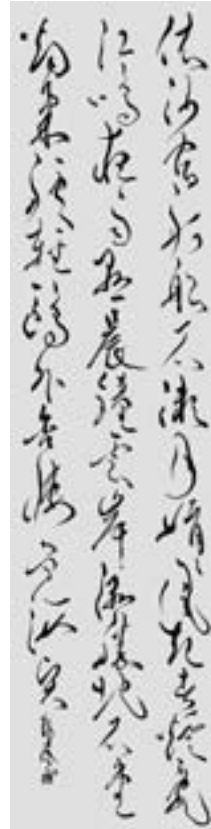
海部俊樹賞

第一部 須田 静波



この度は栄えある海部俊樹賞を賜り誠に有難うございました。これも偏に幼い頃よりご指導下さいました

師匠をはじめ諸先生、諸先輩方のお蔭と深く感謝申し上げます。今回の作は昨年度一度完成させたものを再



度一から練り直し、リズムと流麗さを求めて取り組みました。しかし残る課題は山積みで、目指す先は長いと痛感いたしております。これからはこの受賞を励みに更に一枚一枚研鑽を重ねてまいります。どうぞ今後ともご指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。

清雅で诗情豊かな精気に満ち、流動美に優れた作品。

大賞

第三部 長谷川 結



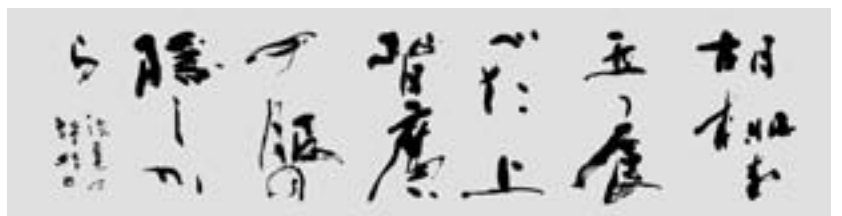
この度は身に余る栄誉を賜りまして誠にありがとうございます。これもひとえに師匠をはじめ社中の皆

様、日頃より支えて下さる皆様のおかげと深く感謝しております。私が成長出来たのも書壇の皆様と深い関わりがあったからであり、未熟な自分が恩返しできる事はないかと、システム開発やデザイン

の経験を活かして書道界の皆様をサポートして参りました。

この度大賞という栄誉を賜り、今後は、微力ながら書作家としても書道の発展に貢献出来るよう日々精進して参ります。今後ともご指導の程どうぞよろしくお願ひ致します。

飄々とした運筆が紙上を自由に展開している。余白の妙が佳。



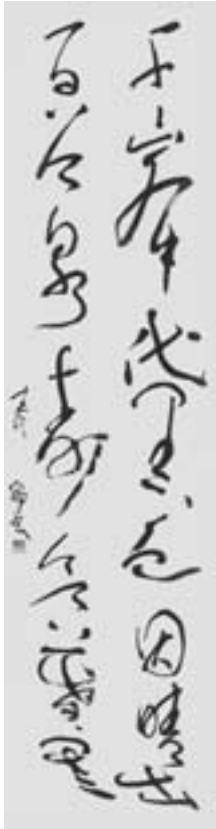
準大賞

第一部 飯田 泰 郷



昨年から続く未曾有の災禍の中、書を出る事の有難さを痛感した一年でした。そんな中、栄誉ある準大

賞の朗報に喜びとともに賞の重みに身が引き締まる思いです。審査選考にあたられました先生方のご厚情に深く感謝申し上げます。



幼少のころからここまで導いてくださった師匠の懇切丁寧な指導と諸先輩方の身守りに心よりお礼申し上げます。まだまだ未熟で遅々たる歩みの私ですが、今後も技術、感性の向上、内面の充実に努めてまいります。この度は本当にありがとうございます。

筆勢横溢、墨色に彩をみる作品。

準大賞

第一部 市橋 文 親

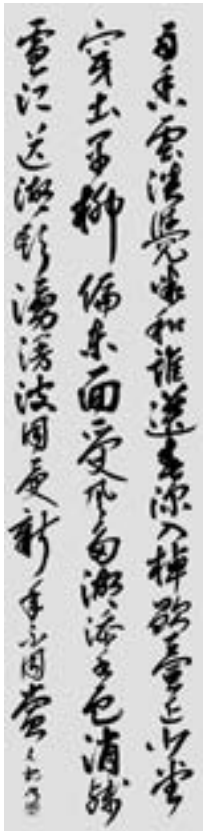


この度は、第七十回記念中日書道展に於いて準大賞という栄誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。

す。これも偏に永年にわたりご指導頂きました師匠のお陰と、心から感謝申し上げます。いつも師匠が言われる言葉として心がけていることは、とにかく上達するには、こつこつと一枚でも多く書くことと言われ、日々書き続け努力してまいりました。今回も、一枚でも多く書くように早い時期から取り組み、少

しでも自分自身でも納得できる字を書くことができるようにと心がけてまいりました。その甲斐あり今回このような賞を思いもかけず賜り、感謝しております。これからも、この賞を励みに精進してまいりますので、今後とも御指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

行間の響き良く、温雅な作品。



準大賞

第一部 伊藤 静香

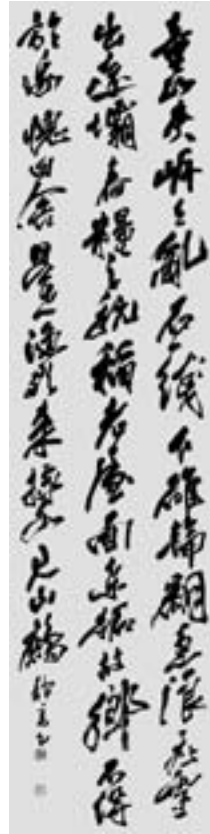


この度は、第七十回記念中日書道展に於きまして、準大賞という大きな賞を頂き、誠にありがとうございます。

まず。知らせを受けた時は驚き戸惑うばかりでしたが、恩師に授賞の報告をする中で徐々に実感がわき、今は嬉しい気持ちで一杯です。

〔評〕

構成美、骨気あり、迫力横溢した作品。



準大賞

第一部 井上 紅鳳

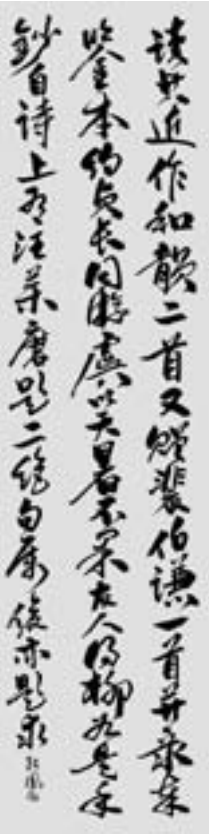


この度は栄誉ある準大賞をいただき、誠にありがとうございます。喜びと共に、賞の重さを痛感しております。

まず。これも偏に温かくご指導くださいました諸先生方の賜と厚く御礼申し上げます。墨の濃量、文字の大小、線質に気をつけな

〔評〕

豊潤な墨量、骨気と秀潤に富む作品。



準大賞

第一部 今村 寿 鴻

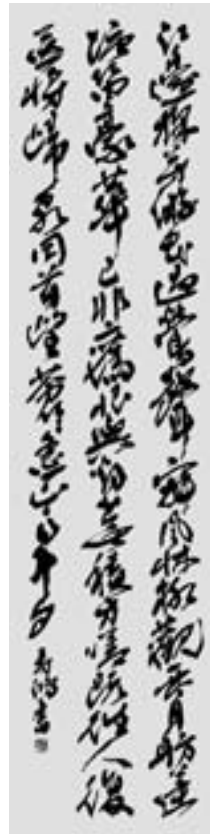


小学生の頃、表彰状欲しさに始めた習字でした。電車に乗って元新町の師匠宅へ、朱墨で真っ赤に直され

しよんぼり。帰宅途中駅までの木枯らしが目にしみて、つらかったことが懐かしく思い出されます。

〔評〕

遅速緩急流れあり、表情豊かな作品。



準大賞

第一部 内川 昌子



この度は、思いがけず栄えある準大賞をいただき、誠にありがとうございます。これも偏に師匠をはじめ

め、諸先生方のお陰と心より感謝申し上げます。ここ数年、趙子謙の書に取り組んでおりま

〔評〕

鋭く充実した筆画、すぐれた形態と趣きのある作。



準大賞

第一部 内出 紅華



この度は、準大賞という榮譽ある賞を賜り誠にありがとうございます。身に余る光栄に胸がいつぱい

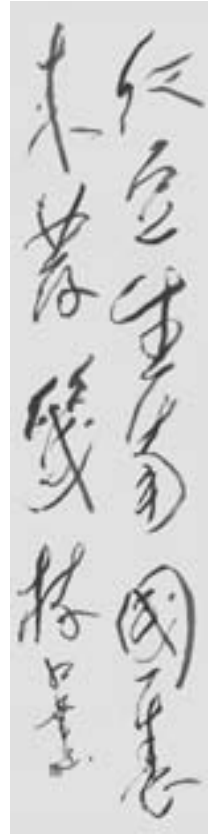
す。

幼少より今日まで、師匠の熱心なご指導のおかげで書道が続ける事ができました。受賞に

あたり、師匠への感謝の思いは言葉では言い尽くせません。また、社中の諸先生方、諸先輩方のご指導や激励あつての受賞と心から御礼申し上げます。今後は、この賞に恥じぬよう、一層努力精進を重ねていく所存です。今後ともご指導賜りますよう、お願い申し上げます。

〔評〕

昇華と神妙な生命感のある作品。



準大賞

第一部 江口 秀華



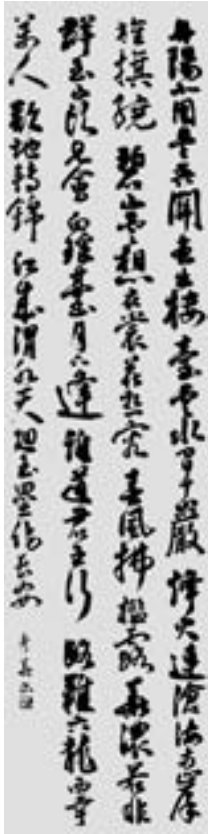
この度、第七十回記念書道展におきまして準大賞を頂き、身に余る光栄と感激で一杯でございます。これも

も偏に長年御指導下さった師匠をはじめ、諸先生方の御指導のおかげと心より感謝致しております。作品は、墨量不足に注意し、運筆の

リズム、全体のバランスを心掛け気持ちをこめて書きあげましたが、まだまだ未熟であると痛感しております。一昨年他界した父親に、親孝行できました。コロナ禍の中、書道が続けられる環境に感謝し、この受賞を励みに一層努力精進します。今後共御指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

筆線鮮やか、調和のとれた作品。



準大賞

第一部 大野 蘭香



この度は、第七十回中日書道展におきまして、榮譽ある準大賞を頂き、感謝と感動を新たに致しております。

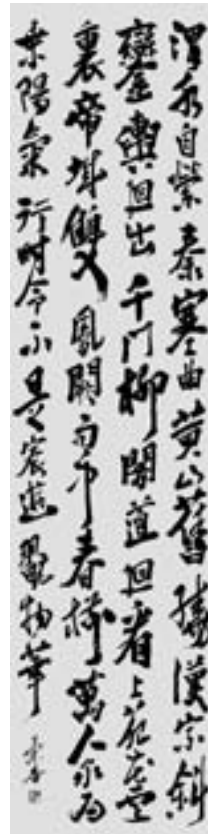
ます。

大きな驚きと喜びでいつぱいでございます。

この賞の重みをしっかりと受け止め、更なる古典の研究を求め、努力して参る覚悟でございます。今後ともよろしく御指導の程お願い申し上げます。

〔評〕

文字の大小、疏密良く、充実した構成の優れた作品。



準大賞

第一部 岡田 愛子



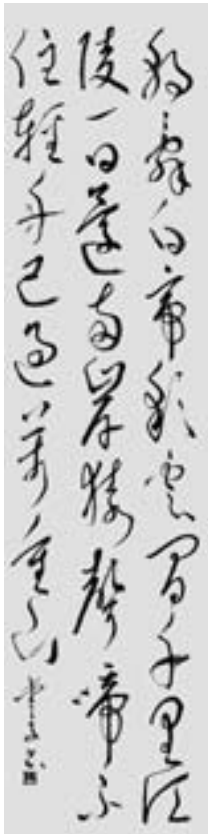
この度は準大賞という榮譽ある賞を、いただきまして、誠に有り難うございます。感激で胸がいつぱいで

す。夢みたいですが、これも師匠ならびに諸先生方の御指導の賜と、深く感謝申し上げます。今回は、李白の七言絶句に致しました。行間、

余白、に注意して、全体を見る様に心がけて、書く様に致しました。何度書いても、なかなか自分の思う様には筆が動きません、結局メ切間際まで、書いてしまいます。練習不足を痛感しています。少しでも、師匠より色々学べたいです。少しでも、師匠より色々学べたいです。少しでも、師匠より色々学べたいです。そして少しでも精進できたらと思っています。よろしくお願い致します。

〔評〕

柔らかくして力強く、ゆつたりとしたバランスのある作。



準大賞

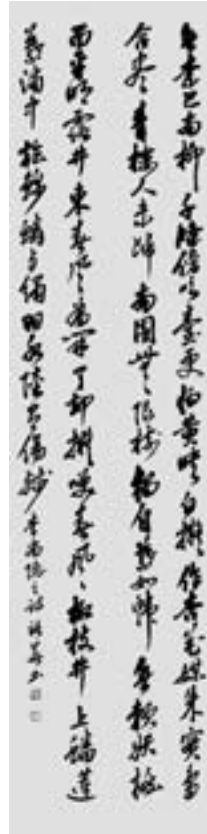
第一部 長田 裕華



この度は栄えある準大賞をいただき身の引き締まる思いで一杯です。永年、御指導下さった先生方をはじめ、支えて下さった諸先輩、書友の皆様にご心より感謝申し上げます。子どもの頃から指導してくれた母、共に作品作りをしてきた主

人を続いて亡くし、今年はさみしく思っていました。しかし、今回は主人の遺作も飾っていただけの事になり二重の喜びになりました。これからもずっと見守ってくれたいと信じ、精進してまいります。今後もご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

〔評〕 気脈を繋げ、軽やかに躍動的、そして変化に満ちた作。



準大賞

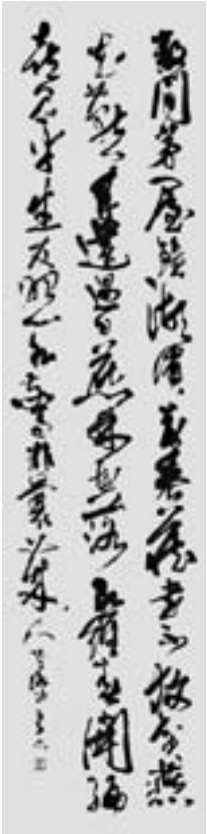
第一部 小野田 晃志



正に「晴天の霹靂」。第七十回記念中日書道展にて準大賞を賜り、身の引締まる思いです。長年に渡りご指導を頂いた師匠を始め、周囲の方々に深く感謝いたします。中日書道会に籍をおかせさせて頂いてから、この賞は一つの大きな目標で

した。師匠、諸先輩、書友の先生方からの叱咤、激励により目標が達成できたことは、私にとって大きな喜びであり、今後の励みとなることは間違いありません。「結果自然成」という神の言葉があります。今まで同様、感謝の念を忘れず新たな目標に向けて精進してまいります。

〔評〕 墨色良く、流動美に優れた作品。



準大賞

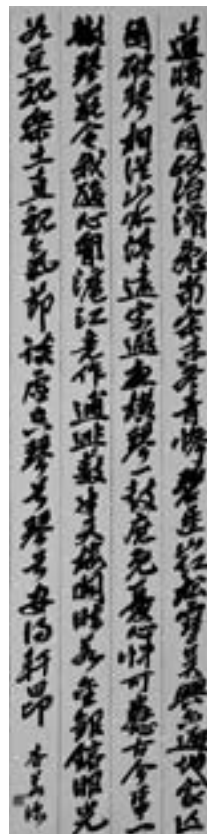
第一部 加藤 杏華



この度は中日書道展七十回記念という記念すべき年に準大賞という素晴らしい賞を頂き、誠にありがとうございます。作品の制作では、呉昌碩を日々書いていますが、筆の運び、流れ、線など学ぶべき事が

たくさんあり、書の難しさを痛感する日々でございます。今回の賞に恥じぬよう一層精進して参りますので、今後ともご指導よろしくお願ひ申し上げます。最後になってしまいましたが、小学生の頃からお世話になっていて恩師と社中の皆様にご心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

〔評〕 四行構成の調和のとれた練度の高い作品。



準大賞

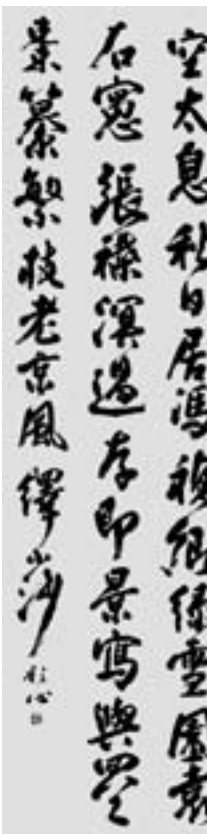
第一部 加藤 彩心



この度は準大賞という名誉ある賞を頂き、心から嬉しく思います。年少の頃より書道を続けてきました。が、思うように書けず、自分の作品と向き合うことが辛い時期もありました。しかし、諸先生方の作品を眺めると心が洗われるような

感動があり、やはり自分は書道が好きなのだという確信を持つことができました。下手でも細々でも書き続けていこうと思いつき、現在は仕事と家庭の合間に紙に向かう時間を、大切な心の支えと感じています。ここまで支えてくださった恩師、書友、そして家族へ感謝申し上げます。

〔評〕 形姿良く、重量感のある作品。



準大賞

第一部 加藤 苔苑



此の度は栄誉ある準大賞を賜り、誠にありがとうございます。ご覧にございます。これも偏にご指導を頂いた諸先生方のお陰

と感謝申し上げます。

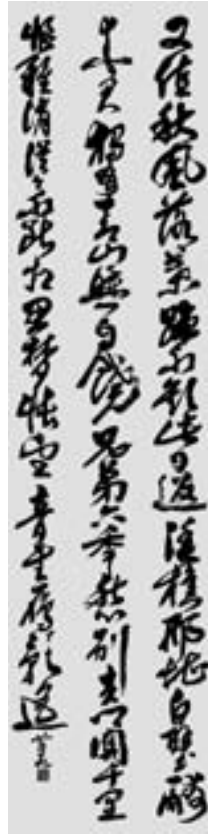
作品作りは詩の選択から始めます。字数から傳山の草書七言律詩を選びました。字の並

び画数の多い字が適度にある事など考えてこの詩を選びました。先生もこの詩で良いと言って下さったので安心して望めました。

まだまだ未熟で表現できない事が多いのですがこの受賞を励みにこれまで以上に精進してまいりたいと思っております。今後とも一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

《評》

墨痕鮮やか、表情豊かな作品。



準大賞

第一部 加藤 智加



この度は栄えある準大賞を賜り、誠に有難うございます。これも偏にご指導いただきました師匠は

じめ、諸先生方、諸先輩方のご支援のお陰と、心より御礼申し上げます。今回の作品は、力強い線で書くことを心掛け、迫力ある作品に

なるよう制作に臨みましたが、墨量や線質など思うように表現できず、課題が多く残りました。まだまだ未熟ではありますが、この受賞を励みにこれまで以上に精進してまいりたいと思っております。今後とも、一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

《評》

古典に立脚した形象と筆線に優れた作品。



準大賞

第一部 加藤 豊盛



この度は、栄えある準大賞を頂きましたこと、とても栄誉あることと感動しております。誠にありがとうございます。

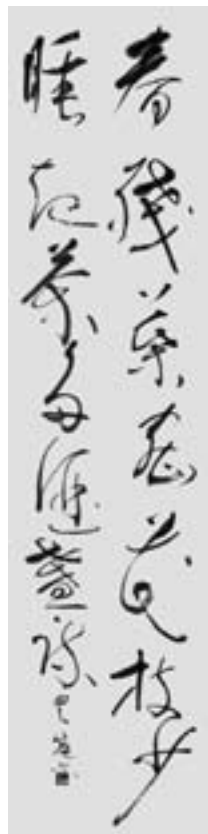
うございます。

この栄誉は私個人の力ではなく、これまで私を指導して育ててくださった師匠と諸先生

方と、支えてくれた家族のお陰であると実感しております。今後とも、多くの方々にお力添えを頂きながら、精進して参ります。

《評》

変化を重ね流行性のある表現豊かな作品。



準大賞

第一部 川端 柳園



この度、第七十回中日書道展に於きまして、栄誉ある準大賞を賜り、喜びと共に身の引き締まる気持ちで

一杯です。小学生から書道を始め、書から離れる期間があったり、仕事・家事・育児と日々の生活に追われ、なかなか時間が取れない中、今日

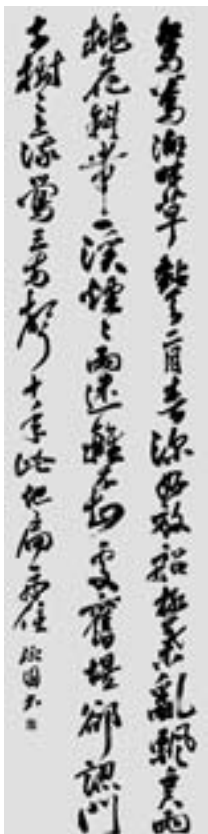
迄継続出来たのも、亡き師をはじめ、師匠、社中の方々、家族のお蔭と心より感謝しております。

墨量、行間、筆の速さに気を配りながら作品を仕上げていきますが、日々書の奥深さを痛感しております。

今後共、ご指導賜ります様、宜しく申し上げます。

《評》

爽やかにスッキリとした風韻のある作品。



準大賞

第一部 神田 醉月



この度は準大賞を賜り誠にありがとうございます。ご指導くださる恩師をはじめ諸先生方や書友の皆様のお陰と感謝申し上げます。

日々雑事に追われるなか、唯一、書に向かう時は無心になれる時間であり、白い紙に黒

い墨で表現する世界に引き込まれていく自分を感じます。そんな感覚に魅了され今日まで書き続けることが出来ました。この受賞を励みに、今後も一作品、一文字ごと丁寧に着いて参りたいと思います。まだまだ実力不足の私ですが、皆様のご指導を仰いで精進する所存です。よろしくお願いいたします。

〔評〕 行間良く、造形美豊かな格調ある作品。

準大賞

第一部 小塚 芳 黎



この度は準大賞という栄えある賞をいただきことができ、この賞は先生方の熱意あるご指導のおかげと深く感謝申し上げます。

このような栄誉は自分には縁のないものだと思っておりましたので、知らせを受けたと

きは感激いたしました。本当にありがとうございます。そして忙しい中でも練習を続けることを応援してくれた家族にも感謝しています。今後とも努力を怠らずに日々精進してまいりたいと思いますので、より一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

〔評〕 構成美、流動美に優れ、品位に富む作品。

準大賞

第一部 倉 知 葉 舟

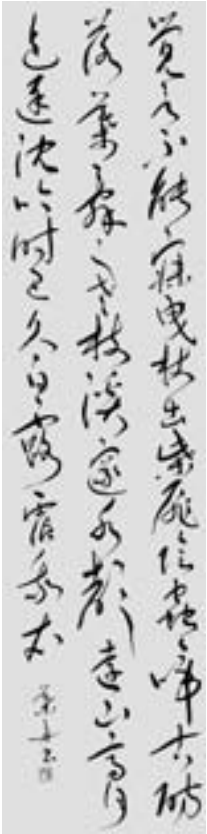


この度は、思いもかけず栄えある準大賞を賜り誠に有難うございます。朗報をいただき驚きと喜びの気持ちで一杯です。

これも偏に熱心にご指導下さいました師匠はじめ、諸先生方や社中の皆様、家族の理解

と支えのお蔭と心より感謝申し上げます。行間や余白の美、力強くリズムカルな流れを出す作品になる様心がけましたが、まだまだ未熟さと書の奥深さを痛感しております。この受賞を励みに、更なる精進をして参ります。今後ともご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

〔評〕 疎密強弱渾然一体、造形美に優れた作品。



準大賞

第一部 近 藤 星 崖

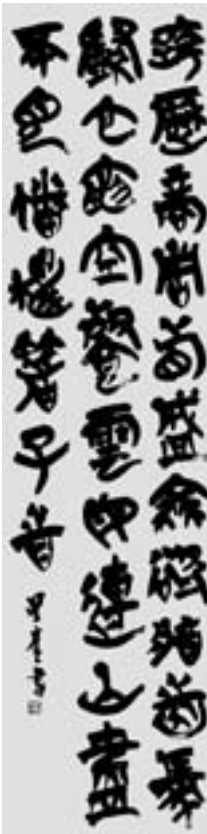


この度、準大賞という栄誉を頂き、恐悦至極の思いです。これも、常日頃より御指導を頂いております

師匠や諸先輩方、鎬を削る同輩達のおかげでと心より感謝致します。幼少期より書を始め、大学時代に恵まれた

仲間達と出会い、書続ける決心をしました。別段、何か取り柄のある私ではありませんでしたが、このような栄えある賞を頂きましたことを誇りに思います。書の奥深さを知るにはまだまだ浅学で到底及びませんが、少しでも書の世界に触れることができたらと思いい、今後も精進し、励んで参ります。

〔評〕 風韻、氣勢良く、力強く古典を踏えた心手双暢の作。



準大賞

第一部 酒井 悠 泉



この度は名誉ある準大賞をいただき、未熟な私には身に余る光栄です。有難うございました。これも偏

に熱心にご指導下さいました師匠をはじめ諸先生方、社中の先輩方のお蔭と深謝し心より御礼申し上げます。

〔評〕

小学高学年より書を始め、結婚子育てと数年お休みしていましたが、再び指導して頂いたお蔭でこの日を迎える事が出来感無量です。

今回墨量と字の大小に配慮し、リズムの良い作品を意識しました。今後より一層精進して参ります。本当に有難うございました。

準大賞

第一部 佐藤 琉 華



この度は、中日書道展におきまして、「準大賞」をいただき、驚きと喜びの気持ちで一杯です。誠にあり

がとうございました。これも偏に幼少の頃より温かくご指導くださった恩師をはじめ、諸先生方、社中の皆様のお蔭と深く感謝申し上げます。

〔評〕

行間よく、余白の息づいた安定感のある作品。

今回、文字の大小、行間、墨量等を考慮し、躍動感のある作品を心掛けました。まだまだ未熟ですが、これからも今回の受賞を励みにもご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

準大賞

第一部 桜井 光 雲



この度は思いもよらぬ準大賞を頂き、身に余る榮譽に恐縮しております。

これら偏に温かく熱心にご指導くださいました師をはじめ、諸先生、先輩、書友の皆様のお蔭さまと心より感謝申し上げます。

〔評〕

風采いきいきとした気韻のある作品。

作品制作にあたり、特に気脈・強い線・スピードに気をつけるように師から常々指摘されていますが、今回も思うような線が書けず練習不足を痛感致しておりました。課題を克服していきけるよう、これからも歩みを止めることなく努力を重ねて参りたいと思います。今後ともご指導の程宜しくお願ひ申し上げます。

準大賞

第一部 篠田 瑞 芳



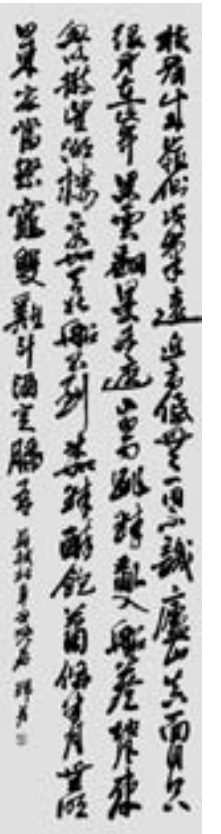
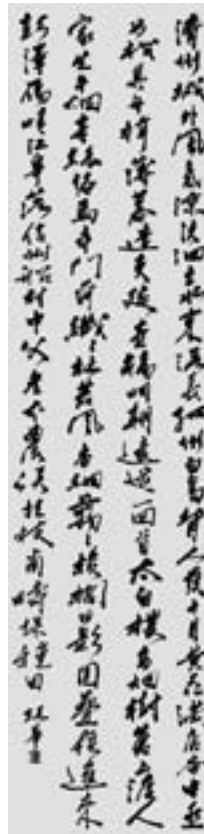
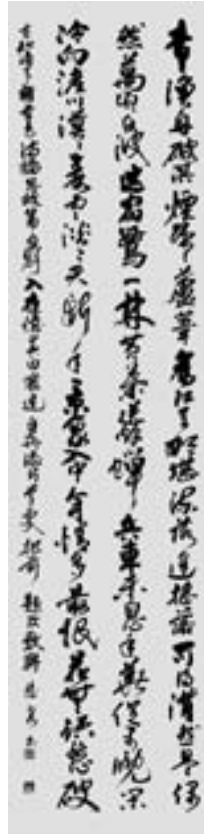
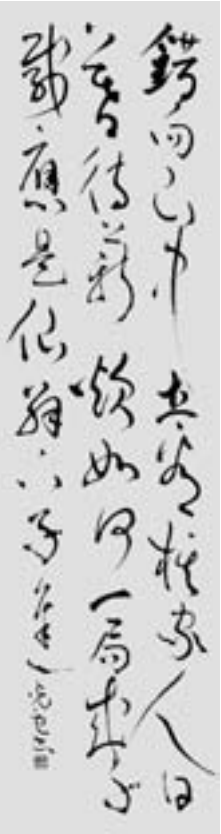
この度は、栄えある準大賞を頂き、誠に有難うございました。これもひとえにご指導下さいました師をはじめ、いつも応援し支えてくれた家族のお蔭と深く感謝しております。

子育て真っ只中、書に向かう時間が心静か

〔評〕

行と行との相互の響き良く、明るく雰囲気を持つた作。

になれる唯一の時間です。流れや線のキレ、師のアドバイスを頭に筆を運ぶも思うようにはいかず、試行錯誤の毎日です。「継続は力なり」と自身を励ましなが、この度の賞に恥じぬよう一層努力を重ねて参りますので、ご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。



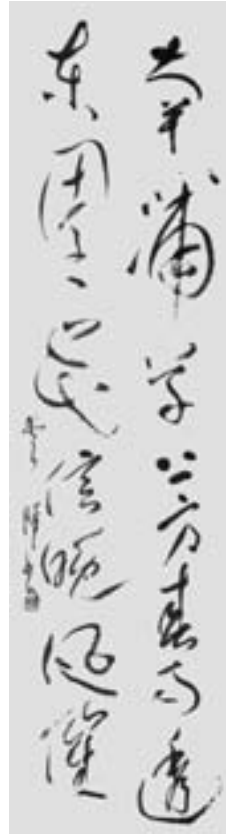
準大賞

第一部 高桑 愛 降



この度は、準大賞という大変栄誉ある賞を賜りまして誠にありがとうございました。ございました。

これも偏に、幼少より熱心に御指導下さいました師匠はじめ、諸先生先輩方、そして家族のお蔭と心より感謝申し上げます。



自分の中で目標としていたものが現実となり嬉しさと、過分な受賞に身の引き締まる思いです。「継続は力なり」と信じ「書」を続けられる事に感謝し、一步一步精進して参ります。今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

準大賞

第一部 田中 春 華



栄誉ある準大賞を、七十回という歴史ある中で頂きました事に感激しております。思い起せば、恩師の教室の隣で生まれ育ち、教室に通うようになり、筆を持ち書いている中で、書に対する姿勢、心を学び今日に至りました。迷い悩む事も少



なからずありましたが、その毎に恩師の温かい言葉で励まして頂き、社中の皆様にお世話になりながら、筆を取り続けられた事を心から感謝しております。

これからもこの賞に恥じる事のなき様精進して参りたいと思っておりますので御指導の程を宜しく御願ひ申し上げます。

〈評〉

安定感のある品位に富む充実した作品。

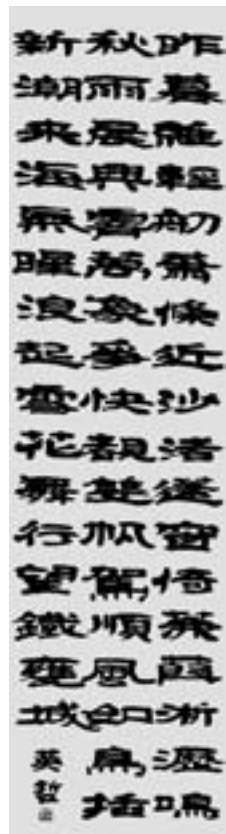
準大賞

第一部 坪井 英 哲



この度は、第七十回記念中日書道展に於いて、この様な栄えある賞を頂きまして唯々喜んで居ります。誠に有難うござ居りました。

戦後間も無い厳しい社会情勢の中、就職し特技、趣味等無い儘定年を迎えました。定年に有難うござ居りました。



後の人生、時間を考えますと、一人で出来、集中出来る、という事で書道を始め二十余年、今日の喜びを、師匠、先輩先生方に少しでも報いる様、一層頑張り励みますので宜敷くお願い致します。

余白、行相互の響き等、配慮のゆきとどいた作。

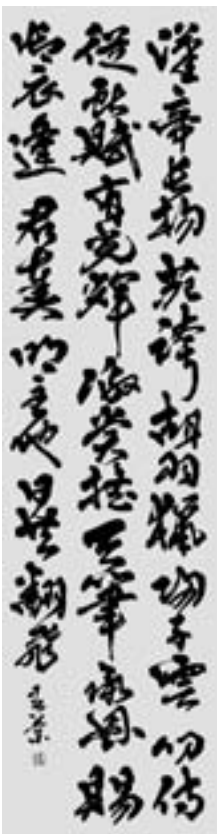
準大賞

第一部 寺岡 春 蘭



終息の見えないコロナ禍により、どことなく暗い気持ちで日々を過ごしております。

が、作品作りを通して、明るく前向きな気持ちを取り戻すことができました。そして、この度の思いもかけない受賞に、大変驚きましたが感激も一入で



私の稚拙な作品に対し、丁寧に、かつ熱心にご指導を賜りました師匠には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。これからも、初心を忘れず書を楽しみながら成長していきたいと思っております。

〈評〉

溫和で繊細、安定した優れた作品。

準大賞

第一部 寺田 祐峰



この度は、身に余る準大賞を賜り誠にありがとうございました。いづも温かく熱心に、ご指導下さいまし

た恩師を始め諸先生方、社中の皆様のお蔭と深く感謝申し上げます。五、六年程前から篆書体に興味を持ち始め

て各展に出品する様になりましたが、文字表現美しさ等々難しい事ばかりでなかなか思いう様な作品が出来ず自分の未熟さをいつも思いしらされます。今回頂いた賞を上げみに、書道が続けられる環境に感謝しつつ、これからも古典の探究を積み重ね精進していきたいと思っております。今後共宜しく御指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

確かな結構、行相互の響きよく、構成美のある作。



準大賞

第一部 寺西 智 鶴



この度は、中日書道展に於きまして、準大賞という賞を戴き誠にありがとうございます。これも、偏に

師匠をはじめ教室の皆様のご指導と励ましのお蔭と感謝申し上げます。昨年はコロナ禍の為に中止に成り残念でし

た。今年に入り開催される事を知り参加を決め李白の詩を書かせて頂きました。同じ文字が多く有り、文字の大小、書き方等試行錯誤するも力不足を思い知らされる毎日でした。これからも、自分なりの表現が出来る様一層努力してまいります。今後共、変らぬご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

静中の動、温雅にして品位に優れた作品。



準大賞

第一部 藤 堂 弘 風



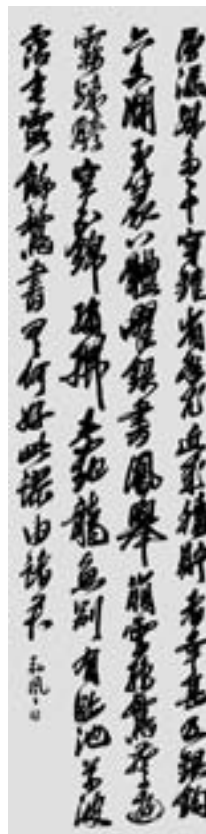
この度は身に余る賞を賜りまして、誠にありがとうございました。思いがけない受賞に嬉しさと驚きで

いっばいです。これも偏に長年にわたり熱心に御指導下さいました師匠をはじめ、諸先輩方のお蔭と心より感謝致しております。

作品制作においては、一枚の作品の中で見せ場を作れるように心掛けました。まだまだ未熟で力量不足を痛感しておりますが、作品の礎である古典の臨書を大切に、より一層努力し精進して参りたいと思っております。今後とも御指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

骨気と秀潤に富む立感に満ちた四行構成の作。



準大賞

第一部 豊 嶋 青 岑



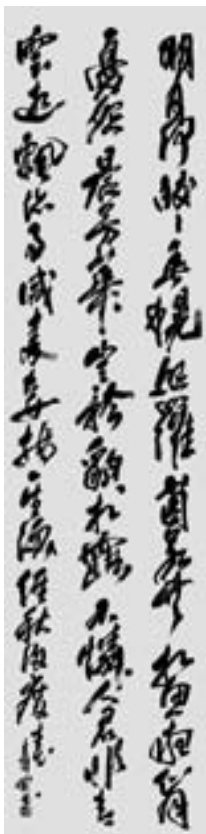
この度は栄えある準大賞を賜り喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。これも偏に温かく熱心に御指導下さ

いました師をはじめ、社中の諸先輩方、書友の皆様のお蔭と心より御礼申し上げます。作品は線質と墨量や余白のバランス等を考

え取り組んで参りましたが、まだまだ未熟さを痛感しております。子どもの頃より書を習う機会に恵まれ、これまで続けて来られた環境と支えてくれる家族に感謝し、今後尚一層研鑽を重ねて参りたいと思っておりますので、御指導の程よろしくお願い申し上げます。

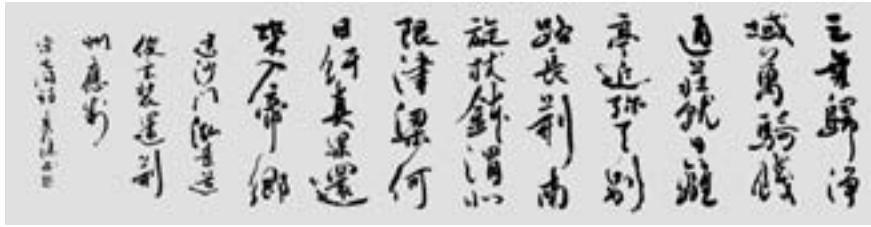
〔評〕

運筆に淀みないリズムで力強い作品。



準大賞

第一部 田垣 秀 條



この度は、準大賞という荣誉ある賞を賜りまして、誠に有難うございます。電報を受け取り嬉しさと、賞の重みに身が引き締まる思いで一杯です。これも偏にご指導いただきまし

た師匠をはじめ、諸先生方のお陰と深く感謝申し上げます。幼き頃より書が好きで、書道のできる環境にも恵まれ、強く生きた線を追究してまいりました。まだまだ勉強不足のところがありませんが、この賞に恥じぬよう、今まで以上に精進してまいります。今後とも、ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

準大賞

第一部 西田 康 華



この度は、栄えある準大賞を賜りまして、誠に有難うございました。

思えば師の迫力ある書に魅せられて門戸を叩きましたものの、腱鞘炎になる程書いてもなかなか会得できませんでした。けれども、師の温かい御指導や、社中の皆様の励ましのお陰で受賞に至り心より感謝申し上げます。

今回は線の強さに加え、字の大小、墨量、リズム等に留意して書き上げました。今後は、豪快かつ切れの良い線をめざし、私の作品を観て頂いた方々に、元氣と感動をお届けできる様、精進してまいります。

安定感と余裕のある力強い作品。

準大賞

第一部 服部 瑞 花



この度は第七十回記念中日書道展におきまして準大賞という荣誉ある賞を賜り誠にありがとうございます。思いがけない吉報を頂き驚きと喜びの気持で一杯でございます。

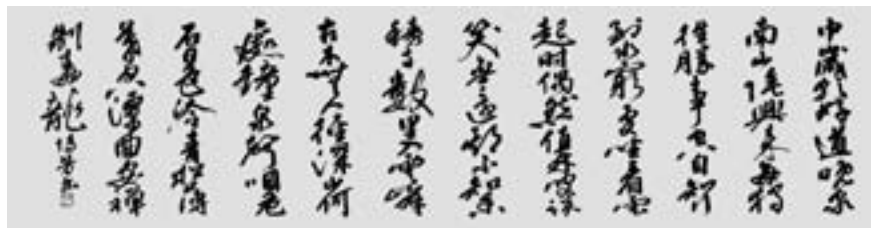
これも偏えに師匠をはじめ、諸先生方のご指導とご高配、そしていつも協力と応援をしてくれる家族のお陰と深く感謝し、心よりお礼申し上げます。

今回の受賞を励みに、心を引き締めて一層努力・精進する所存でございます。どうぞ今後共にご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

相讓相避、構成に細やかな配慮をみる形象と生氣あふれた作。

準大賞

第一部 福田 博 芳



このたびは第七十回中日書道展において、栄えある準大賞を賜り、誠にありがとうございます。これも偏に、師をはじめ諸先生方の温かいご指導・ご鞭撻の賜と感謝申し上げます。

作品制作にあたり少しでも古典の薫りが出るよう心がけたつもりですが、文字の大小、墨量、潤滑、余白、行間の響き等々課題は多く、未熟さを痛感しています。

今回の受賞を励みに、より一層古典を学び精進してまいりますので、今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

行間良く筆の開閉、振幅あり、品位ある作品。

準大賞

第一部 中川 瑞風



此の度は思いがけず準大賞を賜り深く御礼申し上げます。偏に師匠・諸先生方の御指導と御恩情、家族の支援の賜と心より感謝申し上げます。五歳で筆と出会い以来、墨の香りと様々な古典に魅了され書が続けられた事、書を通じて御縁出

来た皆様より貴重な教えを賜って参れました事に感謝の思いでいっぱいです。今回の作品は、『拙くとも巧みであつてはならぬ』という傅山の書論を学び、心の躍動を」と書きました。まだまだ未熟な自身そのものですが『誕宏志』で精進して参る所存です。今後共何卒ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

〔評〕

重厚感のある大胆な筆致、優れた筆意を彷彿させる作。



準大賞

第一部 中山 芳泉

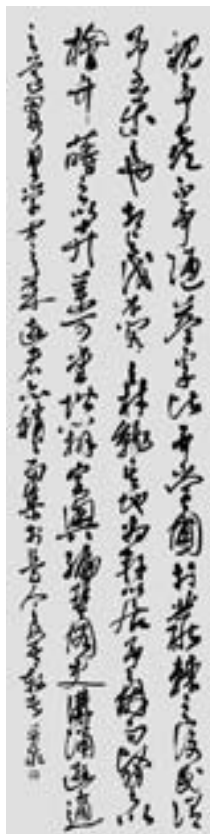


この度は、準大賞という荣誉ある賞を頂きまして、誠にありがとうございます。時には厳しく時にはやさしく御指導下さいました師を始め、諸先生方、社中の皆様、家族の理解に深く感謝申し上げます。「継続は力なり」という言葉を胸に努力してきました。

色々学んでいくうちに「王守仁」の字の形の美に心ひかれ、今回作品にしてみました。力の方はまだまだですが、この賞を励みに、気をひきしめ精進していきたいと思っております。これからもご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

ゆつたりと紙面のバランスをとり、明るい作品。



準大賞

第一部 根津 郷巴

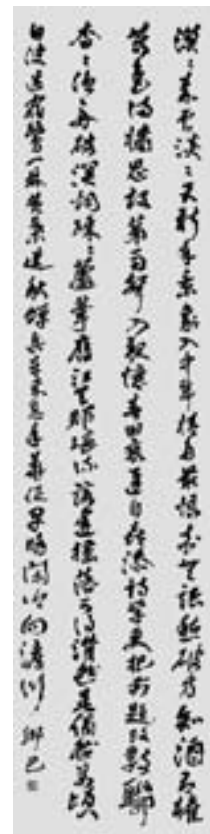


この度は思いがけず準大賞を頂きありがとうございます。母に連れられて始めた「習字」の事をいつの日か「書道」と言う様になり、もう少して半世紀になります。学生時代は部活で、社会人になってからは仕事で、結婚後は

仕事と家事で思う様に筆を持つ時間を作るのができず何度も挫折しそうになりましたが、根気強く優しくご指導下さった先生方のお陰でこの様な賞を頂く事ができ感謝でいっぱいです。書の道はまだまだ長いですが、この賞を励みに頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

〔評〕

淡々と書き進めながら清新に変化して、好感度ある作品。



準大賞

第一部 根谷 捷子

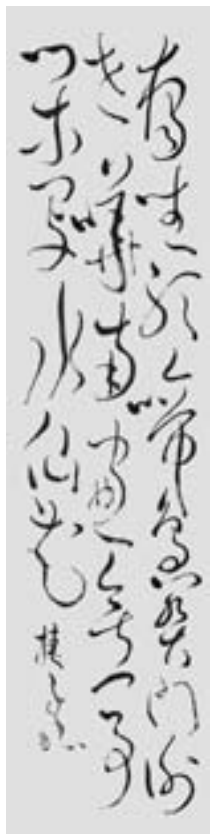


好きな題材が形になっただけでも嬉しかったのに、準大賞の朗報までいただき、新型コロナウイルス禍にあつて、ひと筋の光が射したような瞬間でした。誠にありがとうございます。書の道に導いてくださった師、強力な同門仲間の皆様、一緒に喜んでくれる家族があつ

て成し得たことと深謝いたしております。作品については、詩に因んだ書簡等からも見えてくるものを汲みとることができました。今後も、心に響く作品ができたらいいなあと果てしない夢を追いながら、時の許す限り仲間の方々との研鑽を楽しみに励んで参りたいと思います。

〔評〕

大胆な筆致と構成、表情豊かな作品。



準大賞

第一部 野村 怜光

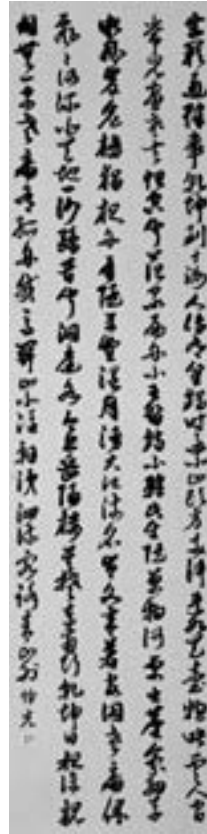


この度は伝統ある中日書道展で、栄えある準大賞をいただき誠に有難うございます。賞の重みに身の

引き締まる思いです。これも偏に恩師、諸先生方の御指導のおかげと深く感謝しております。

〔評〕

充実した五行構成、行間良く爽やかな作品。



準大賞

第一部 花井 蘭 徑



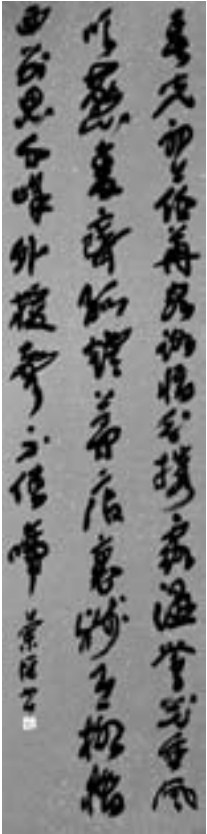
この度は第七十回記念中日書道展におきまして準大賞という栄えある賞を頂き誠にありがとうございます。

す。これも偏に師匠はじめ諸先生方の温かいご指導に感謝申し上げます。今回の作品は長年練習してきた王鐸を基本

〔評〕

に墨の濃淡、墨量、行間の余白、文字の大小に気を付けて単体に挑戦しました。「継続は力なり」を座右の銘として今後も続けていこうと思えます。今後共にご指導の程よろしくお願い申し上げます。

ゆつたりとした豊かな表情に富む、調和のとれた作品。



準大賞

第一部 浜島 緑 風

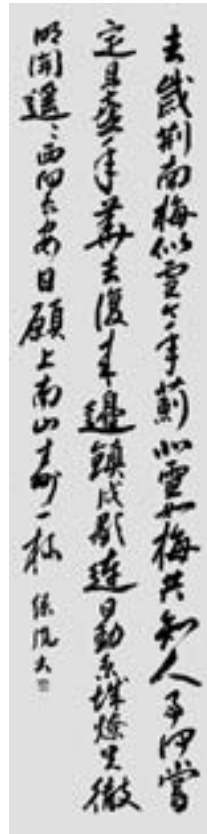


この度、第七十回記念中日書道展において、栄誉ある準大賞を賜り、誠に有難うございます。驚きと共に

重圧で、身が引きしまる思いです。これも偏にご指導下さいました師匠はじめ、諸先生書友の皆様のお蔭と、心より感謝申し上げます。

〔評〕

静中の動、温雅にして品位に優れた作。



準大賞

第一部 早川 緑 園

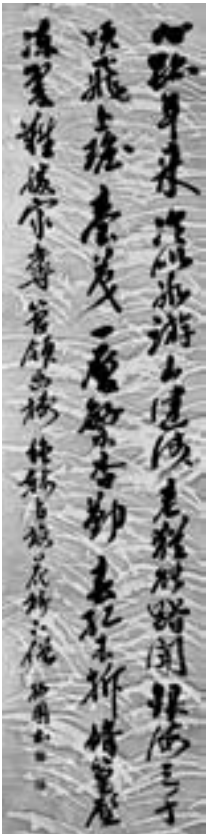


これまでご指導いただきました諸先生に、厚くお礼申し上げます。師匠の暖かく、細やかで、粘り強い指導のもと、目標をもって基本軸を見失うことなく稽古でできましたことを、幸せに思います。

若い方、幼い方と一緒に学ぶ中で、かつ自身も幾度も注意を受けたことを、思い起こすことができました。今の自分だったら、どう捉え書き表わすのかと考える機会となり、刺激を受け、大きな励みとなっております。この後も、末永く書に親しんでゆけますよう足元を見詰め精進してまいります。

〔評〕

骨気と秀潤に富む立感に満ちた作品。



準大賞

第一部 林 由美



この度は、栄えある準大賞をいただき、ありがとうございます。コロナ禍で籠りがちな生活のなか、朗

報は嬉しく心に染みました。審査にあたられた先生方、懇切丁寧に指導を続けてくださる先生のおかげと思い、深く感謝いたします。

今回は、苦手意識のある縦長の作品に挑戦しました。徐々に迷いはふつきれ、筆を運ぶ手が軽くなり、無心で取り組めた気がします。これからも、作品づくりや鑑賞を通して、書の奥深さを認識する時間をもち、生涯学習として、できるだけ長く続けていきたいと思っています。

行間良く、力強さを持った充実した四行構成の作。

準大賞

第一部 深谷 紅蘭

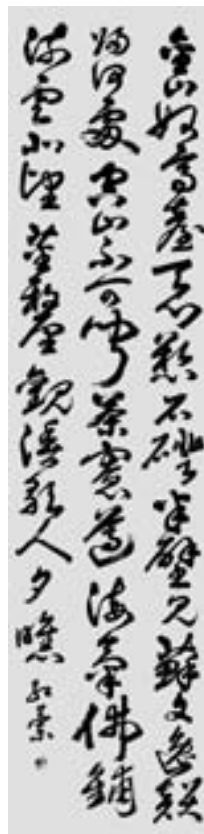
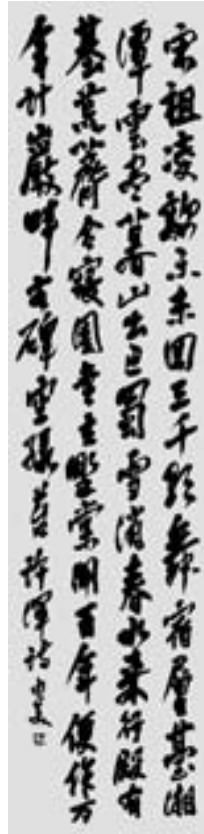


この度第七十回記念中日書道展に準大賞受賞の栄を賜り驚きとうれしさ感謝の気持ちでいっぱいです。

これも偏に師匠はじめ諸先生方の温かいご指導、ご高配のお蔭と深く感謝しお礼申し上げます。

これからもこの賞に恥じないよう心を引き締めて、一層、努力、精進して参りたいと思っています。今後ともよろしくご指導の程、お願い申し上げます。

ゆったりと伸びやかな線で、安定感のある作。



準大賞

第一部 深津 陽雪



この度は、第七十回記念中日書道展におきまして「準大賞」を受賞し、身に余る光

栄と感謝の気持ちで一杯です。これも偏に諸先生・諸先輩方のご指導とご高配のお陰と深く感謝いたしております。中日書道展には高校生の時から毎年

出展をしてきましたが、新型コロナウイルスの世界的感染拡大により昨年は開催中止となり、今もなお終息が見えない不自由な生活の中で、作品と向き合い書き上げました。今後この賞に恥じないように一層精進していきたいと思えます。今後ともご指導の程、よろしくお願い致します。

形姿良く、豊かな表情に富む作品。

準大賞

第一部 堀田 智洋

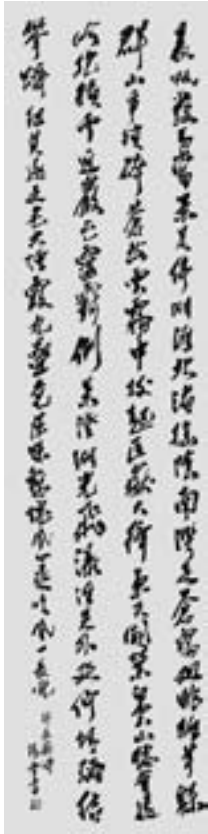


玄関に無造作に置かれた手紙の中に、目を疑う電報が一通。まさか、

なり、胸おどる瞬間でした。準大賞の文字を見た時、恩師、師匠、諸先生方、社中の皆様、家族、友人、もうすべての方に感謝です。王

鐸の書が好きで、書き続けてきたというものの毎回つまづき、安易に好きだけでは書けないむずかしさを痛感しながらの道のり。これからも精進せよとの言葉のように思います。この度は本当にありがとうございます。

豊潤な墨量や立体感あり、表現豊かな作。



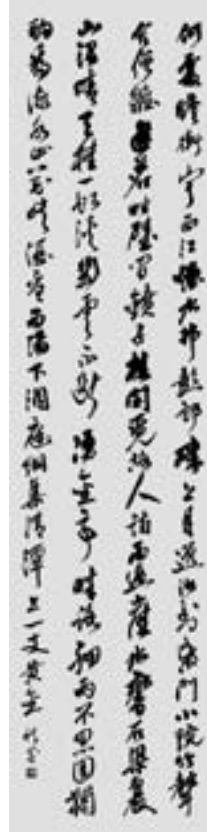
準大賞

第一部 松永秋花



準大賞のお知らせ
せを頂いた時には嘘でしょうという思いでした。コロナ禍の中やる気が無くしており、鉛と鞭を頂いた様な気持です。

先生は若い人は若い人の持つている勢いのある字、年を重ねた人はそれなりに味わい深



い字とお話しされます。今回の作品は字を大切に書く事は無論、行間の役割、美しさを考えながら取り組みました。年ばかり重ね味わいのある字からは程遠いのですが、明日死ぬかのように生きなさい。永遠に生きるかのように学びなさい。(ガンジー) 学ばなくては、先生ご指導よろしくお願ひ致します。

すっきりとした光彩を放ち雅趣のある作品。

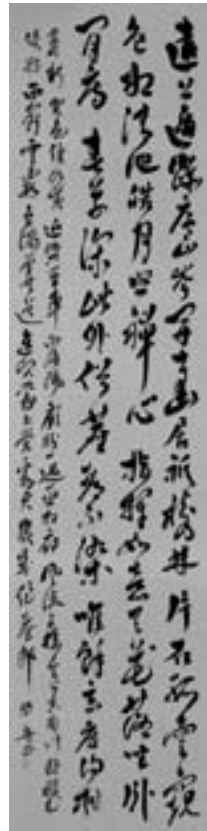
準大賞

第一部 森川紫舟



この度は、中日書道展において、準大賞をいただき、誠にありがとうございます。これもおかげに、幼

い頃からご指導を頂いている先生のおかげと感謝いたしております。受賞を知らされた時、継続は力なりという言葉が頭をよぎりまし



た。毎年、書道展へ行つては、他作品の素敵な線、構成を見つけます。同時に、自分の作品の貧弱なところも反省し、そして、次回はどうな作品にしようか考えています。これからも、この賞を頂きましたことを励みに、書道続けていきたいと思ひます。

虚と実が共に耀き豊かな趣きを持った三行二行の作。

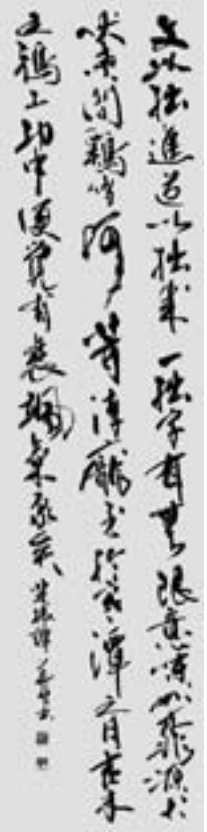
準大賞

第一部 村田華雪



この度、中日書道展におきまして準大賞を頂きありがとうございました。これも偏に師匠はじめ諸先生方

のお蔭と深く感謝しております。父のすすめでも何となくはじめた書道ですが年月を経て思いもよらずこの様な栄誉ある賞



を頂いた事に感慨無量の気持ちでございます。制作中は墨の濃淡を出す事、リズムカルな筆線の流れがあり全体として自然に調和した作品になるよう心がけ制作にはげみました。今後は賞に恥じぬよう前進してまいりたいと思ひます。これからもどうぞよろしくご指導の程、お願い申し上げます。

墨量の変化と余白の美しさが調和した構成豊かな作。

準大賞

第一部 森山溪花



この度は、栄誉ある準大賞を拝受し身に余る光栄と深く感謝申し上げます。これも偏に厳しくも温かく熱

心にご指導下さいました師をはじめ、家族の支え、書友の皆様のお陰と心より御礼申し上げます。



ここ久しく、呉昌硯の書法に取り組んでおりますが、重厚で鋭い筆致には程遠く、未熟さを痛感しております。

この受賞を励みに一層精進する所存ですので今後とも御指導賜ります様よろしくお願ひ申し上げます。大胆な筆致と優れた筆意、構成美に優れた作。

準大賞

第一部 安田 彩霞



この度は思いも
しなかった準大賞
をいただきました。
師匠をはじめ、
諸先生方のご指導
と励ましのおかげ

と心より感謝申し上げます。

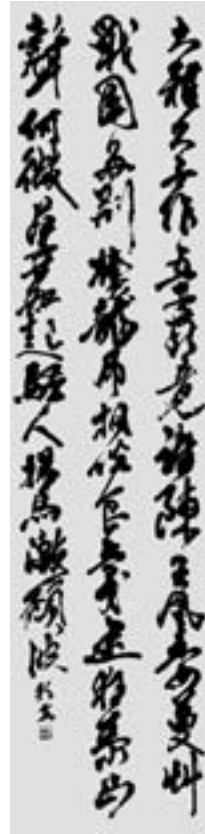
思い起こせば、実家の前が書道塾で、楽し
そうに通う塾生たちにあこがれ、小学一年生

の時から練習を続けてきました。書道を通し
て多くの方々のご縁をいただき、導かれ、
書に向かう力をいただきました。

今後も精進してまいります。ますますのご
指導とご鞭撻をいただきますよう、よろしく
お願い申し上げます。

〔評〕

遅速緩急あり、作品構成の妙。躍動感のあ
る作。



準大賞

第一部 山本 小谿



この度は、荣誉
ある準大賞の栄に
浴し喜びと共に身
の引緊まる思いで
一杯です。
ご指導下さいま

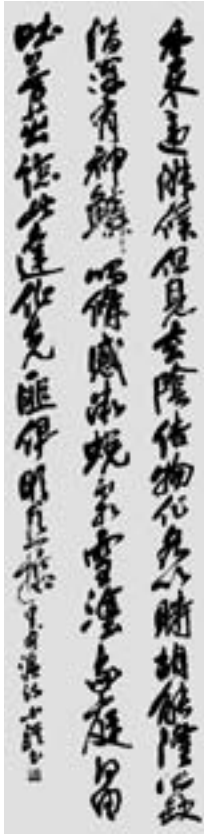
した師匠、諸先輩方のお陰と、心より感謝申
し上げます。
作品を書くにあたり、潤濁に配慮、特に濁

の部分を目指を受け苦勞致しました。

今後は深遠な書の道を楽しみつつも、しつ
かり対峙して上達できるよう精進して参りた
いと存じます。今後ともご指導、ご鞭撻の程
お願い申し上げます。

〔評〕

豊潤な墨量、生気の横溢、流動美の優れた
構成の妙が窺える作品。



準大賞

第一部 吉田 聖汀

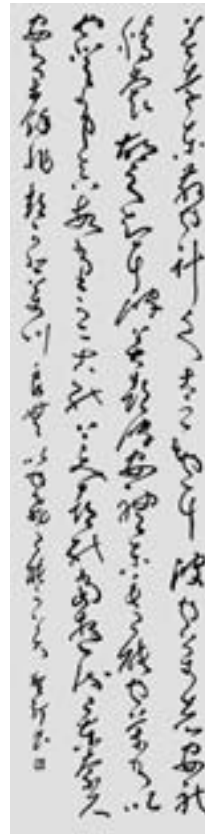


この度は、荣誉
ある賞をいただき
ありがとうございます
ました。ここ数年
は、仕事と育児に
追われておりまし

たが、師匠、諸先生方の温かいご指導の下で、
書に徹することが出来ました。深く感謝して
おります。

良寛の書は、線が細く繊細で、美しさを感じ
ます。繊細であるが故に、いかに生き生き
とした線を出すかが、この作品の難しさでも
ありました。まだまだ未熟ではありますが、
これからも日々努力を重ねて精進していく所
存です。今後ともご指導の程、宜しくお願
い致します。

〔評〕
古典に習熟、躍動感のある優れた作。



準大賞

第一部 渡邊 香蘭



この度は、荣誉
ある準大賞を賜り
まして身に余る光
栄と感謝の気持ち
で一杯です。
これも偏に温か

く見守り、ご指導いただきました師、諸先生
皆様方のお陰と厚く御礼申し上げます。
作品制作では、鋭い線質、リズム感のある

運筆を心掛け取り組みましたが、勉強不足を
痛感しております。

まだまだ未熟な私ですが、謙虚さと感謝の
気持ち忘れずに、この賞に恥じぬよう、一
層精進して参りたいと思います。
今後ともご指導の程よろしくお願
い申し上げます。

〔評〕

線の深淺と筆の開閉、充実した心手一如の
品位のある作。



準大賞

第二部 板倉 恵子



この度は、思いがけなく準大賞を賜り誠にありがとうございました。ご指導下さる師をはじめ、審査くださいました諸先生方、社中の皆様に心から厚く御礼申し上げます。

今回は新古今和歌集より四首を、墨色・墨量・余白のとり方に苦心しながらも、四季の移ろいを感じられるよう優しくやわらかな雰囲気心がけました。

書に携わることが出来る環境と支えてくれる家族に感謝しながら、より一層精進して参りたいと存じます。今後ともご指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉

牙えの有る線質と墨の潤濁、緩急の速度感が窺える秀作。

準大賞

第二部 上野 明美



この度は、栄えある準大賞を賜り、誠にありがとうございました。これも偏に、師匠の温かく熱心なご指導の賜と心より感謝いたしております。仮名文字の美しさ、奥深さに魅せられ、試行錯誤しながら作品を仕上げていく。そんな時間が、私にとって唯一自分だけの世界にひたれる至福の時です。この時間を持てるのは家族の理解と協力あつてこそだと痛感しております。まだまだ未熟ではあります。この受賞を励みとして、より一層の努力、精進をして参ります。今後ともご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

この度は、栄えある準大賞を賜り、誠にありがとうございました。これも偏に、師匠の温かく熱心なご指導の賜と心より感謝いたしております。仮名文字の美しさ、奥深さに魅せられ、試行錯誤しながら作品を仕上げていく。そんな時間が、私にとって唯一自分だけの世界にひたれる至福の時です。この時間を持てるのは家族の理解と協力あつてこそだと痛感しております。まだまだ未熟ではあります。この受賞を励みとして、より一層の努力、精進をして参ります。今後ともご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉

随所に文字の集団と余白を配し、筆致の離れ際が絶妙。

準大賞

第二部 加藤 玉華



この度は、思いがけず栄誉ある準大賞を賜り、驚きと喜びの気持ちで一杯です。これも偏に、熱心に温かくご指導下さいました師をはじめ、諸先生方、書友や家族のお蔭と感謝しております。コロナ禍の大変な状況において、今回は、出品できる喜び、書に取り組める有難さを痛感致しました。その思いを胸に、師の教えである「線の表情」「全体の景色」を意識し、より心を込めて一点一画を大切に作品作りに向かいました。まだまだ未熟ではあります。この賞を励みに一層精進して参ります。有難うございました。

この度は、思いがけず栄誉ある準大賞を賜り、驚きと喜びの気持ちで一杯です。これも偏に、熱心に温かくご指導下さいました師をはじめ、諸先生方、書友や家族のお蔭と感謝しております。コロナ禍の大変な状況において、今回は、出品できる喜び、書に取り組める有難さを痛感致しました。その思いを胸に、師の教えである「線の表情」「全体の景色」を意識し、より心を込めて一点一画を大切に作品作りに向かいました。まだまだ未熟ではあります。この賞を励みに一層精進して参ります。有難うございました。

〈評〉

序盤・中盤・終盤の文字の大小に飄逸さが醸し出される。

準大賞

第二部 加藤 こづみ

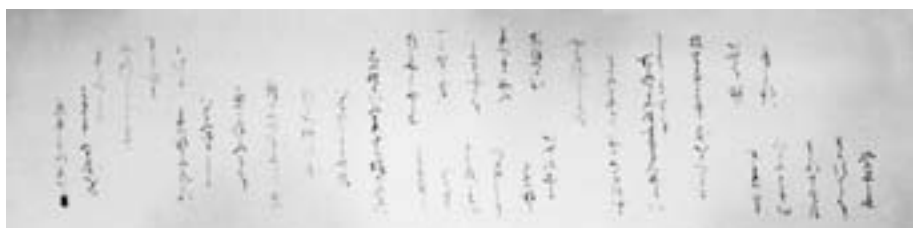
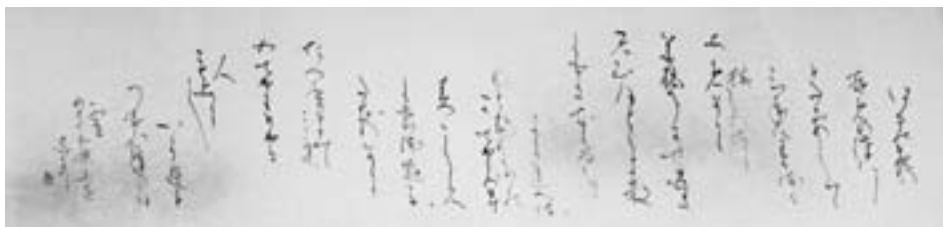


この度は、思いもよらず、準大賞を頂き大変恐縮しております。これもひとえに、ご指導頂いている諸先生方は勿論、支えてくださる先輩方や、共に学ぶ仲間のお陰と思っております。深く感謝申し上げます。

書に関わる年月が増すごとに、難しさ、奥深さに気づかされます。まだまだ未熟な私、真摯に向き合ってお稽古に励む日々ですが、これからも、自分なりに努力して、色々学んでいきたいと思っております。中日書道会の先生方には、今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願ひ申し上げます。

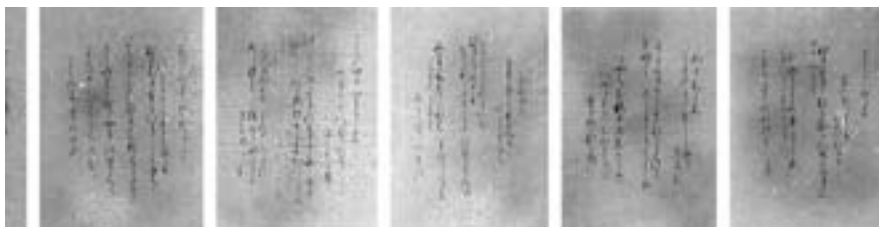
〈評〉

方形の空間取りと文字の膨らみ、行の流れが絶妙。



準大賞

第二部 佐藤悦子

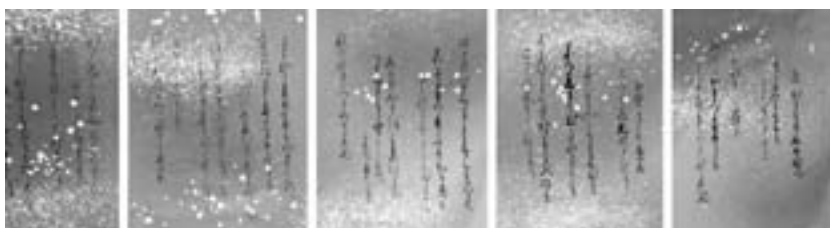


師匠のご指導のもと、長年書道を楽しんできましたが、今回の『準大賞』受賞の報にはただただ驚くばかりです。友人の流れるような「かな文字」を見て、私も書けるようになりたいと思って始めて三十余年。先生の言われる「こつこつ努力」を心がけてきました。とは言え、なかなか実が結びつかない現状ですが、これからも努力を重ね書道を楽しんでいきたいと思えます。準大賞ありがとうございます。ありがとうございました。

〔評〕 染紙に墨の濃淡が映え、古筆を踏まえた見栄えがある。

準大賞

第二部 鈴木裕子



この度は、第七十回記念中日書道展におきまして、準大賞を受賞しましたことは、審査に当たられました先生方は勿論、支えてくださった先生や諸先輩そして家族のおかげであると感謝いたしております。

今回の作品は、馴染みある小倉百人一首を題材にし、鮮やかな料紙を選びました。連続する文字の流れを止めないように勢いよく書きました。まだまだ勉強不足と未熟さを痛感している所ではございますが、今回の受賞は、厳しくも優しいご指導のおかげと感謝いたしております。日々の生活に追われて、なかなか書に向かう時間が少なくなつてはおりますが、少しずつ精進して参りたいと思っております。今後とも、ご指導の程よろしくお願い致します。

〔評〕 凜とした線質と行間処理、文字の配置が極めて上級。

準大賞

第二部 高木愛子

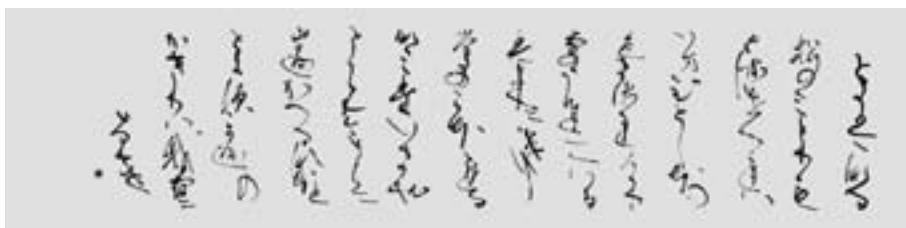


第七十回記念中日書道展に於きまして準大賞を賜りありがとうございます。これも偏にいつもやさしく熱心にご指導下さいました先生始め先輩書友の皆様のお陰と心より感謝申し上げます。思えば仮名の連綿の美しさと小筆が学びたく入門して以来長い年月書きつづけ試行錯誤しながら夢中で練習した頃も有りました。「継続は力なり」と申す通り古筆の臨書を基に色々習得にはげんで参りました。が書の奥の深さ、難しさに改めて痛感するばかりです。今回の作品牧水のうた二首ですが文字の大小、墨の濃淡、行間の余白、カスレなど自分の悪い癖があり注意しながらの作品です。古筆の雰囲気など感じられたらと思います。この賞に恥じぬよう努力を重ねて参ります。今後とも御指導よろしくお願い申し上げます。

〔評〕 大らかでゆつたりとした運筆、落ち着きのある中字仮名。

準大賞

第二部 田中江雨



コロナ下(禍)の中、急に飛びこんできたニュース！友人と会う事もままならず、黙々と家で墨をする毎日だった。中日書道展はそれでも「今年はあるヨ」との話で、私としてはよく頑張ったかな。長く続けていれば(約五十年)いい事もあるもんだな。と考え、コツコツやめずに続けてきて良かったと思う。そろそろ体力の限界も近く、迷うことが多くなつたが恩師、そして仲間たちと楽しく学べた事が一番の長続きした訳(理由)だと思ふ。「ありがたい」と。「言葉に尽きる。本当に『ありがとう』」

〔評〕 渴筆で突き進み独特のまとまり感を醸し出した。

準大賞

第二部 西尾 雅子



この度は、思いもよらぬ大きな賞を頂き、誠にありがとうございます。驚きと喜びと共に賞の重みに身の引き締まる思いを致しております。熱心にご指導頂きました諸先生方、支えて頂きました書友の皆様方に心より感謝しお礼申し上げます。美しいかな文字に魅せられ続けてまいりましたが、かなの世界は奥が深く、より一層の努力を重ねずには到底知る事ができないと、勉強不足を痛感しております。今後は受賞に恥じぬよう、更に精進してまいります。ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕
極めて繊細で且つ柔らかい筆致、紙面構成が心地良い。

準大賞

第二部 福井 芳子



第七十回記念展の年に準大賞を賜わりました誠に有難うございました。これも偏にご指導くださいました諸先生方や書友の方々のおかげがあったお陰と心より感謝申し上げます。コロナ禍の中、在宅時間が増し古筆にゆっくり向き合うことができました。作品は、古今和歌集より取り、行間や墨色の調和を心がけながら散らし書きに致しましたが、未熟さを痛感する日々です。今後も「継続は力なり」の言葉を大切にして精進して参りたいと存じます。よろしくご指導の程お願ひ申し上げます。

〔評〕
細やかな筆さばきと乱れない行立てに安心の妙。

準大賞

第二部 古山 玉扇



この賞がいただけただけのも、ひとえに師匠の厳しくも温かいご指導の賜物と深く感謝いたしております。平成四年春から入門させていただき途中自分の病氣治療のためお稽古を休まなければならぬ時期もあったのですが、社中の皆様の優しい中にも切磋琢磨できる環境に大いに助けられました再開することが出

このたびの書道展におきましては、栄えある賞をいただき誠にありがとうございます。



準大賞 第二部 水野 佑華

この度は、第七十回記念中日書道展におきまして「準大賞」を賜りまして、誠に有難うございます。

これも偏にご指導を頂きました師匠、諸先生方の賜物と心より感謝申し上げます。ここ数年、思うように書けず悶々としており、その中で気持ちを奮い立たせ書きましたので、受

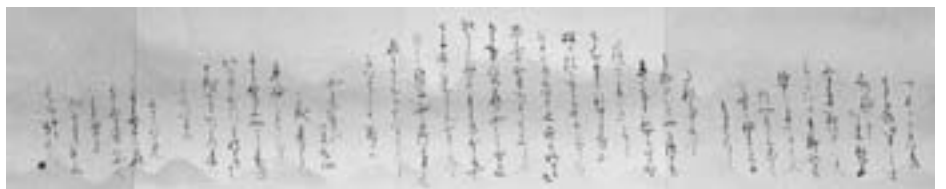


〔評〕
上部の筆さばきは絶妙で、下部との関係が見事に調和。

来、ここまで続けてこられました。

これを新たな出発点として、また初心にかえり精進を重ねてまいりたいと思っております。これからもよろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕
中盤の盛り上がりは行書を交えたベテランの落ち着き。



賞を知った時は嬉しさも一入でした。いただいた表彰を励みとし、現状に満足することなくより一層の精進を重ねて参りたいと思っております。ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

準大賞

第三部 朝井美玲

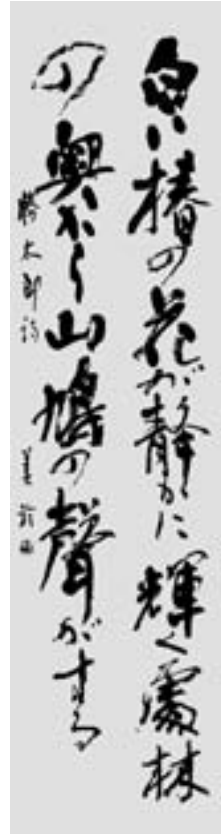


この度は記念すべき第七十回展に於いて、思いもかけない準大賞を頂くことができました。これもご指導社中の皆様のお蔭

ろな事がありました。『継続は力なり』で、ゆっくりマイペースでやってまいりました。このような結果が頂けるとは夢のようです。これを機に精進してまいりますので、今後とも御指導下さいます様お願い申し上げます。有難うございました。

〔評〕

力強く芯の通った姿勢が作品に力強さを与え纏め上げた。



準大賞

第三部 尾崎虹葉

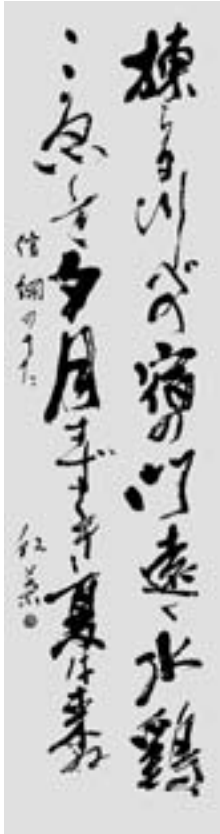


この度は、第七十回記念中日書道展におきまして準大賞を賜りありがとうございます。これもひとえに

中、意欲を失いかけた時期での制作でしたが、先生にご指導を頂くことで何とか完成の運びとなりました。この作品の歌は中学時代、合唱した曲で、その想いが伝わるようチューブで曲を流しながら書いていました。この受賞を励みとし心新たに精進して参ります。今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。

〔評〕

流麗な運筆で紙面全体を覆い尽くして流れを出している。



準大賞

第三部 桜井聖子



この度は、第七十回記念中日書道展において、準大賞をいただきました。誠にありがとうございました。

会情勢が安定しませんが、書作品の発表の場がなくなる経験を経て、改めて表現することの楽しさや、人とのつながりを考える機会となりました。変わらぬに書が続けられることに感謝し、今回の受賞を励みに精進を重ねてまいります。

〔評〕

小気味よいリズムと文字の傾きが作品に一体感を生んだ。



準大賞

第三部 戸田華水



この度は栄えある準大賞を頂き、驚きと喜びで一杯です。これも偏に、幼少より温かくご指導下さいました

会場で自分の作品を見る度にその未熟さを痛感しますが、書が続けることは私の拠り所であり、これからは変わることはいずれもありません。この賞を励みに、美しい詩文を表現できる豊かな線をひけるよう精進して参ります。本当にありがとうございます。

〔評〕

無駄のない運筆が、作品を自然に下方へと導き出している。



ご指導下さった先生と書友の皆様のお陰と心より感謝を申し上げます。

日々の忙しさと新型コロナ感染症が広がる

紅と奈

準大賞

第三部 今井春陽



この度は第七十回という節目の年に準大賞を賜り、誠にありがとうございます。驚きと喜びの気持ちで一杯です。これも偏に暖かく熱心にご指導下さいました。諸先生方を始め社中の皆様、応援して

くれる家族、そして私を書の道へ導いて下さった亡き恩師のお陰と心より感謝申し上げます。

現在、長引くコロナ禍の状況下、誰もが鬱屈した日常生活を強いられています。その中であつても前向きに未来へ向かっていけたらと願いを込めて作品にしました。

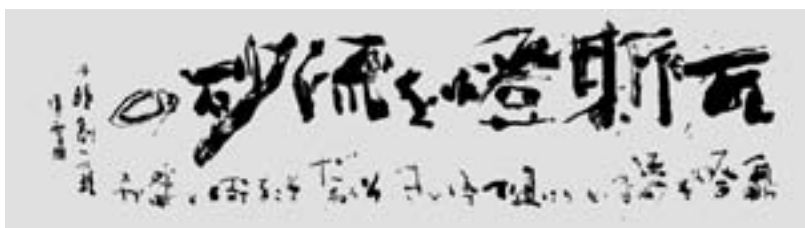
この度の受賞を励みに、より一層精進して参りますので、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

少々突端な運筆が作品に流動感と新鮮さを醸し出している。

準大賞

第三部 塚原清雪



この度は栄えある準大賞をいただき誠に有難うございます。たくさんの驚きと喜びとともに報せを受けとりました。これもひとえに先生、先輩方の指導のおかげと感謝しております。

今回の作品は短歌から選びました。限られた文字を一枚の紙にどう納めるかに苦心いたしました。が、小字の配置は歌われている「植える」ことのように思え楽しく取り組むことができました。

これからも一層努力を続けて参りますので、今後ともご指導よろしくお願いいたします。本当にありがとうございます。

〔評〕

堂々とした「瓦斯燈」からの展開が作品を際立たせている。

準大賞

第三部 福井笙燿



この度は、思いも依らぬ準大賞のお知らせを頂き、感激しております。ありがとうございます。日頃からの先生のきめ細かいご指導のおかげと、感謝しております。

教室の皆さんのやさしさで、長く続けられた事も感謝です。仕事をしながらの書道ですが休日には集中して練習したのも、良かったかもしれません。疲れて今日は無理と思っても、書き出すと止まらなくなるのです。やはり書く事が好きなのだ実感し、自分なりに気持良く書けると疲れも忘れてしまいます。

一字書など、いろいろ教えて頂いて、楽しいものになりました。これからも続けていきたいと思っております。ありがとうございます。

〔評〕

横作品の難しさは行間の響き合いです。見事な調和を成した。

準大賞

第三部 平井華泉



はじめに、長引くコロナ禍の中「第七十回記念中日書道展」開催に向けてご尽力下さいました諸先生方に厚く御礼を申し上げます。

この度は、準大賞という身に余る賞を賜り誠に有り難うございました。

常に師匠より指導されている「見てハッとすする深い線」この線を求め、日々探究し続けて参りました。これからも日頃から温かく御指導下さいます師匠をはじめ、諸先生方、書友の皆様感謝しつつ、歩みの遅い私ではありますがより一層の精進を重ねて参る所存です。今後とも御指導御鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

大きな運腕から振り出す線は紙面を圧倒し慈雨をもたらす。

準大賞

第三部 樋口千修

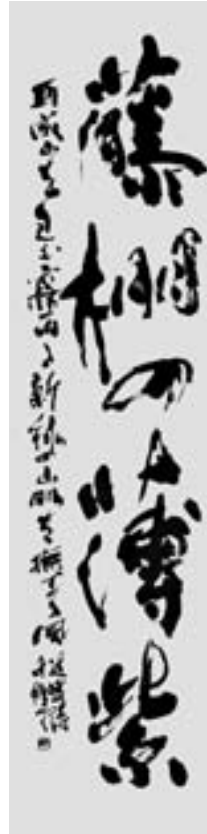


この度、思いがけず準大賞という栄えある賞を頂き、喜びと共に大変身の引き締まる思いです。これも偏に師匠をはじめ、諸先生方の温かいご指導のおかげと深く感謝申し上げます。幼少より書に親しんで参りましたが、作品

づくりは思うようには力不足を痛感するばかりです。墨量や筆の緩急など師匠の教えに留意し、何度も書き込んでやっと出来た作品を評価して頂き大変嬉しく思います。未熟な私ですが、今後も賞の名に恥じぬよう日々精進して参ります。尚一層のご指導をお願い申し上げます。

〔評〕

大胆な構えで書いた「藤棚の薄紫」が作品全体を圧している。



準大賞

第三部 平田光蘭



新型コロナウイルスによる感染拡大により窮屈な日常の中、この様な栄えある賞を賜り驚きと喜びでいっぱいです。私はこの数年、右半身が自由に動かず、この作品も週に二回、理学療法士の治療を受けながら仕上げました。肩の力を抜いて字を書きたくても、筆を握っただけで身体に力が入ってしまう為「それなら、一層のこと力強く、勢よく表現してみよう」と考えを

変え、今回の作品に繋がりました。身体の不自由による精神的苦痛、そして痛みから、何度も書道を辞めざるを得ないと思つた事がありました。師匠そして社中の仲間のお陰で現在があります。この準大賞を喜んでいただけただけの皆様は心より感謝致します。そしてこれからも、賞に恥じぬよう頑張りたいと思います。来年は、ワクチン接種の効果も広がり、日常が戻り従来通りの形で中日書道展が開催される事を心より祈願しております。

〔評〕

隷書的線質と左右への動きが、作品に魅力を与えている。



準大賞

第三部 藤井和彦

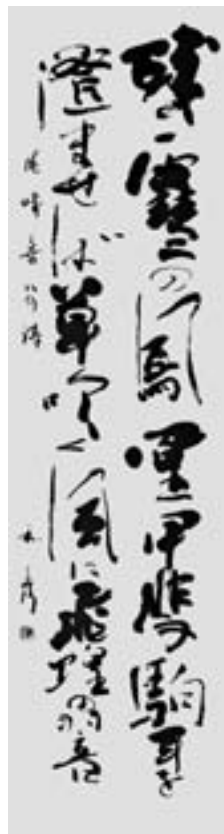


導を頂いた師匠をはじめ諸先輩、書友の皆様のおかげと厚くお礼申し上げます。定年退職後余暇の一環として始めた書道で

したが、早や二十数年が経ちました。書は字の形を考へる前に幅広く古典を学び、線質、潤濁など基礎をしっかりと鍛えなさいとの師の教えに悪戦苦闘の日々ですが、も早や高齢となりました。しかし体力気力が続く限り「書ける喜び」を感じながら、楽しく続けたいと思いますので、今後ともよろしくご指導のほどお願い申し上げます。

〔評〕

表情の豊かな文字群と二行のバランスが絶妙にマッチしている。



準大賞

第三部 堀田孝子



この度は、栄誉ある賞を賜わり誠に有難うございました。これも偏に、丁寧にご指導下さった師と、諸先生方のご厚情と深く感謝いたします。書く事が好きで続けて参りました。以前健康を害し、身も心も折れそうな時、師から心温まる

言葉をかけて頂き、一步一步をモットーに時を重ね今日に至りました。有難く思っています。いつも励まし合い学ぶ、教室の友人たちにも、お礼申し上げます。まだまだ未熟ですが、健康に留意し、長く書を楽しめたいと思います。最後に応援団の家族にありがとう。

〔評〕

安定した造形と筆致が技量の高さを見せ、作品を纏め上げた。



準大賞

第三部 三輪 蘇生



この度は、第七
十回記念中日書道
展におきまして、
準大賞という荣誉
ある賞をいただき
身に余る光栄と感

謝致しております。

これも偏に、師匠をはじめ諸先生の熱い御
指導と社中の先輩の励ましが、私を支えてく

れました。

四歳の頃より通っていた教室は、きちんと
通えない時期もありましたが、細々と続けて
いるうちに生き甲斐になりました。

今後はこの賞に恥じない様、努力精進して
参ります。何卒よろしく御指導賜りますよう
お願い申し上げます。

〔評〕

運腕の大きな筆致と動きが縦横無尽に紙面
を躍動している。

準大賞

第三部 森田 菜香



この度は「第七
十回記念中日書道
展」におきまして
荣誉ある準大賞を
賜りありがとうございます
ございました。これ

も温かくご指導下さいました師匠始め諸先生
方、社中の皆様、家族のおかげと心より感謝
しております。

コロナ禍で一年延期されたため、昨年は思
うように筆が進まず悩んでおりましたが、今
年もう一度題材を変え新たな気持ちでチャレ
ンジできた事がこの賞につながったのではな
いかと思います。

長い間苦しんだ時期もありましたが、この
賞に恥じないように古典を勉強し精進してま
いりたいと思っております。

〔評〕

文字の大小、潤渇の配字を上手く纏めて、
全体のバランスを保った。



準大賞

第四部 片桐 千賀子



この度は、思い
がけない賞をいた
だきました。ご指
導をいただいた師
匠、社中の先輩方、
同門の諸先生方に

感謝致します。

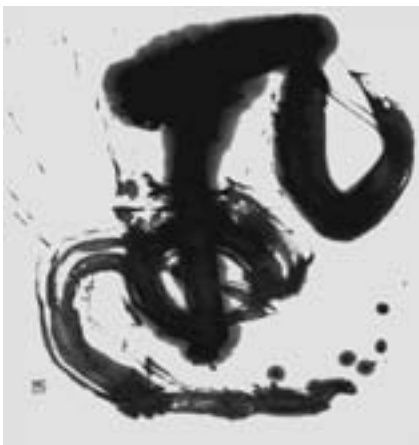
今回出品に取り組みました「迅」の文字
は、迅速とも使われますようにスピード感を
頭に置いて、イメージを膨らませました。書
き出しに墨をたつぷりと用いゆつくりとそし
て徐々にスピードを上げ、最後のしんによう
は一息間を取ってスピードの変化をつけて引
きました。

何枚も書いた中の一枚が荣誉を受けました
こと、心から嬉しく思っております。

この賞を励みとして、一層精進してまいり
たいと思致します。

〔評〕

骨勢ある力強い作品で、堂々と書き上げた
力作。



準大賞

第四部 服部 光峰



この度は準大賞
の栄に浴し、身に
余る光栄と深く感
謝申し上げます。
一報を受けた時は
驚きと感激で胸が

一杯でした。これも偏に厳しくご指導頂いた
師匠及び諸先生方のお陰と感謝いたしており
ます。

「継続は力なり」と申しますが、老後の楽
しみで始めて以来、古典の臨書を中心にコツ
コツと努力を積み重ねて来たことが、今回の
受賞に結びついた事と思います。まだまだ未
熟者ですが老骨に鞭打って一層精進する覚悟
です。今後、一層のご指導を賜ります様お願
い申し上げます。

〔評〕

一気呵成に書き上げた健康観溢れる快作。



準大賞

第四部 宮島 みどり



この度は、第七十回記念中日書道展におきまして、準大賞を頂き、誠にありがとうございました。思いがけない朗報に驚くばかりです。これもひとえに、温かく、時に厳しく、そして根気強くご指導下さいました、師匠をはじめ諸先生、諸先輩方、今まで関わって下さいました多くの方々のおかげと、心より感謝致しております。

今回は「暢」のびる・やわらぐといった文字の意味に心引かれました。また、この文字の持つ偏旁の関わりに魅力を感じ、取り組んで参りました。なかなか思いどおりならず、日頃の臨書学習の重要さを思い知りながら、多くのご指導にみちびかれて、ここまで辿り着くことができました。

この受賞を励みに、これからも書の道に、一層精進努力して参りたいと思います。今後共、よろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。



〈評〉 墨色よく爽やかで、リズム感がある好作品。

準大賞

第四部 吉兼 理樹



この度は、準大賞という思いもかけない素晴らしい賞を賜りありがとうございます。喜びと感謝でいっぱい

です。

私は還暦を目前にして、軽い気持ちで書を始め年数も短く、書に関して全く無知です縦横の線も書けない私をここまで温かく熱心に指導して下さいました師匠、先生方又書友の励ましのお蔭と心より感謝申し上げます。

書は「立ち止まっていると坂道を転げ落ちていく……」を心に留めて、この賞に恥じない様精進していきます。これからも宜しくご指導お願い申し上げます。

〈評〉 気負わず、心静かに書き上げた自然体の作品。



準大賞

第五部 井上 貴文



この度は、中日書道展準大賞という大変名誉ある賞をいただき、身に余る光栄です。今まで未熟な私を支え、導いてくださいました先生をはじめ、諸先輩方、周りの人々に、心より感謝申し上げます。新型コロナウイルス蔓延の折、書道展や文化展の開催すら危ぶまれ、各教室も規模を縮小したり中止になる中、地道に努力してきたことが評価され大変うれしく思いました。今回の入賞を機に、これからも精進してまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻

この度は、第七十回記念の時に栄えある準大賞を賜り、誠にありがとうございます。喜びと共に賞の重みに身が引き締まる思いでいっぱいでございます。これまで熱心にご指導下さいました師匠はじめ、社中の皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。



この度は、第七十回記念の時に栄えある準大賞を賜り、誠にありがとうございます。喜びと共に賞の重みに身が引き締まる思いでいっぱいでございます。これまで熱心にご指導下さいました師匠はじめ、社中の皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

篆刻を始めて二十数年になりますが、方寸の世界に朱白で表現する芸術には魅せられるほどに奥深さを感じ、又作品作りが楽しく感じる様になって来ました。しかしまだまだ勉強不足、研究不足です。今回の受賞を励みに、一層精進して参ります。

を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

〈評〉

白文印は漢印調とし修飾のない美の中に功力を見せ、朱文印は缶廬の鈍刀入石の味わいを出す。



〈評〉 ですので今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〈評〉 妙趣ある章法と迷いのない連刀は独自の世界を作り出し、気品溢れる仕上がりと云った。



準大賞

第五部 高 島 濤 翠



今回の作品は、古代中国西周時代の青銅器に鑄造された金文の、字形の面白さに感動し、筆致を生かして表現致しました。

篆刻の魅力にとりつかれて十年、まだまだ浅学非才な身ではありませんが、栄えある準大賞を賜わり恐縮致しております。この受賞を励みに、今後共精進して参りたいと思います。

最後になりましたが、これまで御指導下さいました師匠をはじめ、温かく支えてくださった

準大賞

第五部 徳 倉 禾 風



この度は栄えある準大賞を戴き、喜びと共に身の引き締まる思いでいっぱいであります。これも偏に熱心にご指導下さっている師匠のおかげと感謝申し上げます。

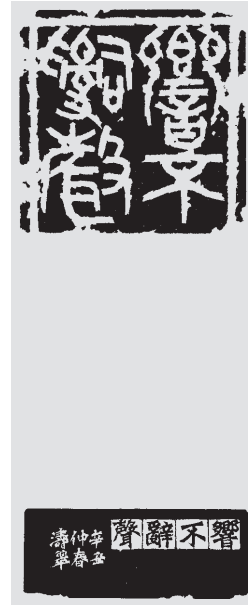
今回の作品「臥薪嘗胆」は、「将来の目標のために今は耐え忍ぶ」という今のコロナ禍の生活に重なりあうものがあります。また、それは自分自身への心の戒めも兼ねております。

今回の受賞を励みとし、今後尚一層精進を致します。今後とも何卒ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

皆様に、心より感謝申し上げます。誠に有難うございました。

〈評〉

内輪郭の下辺を外し印全体の軽重を計り、四字の呼应を見事に表出させた。



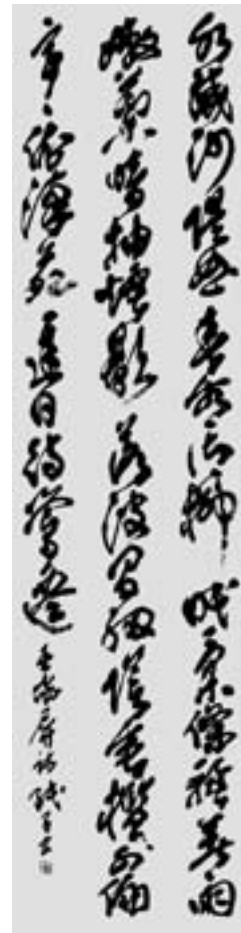
〈評〉

大和古印の雰囲気を見せ、印面の明るさと和やかな表情が好印象。



中 日 賞

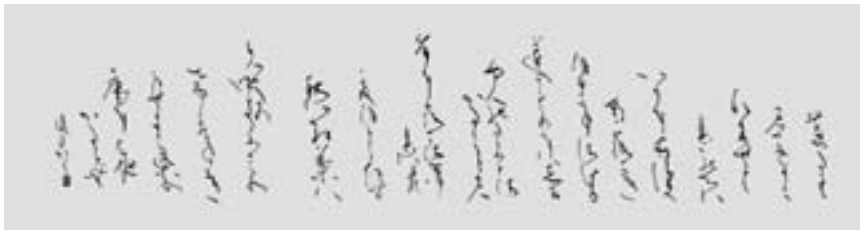
第一部 中日賞 長屋 純子



第四部 中日賞 藤 田 香 志



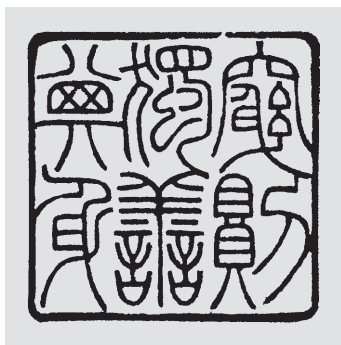
第二部 中日賞 川 本 俊 子



第三部 中日賞 加 藤 貴 咲



第五部 中日賞 斎 藤 矧 川



第一部 桜花賞 高島伸晃

第一部 桜花賞 田崎大秀

第一部 桜花賞 長尾珠泉

第一部 桜花賞 中島千草

第一部 桜花賞 中島千里

第一部 桜花賞 中村彩香

第一部 桜花賞 中村鸞邑

第一部 桜花賞 新津美泉

第一部 桜花賞 西垣玉翠

第一部 桜花賞 野田昌寛

第一部 桜花賞 長谷川緑光

第一部 桜花賞 濱屋大樹

第一部 桜花賞 林松宮

第一部 桜花賞 林萃香

第一部 桜花賞 人見輝泉

第一部 桜花賞 平野煌藍

第一部 桜花賞 平野桃瑠

第一部 桜花賞 藤戸絢春



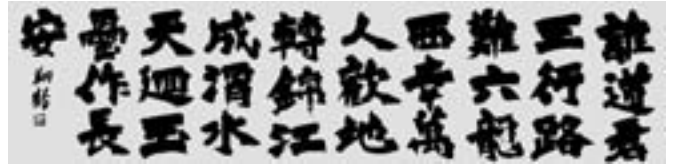
第二部 桜花賞 稲吉 小夜子



第一部 桜花賞 古橋 紀風



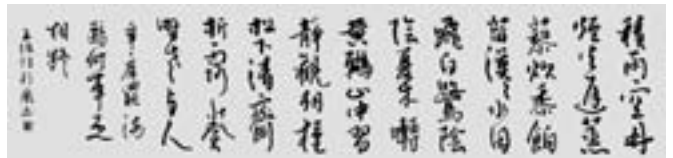
第二部 桜花賞 井上 三保子



第一部 桜花賞 山内 翔鶴



第二部 桜花賞 坂本 裕香



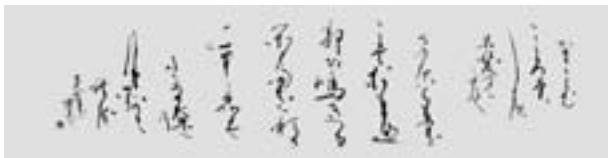
第一部 桜花賞 山口 彩風



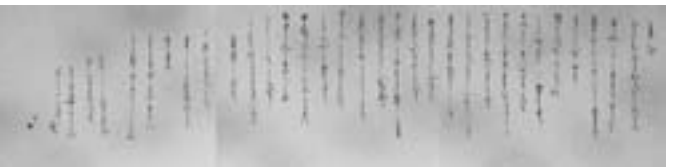
第二部 桜花賞 藤社 葉子



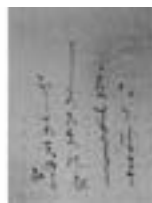
第二部 桜花賞 遠藤 里美



第二部 桜花賞 丹羽 博美



第二部 桜花賞 安井 理恵



第二部 桜花賞 近藤 嘉江



第二部 桜花賞 吉田 千津枝



第二部 桜花賞 小倉 壽子



第二部 桜花賞 吉永 純子

第三部 桜花賞 安藤 絹子
 刀工の建築白の動物
 空間示し樂器白の空風

第三部 桜花賞 石川 桃 露
 互い火成源

第三部 桜花賞 江口 幽 岳
 晩息老おとろへし夕顔
 泣き下り果の樹中いり

第三部 桜花賞 太田 紫 玉
 閑閑の身霧

第三部 桜花賞 奥山 由 紀
 國のよき法蘭西の華
 一色山空雲生し花開き柳地

第三部 桜花賞 神 戸 春 谷
 欄干花は春に落し終りて
 夕陽の光は春の光に似て

第三部 桜花賞 下村 佳 風
 白の春のまよひ

第三部 桜花賞 田中 詩 織
 まよひの山にさくら

第三部 桜花賞 千葉 弘 子
 歴史の流が起る

第三部 桜花賞 萩原 由 希 子
 無なる春の密かな息
 つくしと類の柳の春明か

第三部 桜花賞 堀 脇 明 代
 花子の春の春の春の花
 黄ん色の油を撒きけり

第三部 桜花賞 水野 美 舟
 春の山にさくら

第三部 桜花賞 伊藤 蘭 香
 中霧

第三部 桜花賞 丹 羽 崑 代
 中霧

第三部 桜花賞 高 橋 千 代 子
 城の島

第三部 桜花賞 稲 葉 裕 美
 歌が

第三部 桜花賞 今 村 古 雅
 中霧

第三部 桜花賞 岡 俊 子
 城の島



第三部 桜花賞 清水省子



第三部 桜花賞 梶田汀雨



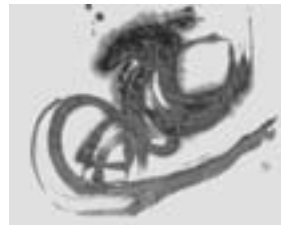
第四部 桜花賞 藤村美穂



第四部 桜花賞 北村義弘



第四部 桜花賞 山崎真理



第四部 桜花賞 黒柳真実



第五部 桜花賞 小島大立



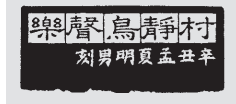
第五部 桜花賞



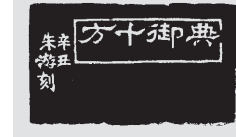
第五部 桜花賞



第五部 桜花賞 鈴木恵草



第五部 内田明男



第五部 安藤朱游



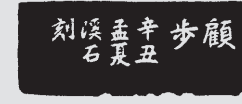
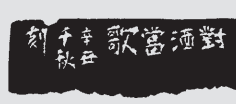
第五部 桜花賞 菱川武



第五部 桜花賞 山村千秋



第五部 桜花賞 帯刀溪石



中日賞・桜花賞作品評

第一部(漢字) 磯谷 凄聴 評 山中 桂山

〈中日賞〉

○長屋 純子

墨量豊かで自在な運筆による躍動感がみごとくっている。

○浅野 揺草

骨格に緩みがなく、平生の精進がうかがえる確かな作。

○安藤 範香

清澄な境地で書きあげた濃厚な書風は品性の高さを生む。

○石川 清秋

軽快な筆線のリズムが快く、爽快感を表わしている。

○板倉 香淵

堅実にゆったりと進む運筆が、作品の深さを生み出す。

○市川 香雪

骨格がしつかりし、文字の大小の変化が秀れている。

○市川 純慧

流麗な流れの中にリズムよく三行をまとめあげた。

○伊藤 彩秀

おだやかな筆意は、淡墨の奥深さを醸し出している。

○伊藤 美扇

骨力のある充実した運筆、最後まで書きこんだ秀作。

○稲垣 輝彩

古法を修得し、疎密を生かした力強さを表現した。

○稲垣 清雅

洗練された筆致で、後半の三行をよく生かしている。

○大石 窓雪

重厚な筆使いによる大胆な表現が見事である。

○大鐘智美未

行ごとの疎密が美しく、軽快に全体をまとめた作。

○岡本 芝苑

潤濁、大小の変化に富み、緩急自在の動きある秀作。

○長船 志保

軽快なリズムで全体をまとめあげ、全体の流れがよい。

○香月 久遠

行間の美しさが際立ち、明るく冴えのある優れた作。

○加藤 文字

緩急鋭く、一定のリズムを保ちながら書きあげた。

○加藤 芳司

重厚な線質を基調とし、豊かな墨量が充実感をもたらす。

○河合 澄香

淡墨で流麗な運筆が心地よく、格調高く表現した。

○栗木 美楓

古典を踏まえ、軽妙に流れる運筆で四行を纏めた。

○後藤 柳月

暢びやかな筆致と安定感のある結体が見どころの作。

○近藤 峻岳

北魏書法を踏まえ、力感あふれる筆線が紙面に広がる。

○酒井 照苑

用筆は自在に活動し、墨色と紙の調和が美しい。

○榎原 春蘭

風趣豊かな筆法。研鑽の深さを感じる格調高い作。

○笹本 菜月

穏やかに流れるリズムが快い。深みと安定感のある作。

○佐藤 彩柳

力強い筆線で全体を統一し、六朝書法の練度が高い。

○佐藤 翠玉

筆力が充実し研鑽の深さと感じさせる品格の高い作。

○佐橋 爽翠

強靱な線と骨格の逞しさが全体に溢れる堂々とした作。

○澤田 未幸

筆意に少しの緩みのない造形が全体を支配した作。

○澤田 蓉風

ゆったりと静かに流れる書線が品性の高さを発揮した。

○杉田 樹石

しつとりと深みのある線質、努力精進の成果を示した。

○杉山 松雅

運腕大きく暢びやかに表現し、真率な気品がある。

○鈴木 翔山

引き締った強い線質、文字の大小、構成の高さが見事。

○鈴木 藍光

筆意は自由で豁達、暢びやかな線条が縦横に躍動する。

○鈴木 麗鳴

しなやかな筆線はほのぼのとした風韻を味わわせる。

○関 春香

紙を切り裂く筆の動きが、気魄みなぎる作となった。

○高島 伸晃

変幻自在の用筆、緩急疎密の変化に高い技量を見る。

○田崎 大秀

重厚で墨量豊かな筆線。最後まで一貫した気力が見事。

○長尾 珠泉

優美な筆致で表現され、淀みのない流れで一貫した作。

○永坂 瑞祥

緩急疎密自在にして、豊かな筆致。行の響き合いも良い。

○中島 千草

四行の多字数を自在な運筆で雅趣溢れる作となった。

○中島 千里

練熟した線条と畳み掛けるような筆勢で、生動感溢れる作となった。

○中村 彩香

字間を効果的に詰め、力強く律動感ある作。

○中村 鸞色

整然とした中にリズム感が漂い、一点一画を大切に書かれた作。

○新津 美泉

淡墨三行大小疎密自在に書かれ、終始一貫した筆脈で良い。

○西垣 玉翠

墨量充分にして文字の配置もうまい。力量豊かな作。

○野田 昌寛

練磨充分の呉昌碩詩稿。大胆な筆捌きで変化に富んだ楽しめる作。

○長谷川 緑光

豊潤な墨量と畳み掛ける様な筆捌きで、存在感を出している。

○濱屋 大樹

変幻自在な筆致の中に空間処理が巧みで、懐の広い作。

○林 松宮

行間も余白も文字の構成において良く考え尽くして表現されている。

○林 荃香

ねばりと深みのある線。字形は様々に変化しているが、バランスを乱さず一貫している。

○彦坂 翠花

練熟した用筆と、大小疎密多彩であり、加工紙と良く合っている。

○真野 桃華

筆力充実の堂々とした作。効果的な空間と振幅ある章法が良い。

○人見 輝泉

筆力充実、文字の大小、墨の潤濁共に神経の行き届いた作。

○平野 煌藍

黄色の冷金箋に一貫した線の強さと、行間がすっきり通った作。

○平野 桃瑤

墨の潤濁をうまく生かし、一字一字を躍動させた作。

○福田 祥光

藤村の詩、強い筆致の中に気負のない運筆で自然な流れを醸し出している。

○藤戸 絢春

北魏楷法を良く咀嚼し、墨量による重厚感があり、正に威風堂々としている。

○古橋 紀風

墨の潤濁、線の伸縮が効果的に表現されていて、爽快感がある。

○外村 幹秀

さわやかな文字の表情が快く目に映る。

○星野 律花

暢びのある線と安定した布置。清雅な風趣を持った格調高い作。

○堀井 翠月

運筆・形態に無理がなく、自然で穏やかな作。

○前川 緋色

単体細字の四行書き。細部までしっかりと書き込んだ落着のある作。

○松尾 心巖

紙に深く入り込んだ強靱な筆力と、豊かな墨量が見事に調和した作。

○真野 桃華

筆力充実の堂々とした作。効果的な空間と振幅ある章法が良い。

○宮崎 芳川

小字であるが一点一画に意を注いだ真摯な作。穏やかな線条が良い。

○森 富華

行草をねばりと深みのある線で作品全体をうまく表現している。

○山内 翔鶴

古典に立脚した造形と筆力充分の筆法が見事な作。

○山口 彩鳳

流暢な書きぶりが最後まで同じ調子で書かれている優品。

○山田 映翠

線の切れ味が鋭く、四行であるが行間が明るく、緊張感のある魅力的な作。

○山本 麻里

墨量多く一字一字に重厚さがあり、最後まで統一感がある作。

○吉川 桃香

力強い筆線で作品全体を表現。最後まで統一した力作。

○吉田 翠竹

流れよく、文字の大小疎密行相互の響きも良い。

○脇田 遊汕

行相互の関連よく、安定感溢れる作。

第二部(かな)馬場 紀行評

〈中日賞〉

○川本 俊子

墨の潤濁による遠近と行の流れ、紙面構成が素晴らしい。

〈桜花賞〉

○稲吉小夜子

朗々と歌い上げるが如く大らかな運筆に目を見張る。

○井上三保子

大胆な筆致と行立てが作品のスケールを更に大きくした。

○遠藤 里美

漢字の用い方が程良いアクトセントとなり全体を纏めた。

○小倉 壽子

少し力みは有るが縦の呼吸は上々。これからの楽しみは限りなくある。

○近藤 嘉江

はんなりとして、行の長短疎密に趣のある上級作品。

○坂本 裕香

線の冴えと行間を広めに取ったゆとりのある秀作。

○藤社 葉子

行の流れが小気味よく、墨量も程よい見事な中字仮名。

○丹羽 博美

変体仮名と漢字行書が違和感無く、見事に溶け合う。

○安井 理恵

一字一字に心が宿り、終盤の変化も素敵な逸品。

○吉田千津枝

この題材を最後まで書き上げた集中力は称賛に値する。

○吉永 純子

やや大きめの文字で無理のない書きぶりは清々しい。

第三部(近代詩文)加藤 裕評

〈中日賞〉

○加藤 貴咲

長鋒を駆使し、直線で纏めた線の美しさが作品にモダンさを見せている。

〈桜花賞〉

○安藤 絹子

力強い筆致と大胆な動きの中にも細やかな運筆を見せられている。

○石川 桃露

ほのぼのとした筆致が作品全体を包み込むような温かさのある作。

○伊藤 蘭香

大胆不敵で大きな運筆が作品に強烈なインパクトを与えた。

○稲葉 裕美

行間の統一感と文字の大小が心憎い。横への拡がりを感じる。

○今村 古雅

呼吸を整えた安定感のある文字群が最後まで貫通している。

○江口 幽岳

屈託のない書き振りと生き生きとした線が作品に新鮮さを与えた。

○太田 紫玉

「開闢の浅霧」の堂々とした書き振りに圧倒された。小字もよく纏めている。

○岡 俊子

右上りを抑えたシャープな直線で作品全体を纏め上げた。

○奥山 由紀

自然な書き振りの中に、技量の高さを見てとれる。流れの美しい作。

○梶田 汀雨

小粒な作ではあるが、腕の確かさが際立つ作に仕上げている。

○神戸 春谷

ボリュウムのある運筆から文字の大小を巧みに編み出した作。

○清水 省子

小気味よいリズムで横へ展開している。余白の美しい作。

○下村 佳風

呼吸の長い運筆から、繰り出される線の魅力が圧巻。

○高橋千代子

「城ヶ島の雨」の大字と小字の調和が心憎い。

○田中 詩織

筆勢を抑制し、ゆったりとした運筆の中で情感が醸し出される。

○千葉 弘子

気迫のこもった「蜃気楼」に作品が奮い立つ。

○丹羽 壹代

伸び伸びとした「霧はれてゆく」の大字から小字へと流れを見せた。

○萩原由希子

どっしりとした構成から生まれる線と安定した造形に趣を感じる。

○堀脇 明代

安定した運筆が行間を美しく見せ作品を纏め上げている。

○水野 美舟

蔵鋒の利いた丸みのある線、豊かな墨量と共に潤いを醸し出す。

○藤田 香志

読みにくさを彷彿させる大胆な作品。お見事。

○北村 義弘

爽やかな好感持てる作で、若さ溢れる快作。

○黒柳 真実

墨色美しく、軽やかな筆使いで、清澄感ある作。

○藤村 美穂

吊り上げた用筆で、流暢なタッチで好感持てる作。

○山崎 真理

堂々とした作で力強さが目を引き、魅力ある作品。

第五部(篆刻)岡野 楠亭評

〈中日賞〉

○斎藤 知川

中央の繁画二字を見せ場として、丁寧な運刀による奇麗精美な線質は緊張感を滲ませる。

〈桜花賞〉

○安藤 朱游

左右の行で繁疎異なる印文を、内輪郭を施すことで渾然一体の融合を生み出した。

○内田 明男

五字句を甲骨文字により鋭い線状と、参差繚繞の構成が新鮮な印象を創り出した。

○小島 大立

衝刀法による素朴な線状が主体の印で、中央に施した垂線がポイントとなっている。

○鈴木 恵草

印篆調にして線に渾厚古樸な深い味わいがある。篆書の筆法の確かさが窺える。

○帯刀 溪石

文字に生命が宿り、筆意と刀意の柔軟な対応が見所である。

○菱川 武

古璽印の風格が漂い豁達な線と空所の古色が対比を見せる。

○山村 千秋

封泥調で文字と外縁の形状が渾然一体となり自然な表情を醸し出す。



市民ギャラリー会場



1 部審査風景

- 秀逸**
 阿部ひろみ
 大野紀舟
- 推 薦**
 石橋遊貴
 大平貴子
- 第三部 (近代詩文)**
 市川兼正
 岡本裕鼎
 神村瑶春
- 推 薦**
 伊吹紅鳳
 加藤由記
 久保田香穂
- 池田宮子
 岩田香翠
 宇野央子
 落合八代栄
 佐合智美
 柴田恵子
 角田登美子
 幅早苗
 水谷孝邨
 安井恵
- 稲村洋春
 宇都野美代子
 小川祥翠
 加藤孝子
 柴田恵美子
 高木由紀江
 西川允子
 平津賀子
 森真由美
 山川節子
- 加藤浩子
 河村友紀
 佐藤美泉
 高津朱美
 原田賀代
 平松明子
 若林いづみ
- 川口和子
 阪本青悠
 鈴木和子
 中紀代子
 伴幸子
 水野葉子
 渡辺桂山

- 特選**
 酒井彩加
 高橋麗水
 福川翠
 守山螢舟
- 準特選**
 浅井尚風
 石井麗
 伊藤雛子
 上田馨星
 太田紫紅
 大橋紅邨
 小川恵秀
 甲斐野美津枝
 加藤敦美
 岸川天翠
 木野瀬陽光
 後藤煌雪
 佐藤健斗
 柴田祥仙
 鈴木和代
 隅田玉枝
 高橋遥菜
 谷川鵬竹
- 菅井榮春
 原田耀山
 前田裕子
 石田恵巳
 梶里沙子
 川口芳雲
 小林青華
 杉村友香
 瀬邊風馬
 武市佳峰
 寺澤明珠
 西川万翠
 林成清
 松浦楊燕
 宮本幸子
 若菜翠月

- 特選**
 石原千砂子
 橋倉詠雪
- 推 薦**
 新井ひろ子
 米田清翠
- 第四部 (少字数)**
 日高節代
- 鶴口夏菜
 梅野春美
 西村克美
 林溪舟
 樋口直美
 船橋明日香
 古澤恵
 松井雲海
 吉田茜湖
- 寺澤茂子
 永井睡蓮
 野村貞美
 林紅甫
 福應節子
 古川智貴
 古田輝美
 森曉雲
- 安保育子
 安藤昭亭
 伊苺恭子
 磯野玲泉
 井浪茉奈
 大川瞳
 岡村延子
 小川裕子
 小林晴子
 近藤芳玉
 多田祐子
 中野ひかる
 橋本華水
 服部麗泉
 服部麗泉
 星智子
 三枝愛実
 山中好輝
 渡邊双輝



名古屋市博物館 2 科会場風景



名古屋市博物館 1 科会場風景



2部審査風景

- | | | | |
|------------|-------|-------------------|-------|
| 平井 祐里 | 安江栄美子 | 中谷ゆかり | 中橋美恵子 |
| 山本 康二 | | 日高 橘扇 | 寶満 祥子 |
| 板倉 虹華 | 加藤 珪風 | 山本 種子 | |
| 川本美由紀 | 杳名 典子 | 第五部(篆刻・刻字) | |
| 小泉 路子 | 榎原 節子 | 推 薦 | |
| 鈴木 裕子 | 柘植 和代 | 貴島 小舟 | 清井富比古 |
| 内藤由美子 | 中島 玲子 | 篠田 仰信 | 永田 正毅 |
| 永見 沙香 | 花井 紅霞 | 特 選 | |
| 皆川 光 | | 今村 禎邨 | 榎並 勝彦 |
| 秀 逸 | | 小林 有希 | 佐藤 敬介 |
| 蟹江 紅水 | | 高槻 和子 | 西岡貴美子 |
| 正野 力 | 佐野 叶子 | 花井 麦雲 | |

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 青木 和馨 | 伊藤 清一 | 太田 柳一 | 小林 枝舟 | 鈴木 悠里 | 古田富美子 | 森本 隆司 | 山田 貴子 | 石原 久義 | 岡本多加江 | 子安 一徳 | 寺本 九齋 | 中野 麦愛 | 牧野 常典 | 青井 愛佳 | 石黒 真泉 | 伊藤 松園 | 犬飼 清真 | 今井 冬葩 | 岩田 祥風 | 植村 静露 | 大島 海舟 | 大山 華穂 | 小川 敦子 | 小川 雄大 | 加治屋有紀 | 加藤 暁山 | 金屋 香穂 | 河合 恵萌 | 河出 長女 | 鬼頭 央 | 青木 迅亮 | 伊藤 徳弥 | 今井 芳悦 | 工藤 敬顕 | 佐藤 裕子 | 羽柴 茂 | 増井 昂波 | 山内 一雄 | 磯谷 明舟 | 磯谷 一雄 | 河村 清香 | 佐々木清香 | 永田 乾石 | 榎宜田景子 | 荒川 白扇 | 石寄 桜花 | 伊藤 祥葉 | 犬塚 結理 | 岩田 彩七 | 上原 清江 | 牛田 光星 | 大林 霞風 | 小笠原寧秀 | 小川 友紀 | 加古 寅起 | 加藤 華容 | 金杉 響 | 荻谷 成美 | 河尻 水鈴 | 喜多村秋香 | 楠森 玄峰 | 小井土裕子 | 児玉 峰月 | 後藤 翠萌 | 近藤 秀宝 | 重野 高棲 | 清水 雅子 | 杉本 和代 | 鈴木 桃苑 | 高橋 暁湖 | 竹市 麗翠 | 武山 春雪 | 棚橋 康子 | 土屋 美加 | 内藤 陽春 | 長澤 優子 | 蜷川 紫石 | 野々垣 悠 | 羽場 美咲 | 早川 翔雲 | 坂 実佳 | 平野 香苗 | 増田 千咲 | 松尾 碧堂 | 水越陽菜子 | 南谷 流泉 | 村瀬 徑秀 | 村田 景純 | 安井 柏陽 | 安江 稲華 | 山田 隆久 | 若山 芝春 | 相崎 実桜 | 朝居かおる | 安部なる実 | 荒井 秋芳 | 飯田 華翠 | 居上 紅滯 | 河野 東光 | 後藤 紅霞 | 後藤 雙華 | 佐橋 美風 | 篠原 桜子 | 杉浦 直照 | 鈴木 如扇 | 住田明花里 | 高森 良鴛 | 武田 芳雨 | 田中 清蘭 | 土森真寿美 | 戸田 美祥 | 中川 春光 | 中村 姫翠 | 野口 瑞葵 | 畑佐 昂佳 | 浜島 明翠 | 林 律翠 | 日高 綺音 | 廣川 蒼岳 | 松浦 華峰 | 松原 信子 | 溝淵 静香 | 武藤 稚利 | 村瀬 静岑 | 村松 翠葉 | 安井美沙子 | 山家 絵美 | 若松 安寧 | 渡會 恵一 | 青野 郁実 | 浅井 孝行 | 天野 清月 | 安藤 雄岳 | 飯野 恵美 | 石井 唯 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|

二科

第一部(漢字)

奨励賞



第71回書きぞめ展優秀作品



愛知県美術館 推薦作品展示会場

今枝	今井	井上	犬飼	稲垣	稲垣	伊藤	伊東	井出	伊勢	石川	石川	石川
翠栄	千寿	美雪	優羽	耀秀	芳辰	里衣	華水	陽子	香花	楓	紗菜	朱里
今村	今井	伊原	犬飼	稲山	稲垣	稲垣	伊藤	井上	一ノ瀬	石原	石川	石川
美玲	麟	妃夏	瑤泉	京香	幸那	入葉	紫眺	上真子	花奈	柏翠	山翠	栄利子
奥谷	小笠	大八	大畑	大橋	大谷	大嶽	大島	江端	内山	打田	植木	井村
彩虹	笠原	木梨	華雪	栖空	祥雨	しず香	千可子	穂香	山紗	楓茄	典子	和孝
小栗	小川	岡崎	大林	大橋	大谷	大谷	太田	大澤	梅村	内田	内田	岩田
淳弘	香風	真理	靖奈	田巳生	はるか	明日香	祥玉	浩子	香園	良子	壮祐	桃雨



3部審査風景

佐藤	佐藤	櫻井	佐久間	佐口	坂口	阪上	近藤	近藤	小松	小西	後藤	小塚	古崎	黄	桑原	黒野	窪田	沓名	木村	木下	北尾	神田	河内	川井	神屋	壁谷	蟹江	加藤	加藤	加藤	加藤	片野	嘉数	小野	小野	小田	
舞奈	有紗	菜奈花	久間日月	結子	丹華	珠基	碧霄	秀月	美子	萩花	千秋	麻菜	友菜	容瑠	実玖	満枝	有桜	博子	香葉	歩美	歌風	真珠	結夢	祥光	敦邦子	清蘭	彩葉	真由美	千愛	栖崖	開	真里	未美	綾女	哲廣		
佐藤	佐藤	笹田	櫻井	作内	坂元	榊原	近藤	近藤	児山	小林	後藤	後藤	児玉	國立	桑原	桑原	久保	沓名	木村	木下	鬼頭	岸	川島	川内	柄澤	神谷	蒲野	兼村	加藤	加藤	加藤	加藤	勝羽	梶原	加賀	小野	鬼塚
美由紀	きよ子	英里	慧泉	星江	恵翠	俊碩	美伶	爽月	浩子	由依	美川	紅葩	富美佳	照雲	蓮咲	卓巳	優華	祥子	西寧	知美	もえ	緑風	愛葉	景雲	信一	美艸	綾扇	紗也加	祐月	希美	清峰	蔵土	栄月	彩瑠	滉將	遥月	佳香
永尾	鳥谷	富田	藤松	勅使	土本	辻	塚田	田淵	谷口	谷口	田邊	田中	田中	田中	多田	竹村	瀧	高松	高橋	高谷	高田	関本	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	杉山	杉山	杉山	杉浦	菅沼	城越	清水	芝田	澤村	佐野
優菜	綾音	千夏	浩規	河原愛弓	桂子	聖漣	章弘	七夏香	優奈	夏鈴	由奈	美景	大翔	光華	汀優	英恵	光瑩	風花	薫麗	允佐年	菜々子	奈興	芳華	大智	和子	凱登	結依菜	瑤華	香雪	叶夢	縷香	歩夢	千鶴	香名	芳茜	廣峰	
中川	中井	外山	徳倉	寺澤	鶴見	土田	辻	玉置	種子	谷口	谷口	田中	田中	田中	館	武井	高松	高橋	高橋	高田	高田	高田	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	杉山	杉山	杉山	杉浦	新貝	清水	島崎	柴田	澤里		
智椰	翔園	優奈	有鄰	藍葉	弘堂	有里子	永恋	奈緒子	島瑞季	貴代子	裕香	昌子	中々美	恋	鈴水	有希	柚花	渚	彩花	幸枝	幸枝	夏朋	義人	望	志保	聡志	朱音	理花	清香	和優	瑞映	朱音	愛心	水僊	梨沙	智美	きよ子
松平	松浦	松井	牧原	前田	堀井	細井	古田	舟元	舟橋	藤原	藤原	福山	福田	深谷	平井	半谷	坂	早野	林	早川	早川	早川	花澤	服部	長谷川	橋本	羽実	野村	野田	野村	丹羽	西尾	西	中西	永田	長瀬	中島
瑤子	湍水	香峰	実夢	峻登	光蘭	真悠子	香風	詩音	亜梨沙	常夫	杉江	仁雅	将大	祐加里	咲良	夏実	夏希	春扇	花恋	桃華	怜志	織歩	紫翠	華風	乾石	祥鳳	婉麗	澄香	愛果	愛果	蒼風	松子	雪奈	真尋	彩乃	輝雪	直苑
松永	松岡	松井	増田	前野	本間	堀	古橋	古澤	舟橋	藤本	藤本	福谷	福士	福士	平松	比良	伴野	原	林	林	早川	早川	服部	長谷川	長谷川	橋部	橋部	野田	野口	丹羽	丹羽	西藤	西浦	中村	中出	中田	中島
翠岳	沙季	如粹	紀花	亜依	賀世枝	友奏	紅希	美夢羽	優典	佳子	恒成	理佳	麗	乙起	遥菜	仁紀	渚紗	渚紗	三知代	香凜	知里	知真	泰斗	叶美	叶美	天音	美憂	真梨華	佳泉	紅翠	啓明	雪花	彩花	和子	佳奈	汀葉	
伊藤	伊藤	板倉	泉	池村	飯田	安藤	足立	秋月	青木	渡部	渡部	分部	頼安	吉峯	吉田	横尾	山本	山室	山田	山田	山田	山田	山口	山内	安永	守山	森	村山	村瀬	村上	宮田	三宅	三井	溝口	水谷	水谷	松村
圭華	暖泰	章子	京華	舞	紫泉	愛桜	大和	颯士	英子	誉子	香扇	鳳翼	美希	理櫻	恵美子	幸子	麗水	彩苔	陸己	津子	知香	典子	泰斗	澄代	遷翠	淑子	佑菜	玲月	庸子	玉葉	春慶	和子	紗世	祐子	文江	壯透	
伊東	伊藤	市川	泉	石川	生田	安福	阿部	浅井	青山	渡辺	渡辺	渡部	若山	依田	吉原	吉川	万木	山本	山吹	山田	山田	山下	山内	矢野	安江	森嶋	森	村山	村瀬	武藤	宮崎	光岡	三井	水野	水谷	三浦	
早織	杏樹	暁子	彩音	秀山	大雅	琴果	明華	優那	悠華	夕月	湖夕	紋菜	小梅	夏実	清華	佳子	桃風	悠菜	桜子	和子	一華	祐生	雀葉	里桜	望樹	心海	真奈香	典孝	称子	矢子	礼堂	紫紀	孝代	朋花	佳乃		

杉本 尚華	白木 友梨	柴田 智香子	澤田 和也	佐藤 清峯	佐々木 映雪	櫻井 翠陽	酒井 直輝	近藤 沙也加	小山 陸斗	小林 伶奈	小寺 美玖	高坂 紀湖	久保 園泰仙	吉川 真琴	北原 明日翔	喜多 清根	木島 美翔	河村 妃菜	川瀬 佑月	河合 代宙	神谷 祥子	金子 紫和	加藤 遊紫	梶谷 まち子	小奈 莓泉	岡田 樹里	大野 剛宏	大角 絲柳	大島 慶瑚	卯之原 龍嗣	岩瀬 ひかり	今中 理栳	今枝 心愛	稲田 夏生	伊東 利紗	伊藤 拓海	伊藤 咲良			
鈴木 うらら	杉浦 克哉	清水 紅花	篠田 湧泉	佐野 麻衣	佐藤 茜雲	酒向 星恵	境 世志枝	齊場 ほの香	近藤 和子	小山 紗知	小林 秋月	幸田 青綺	小出 あゆみ	木根 朋哉	北堀 華暎	北川 実咲	喜瀬 春奈	神戸 春泉	河辺 明日美	川澄 莉子	中野 貴美恵	中西 五十鈴	中浦 亨	鳥居 薫	加藤 教子	加藤 瑤子	小野 坂里楓	奥田 澄流	田村 優名	谷口 華暖	田中 美羽	田所 未羽	田代 鮎美	竹下 萌香	竹内 悟堂	高石 実央	鷺見 桃華	須田 輝翠	鈴木 ののか	鈴木 風彩
松岡 宏昌	松井 真代	増田 梨里	馬込 彩花	細川 詩音	藤田 弥由	福永 天葉	平野 香雪	日置 瑠花	原田 浩伸	林 佑香	早崎 唯	馬場 実	服部 ころ	長谷川 翼	西部 日菜	西尾 春瑠	南谷 瑠莉花	夏目 春園	長濱 樹良	中野 貴美恵	中西 五十鈴	中浦 亨	永井 唯義	戸松 翠城	辻 柑奈	塚越 啓陽	田原 清明	田中 小晴	田中 美羽	田所 未羽	田代 鮎美	竹内 悟堂	武内 太志	高橋 英里	瀬戸 稜平	住 果苑	鈴木 万結	鈴木 慶吾		

松宮 翠玉	馬淵 音羽	三輪 天音	村木 勇介	森 佳奈	諸戸 有彩	安田 七海	柳田 優衣	山内 翠巒	山内 萌歌	山岸 莉子	山崎 遙華	山田 彩和	山田 望星	山田 愛依	横井 千佳	横山 藍里	吉田 則夫	渡邊 亞美	渡邊 桂以子	渡邊 珠希	渡邊 草香	余語 春美	山田 幽寂	山田 菜々	山田 望星	山田 彩和	山崎 咲也香	山内 萌歌	山内 翠巒	柳田 優衣	安田 七海	諸戸 有彩	武内 太志	高橋 英里	瀬戸 稜平	住 果苑	鈴木 万結	鈴木 慶吾
伊藤 大貴	伊藤 敏安	稲積 梅山	今井 彩寧	今枝 祐奈	今村 優里	鵜飼 水影	浦 彩純	大嶋 美輝	大嶋 優海	小笠原 有里	奥田 澄流	小野 坂里楓	加藤 教子	加藤 瑤子	上ヶ平 香川	亀井 咲希	川澄 莉子	河辺 明日美	神戸 春泉	喜瀬 春奈	北川 実咲	北堀 華暎	木根 朋哉	小出 あゆみ	幸田 青綺	小林 秋月	小林 紗知	近藤 和子	齊場 ほの香	境 世志枝	酒向 星恵	佐藤 茜雲	佐野 麻衣	篠田 湧泉	清水 紅花	杉浦 克哉	鈴木 うらら	

第二部 (かな)

豊田 恵子	中嶋 紀久代	中村 侑子	野澤 恵美子	平田 賢子	藤原 さと子	松田 幸子	宮田 昭子	森島 典子	山口 和子	山田 弘子	渡邊 由希子	阿部 真由子	石塚 淳子	打田 り子	鹿山 友子	近藤 向華	島村 寛子	林 八重子	萬代 京	福島 恵香	古橋 葉子	水越 泉聲	横山 栄子	伊藤 ひとみ	上村 寿子	小澤 憂記	立藤 愛唯	中島 ちづ子	松田 真理子	足立 葉子	岩内 すみれ	梅山 瑞加	大山 直美	加藤 シズエ	金沢 節子	近藤 紗也子	下里 園子	杉本 弥奈美												
菅原 佳月	高田 有紗	寺井 嘉有	長尾 有紗	中野 神泉	西田 比呂弥	野田 芳樹	平本 啓恭	古田 ひなせ	三嶋 寿扇	宮島 愛佳	山田 かをる	吉田 玉枝	菅原 潤子	犬飼 菜月	鏡味 洋子	是枝 信也	谷 優来	原田 由美子	平岡 莉那	藤井 亮	細野 真由莉	村田 祥子	菅原 ゆう子	高倉 佳風	田中 寿風	寺尾 あかね	中島 優	成瀬 美景	西村 文乃	坂 翠風	古崎 碧泉	細川 厚子	水野 玉照	村尾 亜子	山田 優	吉原 ゆう子	菅原 潤子	高倉 佳風	田中 寿風	寺尾 あかね	中島 優	成瀬 美景	西村 文乃	坂 翠風	古崎 碧泉	細川 厚子	水野 玉照	村尾 亜子	山田 優	吉原 ゆう子

第三部 (近代詩文)



4部審査風景

菅原 佳月	高田 有紗	寺井 嘉有	長尾 有紗	中野 神泉	西田 比呂弥	野田 芳樹	平本 啓恭	古田 ひなせ	三嶋 寿扇	宮島 愛佳	山田 かをる	吉田 玉枝	菅原 潤子	犬飼 菜月	鏡味 洋子	是枝 信也	谷 優来	原田 由美子	平岡 莉那	藤井 亮	細野 真由莉	村田 祥子	菅原 ゆう子	高倉 佳風	田中 寿風	寺尾 あかね	中島 優	成瀬 美景	西村 文乃	坂 翠風	古崎 碧泉	細川 厚子	水野 玉照	村尾 亜子	山田 優	吉原 ゆう子	菅原 潤子	高倉 佳風	田中 寿風	寺尾 あかね	中島 優	成瀬 美景	西村 文乃	坂 翠風	古崎 碧泉	細川 厚子	水野 玉照	村尾 亜子	山田 優	吉原 ゆう子	
青木 美和	浅井 たみ子	飯田 煌海	池田 剛	伊藤 有澄	伊藤 江里	伊藤 寿美乃	稲垣 三千代	岩瀬 左帆	梅田 栄香	大島 百合子	大霜 花音	青木 美和	浅井 たみ子	飯田 煌海	池田 剛	伊藤 有澄	伊藤 江里	伊藤 寿美乃	稲垣 三千代	岩瀬 左帆	梅田 栄香	大島 百合子	大霜 花音	菅原 潤子	高倉 佳風	田中 寿風	寺尾 あかね	中島 優	成瀬 美景	西村 文乃	坂 翠風	古崎 碧泉	細川 厚子	水野 玉照	村尾 亜子	山田 優	吉原 ゆう子	菅原 潤子	高倉 佳風	田中 寿風	寺尾 あかね	中島 優	成瀬 美景	西村 文乃	坂 翠風	古崎 碧泉	細川 厚子	水野 玉照	村尾 亜子	山田 優	吉原 ゆう子

第七十回記念 中日書道展を終えて

第一事業部長 後藤 啓太

第七十回記念中日書道展は、愛知県美術館ギャラリー愛知県芸術文化センター八階と、名古屋市民ギャラリー栄八階、名古屋市博物館の三会場にて開催しました。

今回は、七十回記念展ということもあり、会場には、記念展特別企画「令和を拓く大作展」、審査顧問、一科審査委員、二科審査委員、依嘱、無鑑査の役員作品と、次回より一科審査員となるための登竜門である記念賞受賞作品。二科審査員となる海部俊樹賞・大賞・準大賞。無鑑査からは中日賞・桜花賞、一科推薦受賞作品。さらに第七十一回中日書きぞめ展学生上位優秀作品と、盛りだくさんの作品で満杯の展示となりました。

「令和を拓く大作展」には、伊藤仙遊理事長、岡野楠亭・加藤裕・松下英風各副理事長をはじめ部長、支部長の企画委員の総勢三十名が、漢字・かな・近代詩文書・一字書・篆刻の作品を思い思いに、八尺(240cm)×六尺(180cm)の大作を出品しました。

来場されたお客様からは、「一年ぶりの

展覧会を楽しみにしていました」「作品の技、錬度の高さ、書の種類の多さに感嘆した」「あまりにも多くの作品群に驚いた」「大作展に圧倒された」「多彩な書体があり見応えがあった」という喜ばしい感想をたくさんいただきましたこと、御礼を申し上げます。

本年、中日書道展は会期を例年の三週間から二週間に凝縮したことにより、各会場をはしごして足を運ばれた方も多かつたようであり、前回よりも観客数が増加し、好評であったことをご報告いたします。

三会場ごとの多数の作品展示は、密を避け人数を減らしての作業となりましたが、担当部長の先生的的確な指示のもと、協賛委員、係の先生方のご協力により整然と美しい展示ができましたこと、深く感謝申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、展覧会はやむ

なく中止となりました。今回は、充分な感

染対策をして開催されましたが、蔓延防止等重点措置の期間内ということもあり、観客数の動向が懸念されました。しかしながら、予想を超える多数の皆様が展覧会場にお越しいただきましたこと、又、書きぞめ展に出品された学生さんのご家族の皆様にも多数ご覧いただきました。重ねて御礼を申し上げます。

次回は更に良い展覧会となりますように、精一杯努力する所存です。

今後とも、ご支援ご協力のほど、宜しく

お願い申し上げます。

《学生指導者の先生方へ》

中日書道展は、現在、高校生も一般部の若年層枠に出品することができます。今回併催しました書きぞめ展には、たくさんのお優秀な学生の皆さんが出品されています。書きぞめ展に出品しながら本展にも出品ができます。

お一人でも多くの生徒さんに挑戦していただくたく、先生よりお勧め下さいますようお願いを申し上げます。



コロナ感染対策実施の受付風景



賑わう第70回記念展

令和 3 ・ 4 年度 公益社団法人 中部日本書道会

新 事 務 局

事務局長 横 井 宏 軒

企画委員長 大 池 青 岑

部	部 長	次 長
1. 総務部	天 野 白 雲	浅井明奈・原 霞扇
2. 庶務部	村 瀬 俊 彦	天野梢華・神谷緑泉・村瀬季舟
3. 第一企画部兼 IT 部	佐 野 翠 峰	伊藤昌園・高桑巖風・鳥居柳城
4. 第二企画部兼 IT 部	上小倉積山	庄田華鳳・新美秋鳳
5. 第一経理部	磯 谷 凄 聴	岩田緑汀・武田晶庭・原賀瑞芳
6. 第二経理部	神 谷 光 園	田口勢望・泉 好子
7. 会員部	内 田 翠 径	伊藤紅樹・五井花径・広井秀琳
8. 第一事業部	後 藤 啓 太	伊高美秀・伊藤昌郷・伊藤小游・伊藤龍仙・川本大幽・奥村三葉・丸山聖峰・溝口子静
9. 第二事業部	馬 場 紀 行	石黒直子・加藤秀慧・川合玄鳳・若杉美香
10. 研究部	廣 澤 凌 舟	内山蘭月・中川星光・三代雄峯
11. 第一教育部	武 内 峰 敏	國島英華・小坂克子・式守白萩・長谷川幽岱・松下聖心・村上史麗・浅井禎香・亀井小琴・清水春蘭
12. 第二教育部	川 崎 尚 麗	土屋春聲・松崎青漣・鷺野紫皇
13. 褒賞部	水 野 峯 翠	相川千涯・関根玉翠・竹内清泉・塚田俊可・原田圭竹・堀部保子・吉澤有岐子
14. 渉外宣伝部	田 中 修 文	榎本翠峰・平 富耀・吉原愛璃
15. 記録統計部	山 中 桂 山	梶山盛涛・衣川彰人・高橋栖雲・松佐古溪水
16. 編集部	林 柏 堂	浅井紅鶴・江川翠苑・築山みなみ・中井港星
17. 厚生部	加 藤 矢 舟	伊藤静雅・倉知葉舟・永谷恵子・長屋天虹
支 部	支部長	支部次長
1. 一 宮	川 浦 碧 濤	村田光柁・吉田桃花・橋本成良
2. 半 田	山 内 江 鶴	杉江花城・林 柏堂・平松采桂
3. 西三河	加 藤 松 雲	磯谷凄聴・加藤矢舟・山岸邦山
4. 東三河	村 井 康 山	皆川嗣恵・山川孝子
5. 濃 飛	三 野 島 凌 雲	中垣幸聲・成瀬伸芳・増田春暉
6. 北 勢	伊 藤 艸 亭	荒木友梅・高橋華堂・中条彰山
7. 中南勢	谷 鴻 風	寺田祐峰・中村翠雲・村林龍鳳
8. 岐 阜	今 田 紅 溪	伊藤小游・鈴木蘭峰・早川 修

※紙面の都合で委員の方については掲載出来ませんでしたので、10月発送の会員名簿をご覧ください。

協賛会員一覧

浅井梧竹堂	452-0823 名古屋市西区あし原町68-1	052-504-2703	金陽堂表具店	471-0076 豊田市久保町3-27-1	0565-32-0863
(株)荒川印刷	460-0012 名古屋市中区千代田2-16-38	052-262-1006	(株)呉竹	630-8670 奈良県奈良市南京終町7-576	0742-50-2050
石黒五雲堂	453-0834 名古屋市中村区豊国通4-46	052-412-7862	(有)高誠堂	440-0804 豊橋市呉服町44	0532-52-5514
(株)一休園	731-4221 広島県安芸郡熊野町出来庭2-2-44	082-854-0019	光文堂(株)	461-0005 名古屋市東区東桜1-3-28	052-961-6866
伊藤大林堂	465-0004 名古屋市名東区香南1-507 長谷川コーポ1F	052-776-1881	小松表具店	485-0831 小牧市東2-544	0568-75-0281
印刷屋九二八(株)	497-0011 あま市七宝町安松13-9-1	052-443-1190	書遊 川口春霞堂	497-0012 あま市七宝町下田四反割2	052-444-8024
ウサミ印刷(株)	451-0066 名古屋市西区児玉1-10-7	052-522-2361	書遊 平野筆墨堂	497-0012 あま市七宝町下田四反割2	052-433-3033
永楽堂	445-0854 西尾市永楽町4-10	0563-54-2053	(有)真清社	460-0007 名古屋市中区新栄1-47-5	052-241-8085
(株)應天堂	501-1172 岐阜市下鵜飼1468	058-239-5200	(株)青柳堂	460-0008 名古屋市中区栄4-1-8 中区役所ビル1F	052-259-0313
(有)岡本頌文堂	510-0081 三重県四日市市北町3-4	059-352-6010	創源工房	458-0034 名古屋市緑区若田3-106	052-629-5035
オフィスイズ	511-0243 三重県員弁郡東員町穴太1248-3	0594-76-3976	(株)大玄堂	500-8289 岐阜市須賀1-8-25	058-271-2662
魁盛堂(株)	451-0063 名古屋市西区押切2-2-13	052-521-3211	大同印刷(株)	501-6241 羽島市竹鼻町3214	058-392-2345
開明株式会社	336-0931 さいたま市緑区原山2-22-20	048-882-1091	中電不動産(株)	460-0008 名古屋市中区栄2-2-5 電気文化会館	052-204-1383
加藤長寿堂	453-0809 名古屋市中村区上米野町4-24 吉田ビル1F 1B号室	052-452-4751	(株)長楽斎筆舗	460-0007 名古屋市中区新栄3-18-24	052-263-4554
(有)伽藍	460-0011 名古屋市中区大須3-8-10	052-242-7741	名古屋キョー和	460-0008 名古屋市中区栄4-2-10 小浅ビル2F	052-263-9401
(有)菊屋商店	460-0007 名古屋市中区新栄2-1-46	052-241-1145	(株)名古屋ホウゴドウ	486-0836 春日井市八事町1-190-3	0568-89-7788
(有)吸月堂	462-0844 名古屋市中区清水2-2-2	052-931-6948	西川堂森表具店	491-0883 一宮市下田2-4-25	0586-72-3629
(有)共栄エージェンシー	468-0069 名古屋市中村区表山3-2418	052-835-6647	(株)美創堂	486-0831 春日井市ことぶき町8-1	0568-81-9236
(株)玉蘭堂	150-0002 東京都渋谷区渋谷1-24-4 渋谷百瀬ビル5F	03-3499-4886	(株)墨運堂	630-8043 奈良市六条1-5-35	0742-52-0310
(株)金工堂	460-0003 名古屋市中区錦3-16-22	052-961-0151	松屋紙店	475-0866 半田市清水北町63	0569-21-2572

令和三年度 公益社団法人 中部日本書道会 総会 議案書 (抜粋)

日 時 令和三年六月二十日(日) 場 所 名古屋観光ホテル

第一号議案 令和二年度事業報告書の承認に関する件

令和二年度 事業 報告

I 書道普及振興事業(公益目的事業1)

1 展覧会事業

(1) 第七十回中日書道展

(2) 新型コロナウイルス感染症防止のため延期
第七十回記念中日書きぞめ展

会 期 令和三年三月十三日(土)～十四日(日)
会 場 ナディアパーク アトリウム

出品点数 一四、〇二〇点

(3) 中日支部学生書道展

① 第四十八回一宮支部学生書道展

② 第五十五回半田支部学童書道展

③ 第五十三回西三河支部学生書道展

④ 新型コロナウイルス感染症防止のため中止

⑤ 新型コロナウイルス感染症防止のため中止

⑥ 新型コロナウイルス感染症防止のため「紙上展」に変更
出品点数 三、七八九点

⑦ 新型コロナウイルス感染症防止のため中止

⑧ 新型コロナウイルス感染症防止のため中止

⑨ 新型コロナウイルス感染症防止のため中止

⑩ 新型コロナウイルス感染症防止のため中止

⑪ 新型コロナウイルス感染症防止のため中止

⑫ 新型コロナウイルス感染症防止のため中止

⑬ 新型コロナウイルス感染症防止のため中止

⑭ 新型コロナウイルス感染症防止のため人数制限

⑮ 「書写書道について」 中村 立強 先生

3 講演会、研修会、研究会事業

(1) 第三十一回書道教育研修会(実技講習会)

日 時 令和二年十月十八日(日)
会 場 名古屋国際センター

内 容

・書道講話

・漢字「行草書の楽しみ」

・少字数「象書に挑む」

参加者 三十名

松下 英風 先生

磯谷 凄聴 先生

波切 童州 先生

参加者 三十名

新型コロナウイルス感染症防止のため人数制限

夏休み毛筆体験教室 新型コロナウイルス感染症防止のため中止

① 第三回手書き文字年賀状コンクール

② 令和三年一月 中日書道会ホームページに入賞作品を掲載

③ 年少者～高校生 参加者 六八五名

④ 講演会

⑤ 本部

⑥ 新型コロナウイルス感染症防止のため中止

⑦ 一宮支部

⑧ 新型コロナウイルス感染症防止のため中止

⑨ 半田支部

⑩ 新型コロナウイルス感染症防止のため中止

⑪ 東三河支部

II 福祉事業(公益目的事業2)

二〇二〇年チャリティー愛の募金

・本部より 中日新聞社会事業団へ二百万円

・東海テレビ福祉文化事業団へ百万円

・各支部より中日新聞社各支局等を通じ、中日新聞社会事業団に寄託

一宮支部より中日新聞一宮総局へ十万円

半田支部より中日新聞半田支局へ十万円

西三河支部より中日新聞岡崎支局へ十万円

東三河支部より中日新聞豊橋総局へ十万円

濃飛支部より中日新聞高山支局へ十万円

北勢支部より中日新聞四日市支局へ十万円

中南勢支部より中日新聞三重総局へ十万円

岐阜支部より中日新聞社会事業団岐阜支部へ十万円

III その他の事業(相互扶助等事業)

1 書道に関する調査研究および発表

調査研究及び発表

新型コロナウイルス感染症防止のため中止

2 書道教育者養成及び普及事業

(1) 書道教育者の推薦制度 四件

(2) 外国研修旅行補助 〇件

3 展覧会事業

(1) 令和二年度書の匠展・第二十九回寿書展

会 期 令和二年十一月十日(火)～十一月十五日(日)

会 場 電気文化会館 東西ギャラリー

出品点数 二一六点

(2) 中日支部展・支部選抜展

① 一宮支部

第六十六回一宮支部展

新型コロナウイルス感染防止のため中止

② 半田支部

第五十四回半田支部展

会 期 令和二年十月十日(土)～十一日(日)

会 場 半田市福祉文化会館

出品点数 八十一

③ 西三河支部

第五十三回西三河支部会員展

会 期 令和三年二月十九日(金)～二十一日(日)

会 場 岡崎市美術館

出品点数 一五四点

④ 東三河支部

第四十四回東三河支部展

新型コロナウイルス感染防止のため中止

⑤ 東三河支部選抜展

会 期 令和三年二月二十三日(火)～
二月二十八日(日)

会 場 豊橋市美術博物館

出品点数 九十三点

⑥ 濃飛支部

濃飛支部展

新型コロナウイルス感染防止のため中止

⑦ 北勢支部

北勢支部展

新型コロナウイルス感染防止のため中止

⑧ 中南勢支部

中南勢支部展

新型コロナウイルス感染防止のため中止

⑨ 岐阜支部

新型コロナウイルス感染防止のため中止

4 講習会・講演会・研究会・研修会事業

(1) 講習会

① 東三河支部

新型コロナウイルス感染防止のため中止

② 北勢支部

新型コロナウイルス感染防止のため中止

(2) 講演会

① 北勢支部

新型コロナウイルス感染防止のため中止

② 中南勢支部

新型コロナウイルス感染防止のため中止

(3) 研究会

① 西三河支部研究会

令和三年三月二十一日(日)

参加者 九十名

(4) 研修会

① 一宮支部

新型コロナウイルス感染防止のため中止

② 半田支部

新型コロナウイルス感染防止のため中止

③ 西三河支部

新型コロナウイルス感染防止のため中止

④ 東三河支部

新型コロナウイルス感染防止のため中止

⑤ 濃飛支部

新型コロナウイルス感染防止のため中止

⑥ 北勢支部

新型コロナウイルス感染防止のため中止

⑦ 中南勢支部

新型コロナウイルス感染防止のため中止

⑧ 岐阜支部

新型コロナウイルス感染防止のため中止

5 福利厚生事業

① 塾総合保険 四十一件 一、四七二名

6 「寿」色紙贈呈

半田支部
新型コロナウイルス感染防止のため中止

7 組織拡大事業

・会員増、各種展覧会出品者増の促進を図った。
・会員章(門章・襟章)の交付

8 広報活動事業

(1) 中日会報

一九六号 令和二年四月一日付け発行

一九七号 令和二年八月一日付け発行

一九八号 令和二年十月一日付け発行

一九九号 令和三年一月一日付け発行

(2) 支部会報

① 一宮支部

四九号 令和二年六月一日付け発行

② 半田支部

八三号 令和二年九月二十七日付け発行

八四号 令和三年二月十日付け発行

③ 西三河支部

七九号 令和二年六月一日付け発行

八〇号 令和二年十二月一日付け発行

④ 東三河支部

七二号 令和二年十月一日付け発行

⑤ 濃飛支部

一〇号 令和三年二月一日付け発行

⑥ 北勢支部

一〇号 令和三年三月二十日付け発行

⑦ 岐阜支部

五五号 令和二年九月二十日付け発行

五六号 令和三年三月二十八日付け発行

(3) ホームページ

ホームページ

随時更新

9 資料文献収集保存事業
継続中

10 書道功労者等顕彰事業
該当者なし

11 記念事業

世界の書の祭典二〇二〇
新型コロナウイルス感染症流行を鑑み中止

IV 管理業務

本会の事業の遂行のため以下の会議をそれぞれ開催した。

1 総会

令和二年六月二十一日(日) ウィンクあいちにて開催
次の議案について審議、原案の通り議決した。

- 第一号議案 令和元年度事業報告書の承認に関する件
- 第二号議案 令和元年度収支決算書の承認に関する件
- 第三号議案 財産目録の承認に関する件

監査報告

2 理事会

・第一回理事会
新型コロナウイルス感染症防止のため書面による理事会
(令和二年五月二十日)

次の議案について、同意書による承認

第一号議案 令和二年度年度総会提出議案について

- (1) 平成元年度事業報告書の承認に関する件
- (2) 平成元年度収支報告書の承認に関する件
- (3) 財産目録の承認に関する件

監査報告

第二号議案 令和二年度総会の日時及び場所並びに目的

である事項の承認に関する件

第三号議案 名誉顧問の承認に関する件

・第二回理事会

新型コロナウイルス感染症防止のため書面による理事会
(令和二年六月八日)

次の議案について、同意書による承認

第一号議案 令和二年度新規事業の実施について

「書の匠展(仮称)」と「第二十九回寿書展」

・第三回理事会

新型コロナウイルス感染症防止のため書面による理事会
(令和二年十二月八日)

次の議案について、同意書により承認

第一号議案 令和二年度評議員会・講演会の中止につい

て

第二号議案 令和三年度「世界の書の祭典二〇二一(仮

称)」の開催について

・第四回理事会

新型コロナウイルス感染症防止のため書面による理事会
(令和三年二月八日)

次の議案について、同意書により承認

第一号議案 令和三年度事業計画(案)に関する件

第二号議案 令和三年度予算(案)に関する件

(1) 収支予算書

(2) 正味財産増減予算書

(3) 事業区分後の正味財産増減予算書

(4) 資金調達及び設備投資の見込みについて

第三号議案 特別昇格者の承認に関する件

第四号議案 正会員の承認に関する件

第五号議案 新役員選考委員の選出に関する件

3 評議員会

新型コロナウイルス感染症防止のため中止(議案書を郵送)
次の事項について報告をした。

(1) 令和三年度事業計画書について

(2) 令和三年度収支予算書について

(3) 特別会員の承認について

(4) 正会員の承認について

(5) 新役員選考委員の選出に関する件について

4 企画委員会

(1) 第一回企画委員会

新型コロナウイルス感染症防止のため中止

(2) 第二回企画委員会

新型コロナウイルス感染症防止のため中止

(3) 第三回企画委員会

令和二年六月二十一日(日) 本部

(4) 第四回企画委員会

令和二年七月十二日(月) 本部

(5) 第五回企画委員会

令和二年九月十三日(日) 本部

(6) 第六回企画委員会

令和二年十月十八日(土) 本部

(7) 第七回企画委員会

令和二年十一月十五日(日) 本部

(8) 第八回企画委員会

令和二年十二月二十日(日) 本部

(9) 第九回企画委員会

新型コロナウイルス感染症防止のため中止

(10) 第十回企画委員会

紙面による企画委員会(令和三年二月)

(11) 第十一回企画委員会

令和三年三月十四日(日) 本部

第3号議案 財産目録の承認に関する件

財 産 目 録

令和3年3月31日現在

総 資 産 額	円	115,115,892 [Ⓐ]
基本財産		30,000,000
運用財産		85,115,892
負 債		4,332,799

		円		
I 資産の部				
1. 流動資産				
①現金預金（運用資産）				
(1) 現 金	金	2,022,063		
		本部 現金		
		一宮支部 現金	240,029	
		半田支部 現金	0	
		西三河支部 現金	102,475	
		東三河支部 現金	43,213	
		濃飛支部 現金	3,805	
		北勢支部 現金	83,380	
		中南勢支部 現金	41,750	
		岐阜支部 現金	2,846	
		現金合計	2,539,561	
(2) 普 通 預 金	金	2,447,864		①- 1
		三菱 UFJ 銀行柳橋支店	84,059	②
		三菱 UFJ 銀行柳橋支店（理）	246,137	③- 1
		三菱 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	4,525	④
		大垣共立銀行菊井町支店	323,413	⑤- 1
		瀬戸信用金庫名古屋支店	48,217	⑥- 1
		一宮支部 ゆうちょ銀行	0	⑦
		半田支部 半田信用金庫	244,986	⑧
		西三河支部 ゆうちょ銀行	298,450	⑨
		西三河支部 中央信組	1,533,596	⑩
		東三河支部 ゆうちょ銀行	50,000	⑪
		濃飛支部 ゆうちょ銀行	291,825	⑫
		北勢支部 ゆうちょ銀行	1,167,956	⑬- 1
		岐阜支部 十六銀行		
		普通預金合計	6,741,028	
(3) 郵 便 振 替	替	857,872		⑭
		本部 名古屋中央郵便局	0	⑮
		一宮支部 郵便振替	459,391	⑯
		半田支部 郵便振替	0	⑰- 1、 2
		西三河支部 郵便振替	18,562	⑱
		東三河支部 郵便振替	1,964	⑲
		濃飛支部 郵便振替	1,872	⑳
		北勢支部 郵便振替	454,348	㉑
		中南勢支部 郵便振替	1,007	㉒
		岐阜支部 郵便振替		
		郵便振替合計	1,795,016	
(4) 定 期 預 金	金	648,000		①- 2
		三菱 UFJ 銀行柳橋支店	202,000	③- 2
		三菱 UFJ 銀行名古屋駅前支店	0	
		大垣共立銀行菊井町支店		
		定期預金合計	850,000	
②前払金（運用資産）		0		
		過払金		
		前払金合計	0	
③未収金（運用資産）		1,578,000		年会費、協賛会費
		未収会費		
		流動資産合計	13,503,605	
2. 固定資産				
①基本財産				
(1) 土 地	地 物	該当なし		
(2) 建 物	金 庫	該当なし		
(3) 基 本 本 証 券	券 具	瀬戸信用金庫名古屋支店	30,000,000	本部 公益目的保有財産 ⑤- 2
(4) 有 価 証 券	券 具	該当なし		
(5) 機 械 器 具	器 具	該当なし		
		基本財産合計	30,000,000	
②特 定 資 産（ 運 用 財 産 ）				
(1) 土 地	地 物	該当なし		
(2) 建 物	物 産	該当なし		
(3) 特 定 資 産	産 金	三菱 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	39,298,869	本部 公益目的保有財産 ③- 3
		三菱 UFJ 銀行柳橋支店	1,150,000	本部 公益目的保有財産 ①- 3
		野村証券岐阜支店	20,133,400	本部 公益目的保有財産 ㉓
国 債（ 2 0 年 ） ※				
本部積立金				
90周年記念事業積立金		三菱 UFJ 銀行柳橋支店	2,700,000	令和6年用 ①- 4
設備拡充資金積立金		三菱 UFJ 銀行柳橋支店	400,000	①- 5
名簿費引当金		三菱 UFJ 銀行柳橋支店	500,000	①- 6
退職給付引当金		三菱 UFJ 銀行柳橋支店	1,266,000	①- 7
支部積立金				
一宮支部70周年記念事業積立金		ゆうちょ銀行	490,000	令和6年用 ⑥- 2

半田支部記念事業積立金	半田信用金庫	200,010	令和 5 年用 ⑦-2
西三河支部55周年記念事業積立金	愛知県中央信用組合	2,000,150	令和 4 年用 ⑧-2
北勢支部40周年記念事業積立金	百五銀行東員支店	150,000	令和 8 年用 ㉔
岐阜支部周年記念事業積立金	十六銀行	200,000	⑬-2
	特定資産合計	68,488,429	
③その他の固定資産 (運用財産)			
(1) 備 品	パソコン	1	本部 公益目的保有財産
	プロジェクター	1	本部 公益目的保有財産
	印章	1	本部 公益目的保有財産
	パソコン	1	本部 公益目的保有財産
	マークシート読取機	1	本部 公益目的保有財産
(2) そ の 他	電話加入権	171,533	本部 公益目的保有財産
	保証金	2,952,320	本部 公益目的保有財産 株式会社桑山
	その他の固定資産合計	3,123,858	
	固定資産合計	101,612,287	
	資産合計	115,115,892	①
3. 負債			
	預り金	86,400	1～3月分源泉所得税
		0	3月分市県民税
		50,506	3月分社会保険料
	預り金合計	136,906	
	前受金	0	
	未払金	4,195,893	荒川印刷ほか
	未払金合計	4,195,893	
	負債合計	4,332,799	

※国債は購入価額で表示してあります (評価額は22,590,420円)。

貸 借 対 照 表

令和 3 年 3 月 31 日現在

科 目	当 期 (A)	前 期 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
	円	円	円	
I 資産の部				
1. 流動資産				
① 現金預金				
現 金	2,539,561	951,511	1,588,050	
普通預金	6,741,028	3,568,575	3,172,453	
郵便振替	1,795,016	657,492	1,137,524	
定期預金	850,000	1,200,000	△ 350,000	
現金預金合計	11,925,605	6,377,578	5,548,027	
② 前払費用				
前払費用	0	0	0	
過払金	0	0	0	
仮払金	0	0	0	
前払金合計	0	0	0	
③ 預り金				
源泉税		0	0	
市県民税		0	0	
社会保険料		0	0	
預り金合計	0	0	0	
④ 未収金				
未収会費	1,578,000	1,444,000	134,000	
流動資産合計	13,503,605	7,821,578	5,682,027	
2. 固定資産				
① 基本財産				
定期預金 公益目的保有財産	30,000,000	30,000,000	0	
② 特定資産				
定期預金 公益目的保有財産	40,448,869	48,948,000	△ 8,499,131	
20年国債 公益目的保有財産	20,133,400	20,133,400	0	
本部積立金	4,866,000	3,772,000	1,094,000	
支部積立金	3,040,160	1,640,050	1,400,110	
特定資産合計	68,488,429	74,493,450	△ 6,005,021	
③ その他の固定資産				
備品 公益目的保有財産	5	421,852	△ 421,847	
電話加入権 公益目的保有財産	171,533	171,533	0	
保証金 公益目的保有財産	2,952,320	2,952,320	0	桑山ビル分
その他の固定資産合計	3,123,858	3,545,705	△ 421,847	
固定資産合計	101,612,287	108,039,155	△ 6,426,868	
資産合計	115,115,892	115,860,733	△ 744,841	
II 負債の部				
1. 流動負債				
預り受金	136,906	199,975	△ 63,069	源泉税、社会保険料ほか
前受金	0	0	0	
未払金	4,195,893	2,662,891	1,533,002	荒川印刷、ウサミ印刷
流動負債合計	4,332,799	2,862,866	1,469,933	
2. 固定負債				
固定負債合計	0	0	0	
負債合計	4,332,799	2,862,866	1,469,933	
III 正味財産の部				
1. 一般正味財産				
正味財産合計	110,783,093	112,997,867	△ 2,214,774	
負債及び正味財産合計	115,115,892	115,860,733	△ 744,841	②
				①

正味財産増減計算書

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

科目	当期 (A)	前期 (B)	増減 (A)-(B)	説明
	円	円	円	
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益				
1 基本財産受取利息	231,378	73,500	157,878	
② 特定資産運用益				
1 特定資産受取利息	244,078	245,394	△ 1,316	
③ 受取会費				
1 理事監事受取会費	462,000	462,000	0	
2 評議員参与受取会費	14,040,000	14,088,000	△ 48,000	
3 正会員受取会費	16,688,000	17,336,000	△ 648,000	
4 準会員受取会費	1,615,000	1,800,000	△ 185,000	
5 協賛会員受取会費	975,000	1,025,000	△ 50,000	
会費収入計	33,780,000	34,711,000	△ 931,000	
④ 未収会費発生額				
1 未収会費	984,000	970,000	14,000	
⑤ 事業収益				
1 寿匠書展参加料	1,290,000	840,000	450,000	
2 支部展参加料	1,069,000	4,998,500	△ 3,929,500	
3 支部学生展参加料	1,885,975	5,051,360	△ 3,165,385	
4 支部選抜展参加料	470,000	300,000	170,000	
5 支部研修会参加料	0	3,021,000	△ 3,021,000	
6 支部講習会参加料	0	0	0	
7 書道教育者推薦教室看板料	100,000	50,000	50,000	
8 塾総合保険料	191,257	198,580	△ 7,323	
9 会員交流参加料	0	0	0	
10 公開講座参加料	122,000	202,000	△ 80,000	
11 書道教育研修参加料	9,000	21,000	△ 12,000	
12 80周年記念事業収入	0	0	0	
13 中日日展収入	0	43,682,700	△ 43,682,700	
14 中日書きぞめ展収入	5,113,220	5,444,660	△ 331,440	
15 愛の募金収入	4,089,000	3,872,000	217,000	
16 本部祝賀会収入	20,000	14,437,000	△ 14,417,000	
17 支部祝賀会収入	70,500	2,244,500	△ 2,174,000	
事業収益計	14,429,952	84,363,300	△ 69,933,348	
⑥ 受取寄付金				
1 受取寄付金	0	0	0	
⑦ 雑収益				
1 普通預金受取利息	23	91	△ 68	
2 会員名簿広告料収入	0	870,000	△ 870,000	
3 宛名ラベル発行手数料収入	150,873	370,518	△ 219,645	
4 負担金収入	40,000	100,000	△ 60,000	
5 感染症給付金等収入	4,838,632	0	4,838,632	
6 雑収入	31,834	18,344	13,490	
雑収益計	5,061,362	1,358,953	3,702,409	
経常収益計	54,730,770	121,722,147	△ 66,991,377	
(2) 経常費用				
① 経常費用				
1 理事監事報酬	1,254,443	1,326,642	△ 72,199	
2 名誉会長報酬	207,400	222,740	△ 15,340	
3 名誉会長代行報酬	0	61,894	△ 61,894	
4 名誉副会長報酬	0	41,260	△ 41,260	
5 学術顧問報酬	111,370	222,740	△ 111,370	
6 企画委員を兼務する評議員報酬	510,543	598,212	△ 87,669	
7 従業員給料手当	4,690,035	4,997,758	△ 307,723	
8 退職金	0	0	0	
9 臨時雇賃金	1,064,250	1,606,385	△ 542,135	
10 福利厚生費	35,766	34,481	1,285	
11 報償謝金	1,886,562	2,654,741	△ 768,179	
12 報償奨励	3,018,170	6,298,022	△ 3,279,852	
13 報償交際	451,093	778,354	△ 327,261	
14 旅費交通費	3,701,645	11,632,810	△ 7,931,165	
15 食糧費	804,319	5,498,650	△ 4,694,331	
16 消耗品費	731,739	1,995,789	△ 1,264,050	
17 印刷製本費	10,826,878	17,756,817	△ 6,929,939	
18 光熱水費	363,287	421,688	△ 58,401	
19 通運搬費	6,261,601	7,204,999	△ 943,398	
20 手数料	1,134,638	778,881	355,757	
21 事務所賃料	7,915,908	7,855,938	59,970	

22	使 用 料	2,908,513	8,870,100	△ 5,961,587
23	消 耗 什 器 備 品 費	0	167,149	△ 167,149
24	租 税 公 課	25,000	48,700	△ 23,700
25	負 担 金	494,400	796,400	△ 302,000
26	委 託 料	262,196	6,164,274	△ 5,902,078
27	寄 託 費	3,800,000	3,910,000	△ 110,000
28	補 助 成	0	0	0
29	法 定 福 利	827,117	991,185	△ 164,068
30	会 員 交 流 費	0	0	0
31	対 外 広 報 費	335,500	8,060,300	△ 7,724,800
32	会 議 費	420,798	4,522,527	△ 4,101,729
33	保 険 料	188,100	242,246	△ 54,146
34	新 聞 図 書 費	38,916	37,032	1,884
35	表 装 保 管 料	340,010	2,646,880	△ 2,306,870
36	本 部 講 演 会 祝 賀 会 費	1,840,000	14,358,806	△ 12,518,806
37	支 部 展 覧 会 講 演 会 費	70,500	2,796,457	△ 2,725,957
38	雜 支 出	0	50,000	△ 50,000
39	什 器 備 品 減 価 償 却 費	421,847	421,848	△ 1
②	未 収 会 費 貸 倒 額	56,942,544	126,072,705	△ 69,130,161
1	未 収 会 費 貸 倒 額	3,000	132,000	△ 129,000
經 常 費 用 計		56,945,544	126,204,705	△ 69,259,161
当 期 經 常 増 減 額		- 2,214,774	- 4,482,558	2,267,784
2.	經 常 外 増 減 の 部			
(1)	經 常 外 収 益 計	0	0	0
(2)	經 常 外 費 用 計	0	0	0
	當 期 經 常 外 増 減 額	0	0	0
	當 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	- 2,214,774	- 4,482,558	2,267,784
	一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	112,997,867	117,480,425	△ 4,482,558
	一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	110,783,093	112,997,867	△ 2,214,774
II	指 定 正 味 財 産 増 減 の 部			
	當 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0
	指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0
	指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0
III	正 味 財 産 期 末 残 高	110,783,093	112,997,867	△ 2,214,774

正味財産増減計算書

(損益計算ベースかつ事業別に区分したもの)
 令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで
 公益社団法人 中部日本書道会

(単位 円)

科目	公益目的事業会計				収益事業等会計	法人会計	合計	備考
	公1	公2	共通	小計	他1			
I 一般正味財産増減の部								
(1) 経常収益								
① 基本財産運用収入								
基本財産運用収入	0	0	231,378	231,378	0	0	231,378	
② 特定資産運用収入								
特定資産運用収入	0	0	244,078	244,078	0	0	244,078	
③ 会費収入								
理事監事会費収入	0	0	231,000	231,000	46,200	184,800	462,000	公50%他10%法40%で配布
評議員参与会費収入	0	0	7,020,000	7,020,000	1,404,000	5,616,000	14,040,000	公50%他10%法40%で配布
正会員会費収入	0	0	8,344,000	8,344,000	1,668,800	6,675,200	16,688,000	公50%他10%法40%で配布
準会員会費収入	0	0	807,500	807,500	161,500	646,000	1,615,000	公50%他10%法40%で配布
協賛会員会費収入	0	0	487,500	487,500	97,500	390,000	975,000	公50%他10%法40%で配布
④ 未収会費								
未収会費	0	0	492,000	492,000	98,400	393,600	984,000	公50%他10%法40%で配布
⑤ 事業収益								
寿書展収入	0	0	0	0	1,290,000	0	1,290,000	
支部展収入	0	0	0	0	1,069,000	0	1,069,000	
支部学生展収入	1,885,975	0	0	1,885,975	0	0	1,885,975	
支部選抜展収入	0	0	0	0	470,000	0	470,000	
支部研修会収入	0	0	0	0	0	0	0	
支部講習会収入	0	0	0	0	0	0	0	
書道教育者推薦教室看板料	0	0	0	0	100,000	0	100,000	
塾総合保険料	0	0	0	0	191,257	0	191,257	
会員交流参加料	0	0	0	0	0	0	0	
公開講座参加料	122,000	0	0	122,000	0	0	122,000	
書道教育研修参加料	0	0	0	0	9,000	0	9,000	

周年記念事業収入	0	0	0	0	0	0	0	
中日展収入	0	0	0	0	0	0	0	
中日書きぞめ展収入	5,113,220	0	0	5,113,220	0	0	5,113,220	
愛の募金収入	0	4,089,000	0	4,089,000	0	0	4,089,000	
本部祝賀会収入	0	0	0	0	20,000	0	20,000	
支部祝賀会収入	0	0	0	0	70,500	0	70,500	
⑥ 寄付金収入								
寄付金収入	0	0	0	0	0	0	0	FAQ VI-1-①
⑦ 雑収入								
普通預金受取利息	0	0	0	0	0	23	23	
会員名簿広告料収入	0	0	0	0	0	0	0	
宛名ラベル発行手数料収入	0	0	0	0	0	150,873	150,873	
負担金収入	40,000	0	0	40,000	0	0	40,000	一言芸術祭交付金 FAQ VI-1-①
感染症給付金等収入	0	0	4,838,632	4,838,632	0	0	4,838,632	コロナ給付金・援助金等
雑収入	0	0	0	0	0	31,834	31,834	
経常収益計	7,161,195	4,089,000	22,696,088	33,946,283	6,696,157	14,088,330	54,730,770	
(2) 経常費用								
理事監事報酬	0	0	0	0	0	1,254,443	1,254,443	
名誉会長報酬	0	0	0	0	0	207,400	207,400	
名誉会長代行報酬	0	0	0	0	0	0	0	
名誉副会長報酬	0	0	0	0	0	0	0	
学術顧問報酬	0	0	0	0	0	111,370	111,370	
企画委員を兼務する評議員報酬	408,435	0	0	408,435	51,054	51,054	510,543	
従業員給料手当	3,752,029	0	0	3,752,029	469,003	469,003	4,690,035	職員給与・賞与
退職給付	0	0	0	0	0	0	0	
臨時雇賃金	957,825	0	0	957,825	106,425	0	1,064,250	臨時職員
福利厚生費	28,614	0	0	28,614	3,576	3,576	35,766	
報償謝金	0	0	0	0	943,281	943,281	1,886,562	各種謝礼/税理士・司法書士等
報償奨励	2,716,353	0	0	2,716,353	301,817	0	3,018,170	賞品代・記念品代/支部賞品代・記念品代
報償交際	0	0	0	0	225,546	225,547	451,093	支部事業交際費/慶弔等
旅費交通費	3,331,481	0	0	3,331,481	370,164	0	3,701,645	作業時交通費等
食糧費	723,888	0	0	723,888	80,431	0	804,319	作業時交通費等
消耗品費	585,393	0	0	585,393	73,173	73,173	731,739	
印刷製本費	5,826,878	1,000,000	0	6,826,878	3,000,000	1,000,000	10,826,878	会報その他
光熱水費	290,631	0	0	290,631	36,328	36,328	363,287	本部事務所電気、冷暖房
通信運搬費	5,009,281	0	0	5,009,281	626,160	626,160	6,261,601	電話、郵送料等
手数料	907,712	0	0	907,712	113,463	113,463	1,134,638	振込料
事務所賃料	6,332,728	0	0	6,332,728	791,590	791,590	7,915,908	本部事務所
使用料	2,326,811	0	0	2,326,811	290,851	290,851	2,908,513	会場使用料等/会議室
消耗什器備品費	0	0	0	0	0	0	0	
租税公課	0	0	0	0	0	25,000	25,000	法人税等
負担金	0	0	0	0	0	494,400	494,400	支部事業支払会費/諸会費
委託料	209,758	0	0	209,758	26,219	26,219	262,196	看板作成等/総会等看板
寄託費	0	3,800,000	0	3,800,000	0	0	3,800,000	愛の募金による寄託 ほか
補助助成	0	0	0	0	0	0	0	外国研修補助
法定福利	661,695	0	0	661,695	82,711	82,711	827,117	職員社会保険、雇用保険
会員交流費	0	0	0	0	0	0	0	
対外広報費	268,400	0	0	268,400	33,550	33,550	335,500	中日新聞ほか掲載料
会議費	0	0	0	0	210,399	210,399	420,798	
保険料	0	0	0	0	0	188,100	188,100	
新聞図書費	0	0	0	0	0	38,916	38,916	
表装保管料	170,005	0	0	170,005	170,005	0	340,010	
本部講演会祝賀会費	0	0	0	0	1,840,000	0	1,840,000	
支部展覧会講演会費	0	0	0	0	70,500	0	70,500	
雑支出	0	0	0	0	0	0	0	
什器備品減価償却費	337,479	0	0	337,479	42,184	42,184	421,847	備品
未収会費貸倒額	0	0	1,500	1,500	300	1,200	3,000	公50%他10%法40%で配布
経常費用計	34,845,396	4,800,000	1,500	39,646,896	9,958,730	7,339,918	56,945,544	
当期経常増減額	△ 27,684,201	△ 711,000	22,694,588	△ 5,700,613	△ 3,262,573	6,748,412	△ 2,214,774	
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 27,684,201	△ 711,000	22,694,588	△ 5,700,613	△ 3,262,573	6,748,412	△ 2,214,774	
一般正味財産期首残高							112,997,867	令和2年3月31日残高
一般正味財産期末残高							110,783,093	
II 指定正味財産増減の部								
一般正味財産への振替額							0	
当期指定正味財産増減額							0	
指定正味財産期首残高							0	
指定正味財産期末残高							0	
III 正味財産期末残高							110,783,093	

財務諸表に対する注記

法人名：公益社団法人 中部日本書道会
事業名：事業全体

1 重要な会計方針

(1)固定資産の減価償却の方法

固定資産の減価償却は、次の方式を採用している。

有形固定資産（建物を除く） 定額法

(2)引当金の計上基準

・職員退職給付引当金

職員に対する退職給付金の支給に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づいて計上している。

(3)リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理によっている。

(4)消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税込経理方式によっている。

(5)保有目的資産の評価に関する会計処理

決算時の保有目的資産に関する評価について、金融機関からの告知があった場合には、その情報を秘匿することなく、計算書類の欄外にて公表するものの、計算書類には取得価額を表記する。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本金	30,000,000	0	0	30,000,000
小 計	30,000,000	0	0	30,000,000
特定資産				
定期預金	48,948,000	1,500,869	10,000,000	40,448,869
20年国債	20,133,400	0	0	20,133,400
本部積立金	3,772,000	1,094,000	0	4,866,000
支部積立金	1,640,050	1,400,110	0	3,040,160
小 計	74,493,450	3,994,979	10,000,000	68,488,429
合 計	104,493,450	3,994,979	10,000,000	98,488,429

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
基本金	30,000,000	(0)	(30000000)	(0)
小 計	30,000,000	(0)	(30000000)	(0)
特定資産				
定期預金	40,448,869	(0)	(40,448,869)	(0)
20年国債	20,133,400	(0)	(20,133,400)	(0)
本部積立金	4,866,000	(0)	(4,866,000)	(0)
支部積立金	3,040,160	(0)	(3,040,160)	(0)
小 計	68,488,429	(0)	(68,488,429)	(0)
合 計	98,488,429	(0)	(98,488,429)	(0)

4 減価償却資産の内訳

備 品	取得年月	法定耐用年数	取得価額	前期末価額	当期償却額	当期末価額
プロジェクター	H20.10	5	119,700	1	0	1
パソコン	H21.01	4	111,025	1	0	1
印章	H26.04	5	500,000	1	0	1
パソコン	H27.01	4	267,116	1	0	1
マークシート読取機	H28.04	5	2,109,240	421,848	421,847	1
合 計				421,852	421,847	5

監 査 報 告 書

公益社団法人中部日本書道会
理事長 伊 藤 仙 游 殿

私たち監事は、令和2年4月1日より令和3年3月31日までの理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他の重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る決算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告の監査結果

一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

令和3年5月9日

監 事 柘 英 樹 (英 峰) ㊟
監 事 廣 澤 孝 博 (凌 舟) ㊟
監 事 水 野 厚 子 (峯 翠) ㊟

公益社団法人 中部日本書道会

第33回 書道教育研修会のご案内

〈実技講習〉

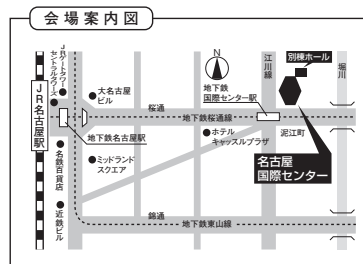
この研修会は、書道教育者の養成及び書道教育の普及を目的として開催します。

- ◆期 日 令和3年10月17日(日)
- ◆会 場 名古屋国際センター 5階第1会議室
名古屋市中村区那古野1丁目47-1 電話〈052〉581-5679
- ◆受 付 9:25~9:40
- ◆内 容 9:45~ 開会式
9:55~ 書道講話 中部日本書道会副理事長 岡野楠亭先生
10:30~12:20 かな 中部日本書道会監事 水野峯翠先生
一かなに親しむ一
12:20~13:30 昼 食
13:30~15:20 漢字 中部日本書道会理事 栢 英峰先生
一北魏楷書を学ぶ一
15:45~16:00 閉会式 修了証授与

●必ず午前、午後共受講して下さい。●実技講習ですので用具一式を持参して下さい。

※但、基本的文具、教材は会場でも販売する予定です。本年は應天堂〈TEL 058-239-5200〉が出店します。

- ◆受講資格 本会会員及び一般
但、本会会員で書道教育推薦看板申請希望者のうち準会員の方は必修です。



公共交通機関を御利用下さい。

- ◆受講料 本会会員 無料
一般 3,000円 (教材費)
- ◆定 員 33名

■会場へのアクセス

- JR/「名古屋」……………下車徒歩7分
- 名鉄/「名鉄名古屋」……………下車徒歩7分
- 近鉄/「近鉄名古屋」……………下車徒歩7分
- 地下鉄/「名古屋」(東山線)……………下車徒歩7分
- 地下鉄/「国際センター」(桜通線)……………下車
- 市バス/「国際センター」……………下車

- ◆申込方法 郵便番号、住所、氏名、電話番号、本会会員資格又は一般の別を明記の上、ハガキ又はメールでご応募ください。FAX又は電話でのお申し込みはお受け出来ません。

【ハガキ応募先】〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号 桑山ビル8階C号室
公益社団法人 中部日本書道会 書道教育研修会係

【メール応募先】 kensyu@cn-sho.or.jp

- ◆申込締切 令和3年9月17日(金) 本部にて申込書到着順に受付します。
定員になり次第締め切りますので早目にお申し込み下さい。

※受講のお知らせは、締切後発送します。

主催 公益社団法人 中部日本書道会・中日新聞社
後援 愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会(申請中)

令和3年度 第25回 書の魅力 公開講座 (予告)

日時: 令和3年11月14日(日) ※書の匠・壽書展最終日 会場: 電気文化会館 イベントホール(5階)

日程: 受付 12:30
開会あいさつ 13:00 (理事長)

第1講座 13:15~14:15

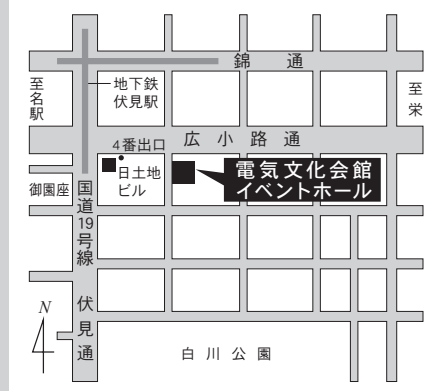
講師: 顧問 片山清洲 先生
演題: 古典を踏まえた作品づくり

休憩

第2講座 14:35~15:35

講師: 理事 武内峰敏 先生
演題: 書の創作要訣

閉会のことば 15:35 (研究部)



令和3年度 書の匠展・第30回記念 壽書展 (予告)

会期: 令和3年11月9日(火)~11月14日(日)

会場: 電気文化会館 東・西ギャラリー

書の匠展

出品対象者

名誉会長・名誉会長代行・名誉副会長・常任顧問・顧問
理事長・副理事長・理事・監事の各先生。

壽書展

出品対象者

令和3年4月1日現在に於いて満70歳以上の参与・評議員・
正会員・準会員・会員外… 第29回展・中日展出品者

お詫びと訂正

二百号記念誌で、案内の読売書法展・毎日書道展当番審査員でお名前前に誤りがございました。両先生にはお詫び申し上げます。訂正させていただきます。

第三十七回 読売書法展(漢字)
誤・菅生 攝山
正・菅生 攝山
第七十二回 毎日書道展(近代詩文)
誤・河合 玄鳳
正・川合 玄鳳

○ 2月中旬	正会員	中村勝子氏	享年65
○ 3月12日	評議員	伴 晋水氏	享年94
○ 4月14日	評議員	安部欽子氏	
	(主人)	安部 實様	
○ 4月15日	副理事長	岡野楠亭氏	享年89
	(母堂)	岡野あさ子様	
○ 5月31日	理事	村瀬俊彦氏	享年97
	(母堂)	村瀬玉枝様	
○ 5月31日	正会員	市川香雪氏	享年82
	(母堂)	結城セツ子様	
○ 6月23日	顧問	中村立強氏	享年98
	(母堂)	中村百代様	
○ 7月3日	協賛会員	(有)伽藍 安藤亨廣氏	

訃報

心より哀悼の意を表し、ご報告申し上げます。(厚生部)

社中展・個展のご案内

第二十一回 清晨会 書展 併設 学生選抜展

代表 吉田清城

会期 十一月九日(火)~十四日(日)

会場 名古屋市民ギャラリー栄 八階 第九・十展示室

※本会会員による書展のご案内を、会報及びHPにて掲載させていただきます。会報掲載には展覧会案内原稿、HP掲載には展覧会案内ハガキをお送りください。尚、展覧会原稿及びハガキは、必ず封書にてお送りください。次号掲載は、十一月下旬~二月中旬開催の展覧会となります。お申し込みは、九月末日までに本部までお願いします。

編集部

あとがき

中日会報二〇一号をお届けいたします。

本号は、東京二〇二〇オリンピックと同様に一年延期となりました『第七十回記念中日書道展』の特集となっております。ご入賞の皆様方には、残念ながら表彰式・祝賀会での栄誉は叶いませんでしたが、ご受賞のお慶びを思い起こして頂ければ幸いです。また、役員改選による新理事長・副理事長はじめ、役員・企画委員のご紹介、総会議案書等、盛沢山となっております。コロナ禍の中、会員皆様への情報の架け橋となる会報発行に、編集部一同変わらぬメンバーで努めてまいりますので、宜しく

お願いいたします。(編集部)

ホームページアドレス
<http://www.cn-sho.or.jp>
メールアドレス
info@cn-sho.or.jp

新入会員紹介 (四月分)

- 本 部 金岩 祐泉
- 深津 早紀
- 松野 悦子
- 一宮 支部
- 藤野 春竹
- 近藤 弘美
- 内藤 栖木
- 松井 香峰
- 森島 光華
- 北勢 支部
- 樋口 ひと子
- 半田 支部
- 奥山 鳳華
- 近藤 貴風
- 岐阜 支部
- 林 八重子